

リンカネート・ビーストTRPG リプレイ

【冬の血脈】

あだしの ともき
化野 知希 (Looshee)

【はじめに】

本誌を手に取ってくださった方に、まず感謝を。

本項は「TRPG」というものが遊ばれた後にできた物語を成形した読み物、「リプレイ」である。TRPGは、今となっては知名度の少ない娯楽ではあるが、読者のみなさんの中には、「艦これTRPG」などでその名を聞いたことがあるかもしれない。しかし、大部分の方は聞いたこともないと思われるので、その説明に紙面を割くことをご容赦願いたい。

「TRPG」とは、現在でも遊ばれているRPG、ロールプレイングゲームの原型である。コンピュータのない時代に発祥したため、すべての処理は紙とペンとダイス

【この欄は？】

ここでは本文の注釈を付けていく。

で行われる。そして、RPGと大きく異なる点は、プレイヤーは1人ではないことだ。

2〜4人のプレイヤー（PLと略される）と、1人のゲームマスター（GMと略される）によって、数時間をかけて遊ばれる。

PLはプレイヤーキャラクター（PCと略される）と呼ばれる自分の分身を作り、そのキャラクターなら今おかれた状況でどういった判断、行動、言動をするのかを逐一話し合い、進行する。

GMはシナリオと呼ばれる、1回のゲーム（アクトやセッションと呼ばれる）のあらすじやノン・プレイヤーキャラクター（NPCと略される）のデータを事前に用意する。そして、セッション中はNPCの操作と、今置かれてい

る状況の説明をしていく。

これらのやりとりでシナリオを進めていき、セッションが終了した時には1つの物語ができています。つまり、リアルタイムで物語を作るこそが、TRPGの醍醐味であるといえる。

これらのさまは、複数のプレイヤーが集うオンラインRPGが近いかもしれない。複数の人々で話し合い、キャラクターになりきって遊ぶという点では、MMORPGと変わらない。

現在有名なTRPGといえば、「ソードワールド」や「ダブルクロス」、「アリアンロッド」や「クトゥルフの呼び声」などがあげられるだろうか。それぞれのタイトルによって世界観は異なり、様々なシステムが出版されている。

【ソードワールド】
魔晶石どーん。
タビットが不遇
と聞いて悲しみに
暮れた。

【ダブルクロス】
HPは飾り、ロイスが残機数。シューティングゲーム。

【アリアンロッド】
完全な獣人は出
ないんですか。個人
的には大好き。

【クトゥルフの呼び声】
お前からマーシャルアーツじゃなくて視認とか聞き耳
取れ！

今回使用されたシステムは私の拙作で、「ブレイド・オブ・アルカナ」という大作ダーク・ファンタジーを（よく言えば）オマーージュして製作している。しかし、あくまでもその製作元であるF・E・A・R・社とは関係がないことは明記しておく。

では、数奇な運命に翻弄された、幼き英雄たちの叙事詩を紐解こう。

【始まり／忘れたころに……】

平成二十六年一月某日。ぼくは試験に向けて勉強に励んでいた。ひとつでも単位を落とすと、色んなモノに羽が生えて飛んでいってしまうからだ。その日もぼくはくたくたになつて帰宅し、パソコンの電源をつけた。

すると、ひとつの通知がスカイプに至った。相手は、わんりゅうさん。以前、拙作TRPGのテストプレイで参加してください、その後、拙作TRPGのGMをしてくださった方だ。だが、そのセッションは途中で参加者が集まれなくなり自然消滅してしまった。わんりゅうさんからの話の内容は、ポシャってしまった卓の代わりに、次の卓を立てないのかとい

【ブレイド・オブ・アルカナ】

聖痕をその身体に宿した刻まれし者が、4つ以上の聖痕を宿し破滅と災厄を齎し続ける殺戮者（マローダー）を倒す、英雄譚をするシステム。どうみてもパクリですありますがどうぞいりました。

【F・E・A・R】

ダブルクロス、リアンロッド、トイキョーN©VANAなど、多くのTRPGを製作している。実は、私はこのゲームがプレイ歴のほとんどを占める。

う話だった。

その当時、ぼくは拙作に対するモチベーションを失いつつあったのだが……。

「え、するんですか？」

「え、しないんですか？」

「……しましょうか」

と、概ねこのような会話で、次の体験会を行うことが決まってしまった。しかし、実際にやるとなると事はオオゴトである。なぜなら、ぼくが作ったこのTRPGは、

人間が出てこない

からだ。しかも、「ヒトの姿はしてるけど魔族なんだー」とか、「猫耳が生えてるんだにゃー」とかではない。完全な人外である。「ケモノ」と呼ばれるサブカルチャーがあるが、まさにそれを扱ったシステム

なのだ。

ヒトにより千差万別ではあるが、ぼくはそのTRPGにおいてケモノを以下のように定義していた（つもり）。

- ・ 人間のような肌を持たない
- ・ 毛皮か、粘膜の肌を持つ
- ・ 人間のような耳、鼻を持たない
- ・ マズル（口吻）、または嘴を持つ
- ・ 音声言語を用い、文化的な生活を営む知性を持つ
- ・ 可能なら指は四肢それぞれ4本

まとめると、二足歩行するオオカミの獣人、四足歩行だが尻尾でものを掴めるネコ……その他、竜や兎、蹄のある動物、鳥、海獣やトカゲ、両生類といった動物の特徴を持つキャラクターしかない

「人間が出てこない」別に人間嫌いじゃないんですけどね。

世界観なのだ。当然、ケモノに嫌悪感を抱くヒトだっているし、そこまでいかなくとも避けるヒトは多い。

：ケモノ好きだがTRPGを知らないヒトを集めてのセッションなら、かつての体験会で行った。しかし最初からTRPGの説明をせねばならないし、PLにも慣れが必要であった。そのため、以前のセッションでは相当な苦戦を強いられていた。

無論、そうなることは分かっていたため、できればケモノとTRPG両方に精通したヒトをお呼びしたかったのだが：：ぼくの人脈の限界から、叶わなかった。

：：その時まで。

そう、わりゆゆうさんにその話を持ちかけられた時には、多くの

ヒトに拙作を紹介し、色々なヒトと繋がることできていた。

同時期に、拙作を高く買ってくれていた某氏から「リプレイがあれば、もっと具体的に分かりやすく紹介できますよ」ともアドバイスを頂いていた。リプレイを書くなら、TRPGを知っている方がきつとよいものができるはず。かくして、ぼくは試験が終了せぬうちから、ツイッターを通じて参加者をひとりひとり口説き落とすことにしたのだ。

【プレアクト】

同年、二月十日は二十一時半。スカイプのグループ会話にて、ぼくやわんりゆうさんが誘った参加者が集まった。GMを担うぼくも含めると、合計五人が一同に会したことになる。

化野…さて、これで全員揃いましたね。今晚はケモノTRPG体験会にお集まりいただき、ありがとうございます！

愛鋼熊…いいいえ、参加の機会をいただきこちらこそごによごによ。化野…まず、初対面の方もかなりおられると思うので、自己紹介をしましょうか。ハンドルネーム、普段しているTRPG、後何か好きなものがあれば一言、という感

じでよろしくお願いします。

では僭越ながら私から。るーしーと申します。普段は「トーカー」や「N◎VA」や「ブレイド・オブ・アルカナ」、**「女神転生TRPG」**、「D&D」などしています。数回しかしたことのないシステムでしたら結構あります。そうですね……怖い物語が好きです。ですのでもネクロニカなどやってみたいとごによごによわんりゆう…何喋ればいいのかろう…：w

化野…普段しているTRPGとか、何か好きなものでいいんじゃないですかw

この時は、皆さん緊張してか無言で、気まずい雰囲気であった。そのため、わんりゆうさんが積極

【トーカーN◎VA】

アーバンアクション。今は5版が出ている。カッコいいセッションをサイバパンクな世界でやりたいならお勧め。

【女神転生TRPG】

女神転生シリーズをベースとしたシステム。ペルソナなど外伝作品を取り込んでお祭り状態になっている。膨大な悪魔データが売り。

【D&D】

元祖TRPG。私が遊んでいたのは3.5版。5版が最近出たらしいが、日本語化の予定はない。

【ネクロニカ】

核戦争後世界で少女アンデッドが百合する。

的に話してくれるのは嬉しかった。

わんりゆう…じゃあ私も紹介させていただきますね。わんりゆうです、TRPGはリアンロードが最初で、そのあとは片道勇者TRPGというものをやっていました。いろんなゲームが好きなので、ゲームの話もしてみたいなと思います。

片道勇者TRPGはフリーゲイムをTRPG化したもので、ケモノが好きの方を集めて頻繁に卓が立っていた、ように思える。わんりゆうさんはその中のひとつでよくGMをしていたようだ。

化野…わんりゆうさんには拙作のテストプレイヤーとして、数回ご

協力していただいてました。では、他の方？

うまに…えーはい。うまにです。絵を描いたり描かなかったりします。いつもはダブルクロス、ネクロニカ、ソードワールドをしています。

うまにさんは、ぼくが誘った方の一人だ。ケモノの絵が大変うまく、その上TRPGやTCGをやられているようなので、ぼくは数か月前から目を光らせて狙っていた。みんなには内緒だよ。

水竜商店…では。水竜商店ともうします。普段は「ゆうやけこやけ」やっています。最近「サタスぺ」とか「キルデスビジネス」とか「ネクロニカ」にも手を出しています

【ゆうやけこやけ】
ほのぼのあったかーるぶれいんぐ。

人間に化ける動物、変化となって町の事件を解決したりしなかったり。ダイスには振らず、キャラになりきるといふ性格が強い。

【サタスぺ】

アジアンパンク。犯罪都市オオサカのチンケなチンピラ、亜侠になって金を稼いだり死んだりする。言われるほど死にやすいとは思わないんだけど、まあ、象に轢かれたら死ぬわな。

【キルデスビジネス】

悪魔のリアリテイションの出演者になつて、隣の人を殺したり殺されたり。

ー。少しでも救いのある話が好きですー。よろしくお願いしまーす。

ほのぼのあったかろーるぷれいんぐ「ゆうやけこやけ」。どこか懐かしい時代の町の人々と温かい物語を紡ぐTRPGだ。水竜さんとはその「ゆうこや」で一緒にさせて頂いた。

愛鋼熊.. いけねえ最後になっちゃった私。愛鋼熊というものです。去年の四月一日、わりりゆうさんの片道勇者TRPG開催に飛び乗ってそのまま片道TRPGばかり遊んでいますw

好きな物はルーニー&煮えロールです。よろしくお願い致します。

わりりゆうさんが見繕ってくれ

た参加者である。愛鋼熊さんは素晴らしい活躍をしてくださるのだが、それはまだまだ後の話。

この後、私はルール・ブックを全員に配布し、世界観や戦闘ルールの説明を始めた。

化野..ケモノたちのダーク・ファンタジー、【リンカネート・ビースト】幼き叙事詩】の説明を始めて。質問があれば適宜どうぞ。

物語の舞台となる世界は、獣人世界フィリッドと呼ばれる世界です。ひとつの大陸とふたつの島からなる世界で、いわゆる人間はいません。そしてこの世界に住ま

う種族ですが、ざっくりいって、狼、猫、兎、ファードラ（毛皮の竜）、馬、鳥、トカゲ、イルカ、蛙の獣人が存在します。それぞれに

【ルーニー】

面白ければ何をやってもらいたいと思ってる人。いやあ、そんなことなかったと思うんですけど。

【煮えロール】

こっぴどくかしい演出をすること。ーあんな演出は脳が煮えてないという意味。

【幼き叙事詩】

あ、そんなサブタイトル付いてたっけ。

固有名詞の種族名がありますが、それは追々。

水竜商店…キツネエ！

化野…狼（コツソ族）の中に、キツネは少数部族として存在しますよ！

水竜商店…やった！

キツネがやれるかやれないか、それは部外者が思うより大事なのだ（！）。

化野…さて、種族間での対立もありませんが、…：それよりも重大なことがあり、協力せざるをえないことが多くなっています。

重大なこととは、この世界は有害な瘴気に包まれ、ヒトビトは瘴気を退ける結界を張った村の中でしか生きられないということです。

瘴気の中には魔物が棲み、結界の中の村をたびたび襲撃します。なぜなら、瘴気の中では植物すら生えることができないため、食料が限られているためです。

このような絶望的な世界の中では、**悔恨**、後悔の念を抱いたまま死ぬ者も少なくはありません。悔恨を抱いて死んだ者の魂は、その悔恨を晴らすために、『ブランド遺痕』という瘵を魂に刻まれて転生することがあります。遺痕を持つ者は『ブランド遺痕者』と呼ばれ、遺痕から常軌を逸した力を与えられます。その力を用いて、悔恨を晴らすことが遺痕者の使命となります。

しかし、時に遺痕者は希望を失い、絶望に囚われてしまうことがあるでしょう。絶望に呑まれた遺痕者は他の遺痕者の魂を奪い取り、

その妄執や妄想のままに災厄をなす『怨痕者』と呼ばれる存在になります。彼らを殺しその魂を輪廻の輪に乗せて救済してやることも、遺痕者の使命となります。

PCは遺痕者となり、時に親しい者の末路となった怨痕者や魔物を倒して、この世界から悔恨を減らす戦いに身を投じることとなります。時にPCは、己の命を賭して戦い、相打ちになることがあるでしょう。そうなってしまっても、PCは輪廻転生し、いつ終わることも知れぬ戦いを続けることとなります。けれど、繰り返し返される一生の中で、縁のあるヒトとは何度も巡り会うことでしょう。PCはそのことを覚えていないかもしれませんが、その魂は覚えていません。その幽かな「縁」を礎にして生

きる遺痕者の、儂く切ない英雄譚を紡いでいくことこそが、このゲームの真髄です。

ここまでで、何か質問はありませんか？

愛鋼熊…一つ質問があります。

化野…どぞどぞ。

愛鋼熊…このTRPG、明確な終わりつてどこなんでしょう。なんか延々と戦い続ける感じではありませんが。

化野…いい質問ですね。この世界で戦う遺痕者たちにとっては、それこそ戦いが終わる日は来ないのかもしれません。

システムの話をすると、このゲームは、キャンペーンよりもモブプレイをメインにして創っています。なので、時々集まって一回完結のシナリオをする感じをイメ

ージしています。

TRPGの遊ばれ方にもいくつか種類があり、キャンペーンという、同じPCとGMで続き物のシナリオをやることを指す。モノプレイというとその逆で、一回のセッションで終わるものだ。

常に同じメンツが何週間も揃うとは限らないため、実際に私の所属するサークルで遊ばれているスタイルを取り込んだのだ。

愛鋼熊…ほうほう、気楽な感じなのですね。

水竜商店…なるほどねー。

化野…です、たぐさんの英雄たちの群雄劇「をやる感じのTRPGです。

愛鋼熊…なるほど、要はある英霊

の長い歴史の一部をやる、そんな感じなのですね。

化野…そんな感じですね、いずれ伝説に語られるような英雄の叙事詩、というイメージで大丈夫です。遺痕者の全盛期は青年期までなので、多くの遺痕者は幼いうちに戦死などにより、その一生を終えてしまいます。そのため、「幼き叙事詩」というサブタイトルが付いているわけです。では、お待ちかねの種族についての説明をしましょうか。

まずはコツソ族から。コツソ族は、犬や狼、狐といった力の強い獣人たちです。ですので、熊などもここに入るかもしれません。信心深く、秩序を大切にする種族です。マオ族（猫）とは過去に戦争

【英霊】

セイバーとかだしねえ……。

をしたため仲が悪いですが、それ以外の種族とは概ね良好です。この世界では人口が二番目に多いメジャーな種族です。

マオ族は猫や豹といった気まぐれな獣人たちです。基本的に旅が好きなき者が多く、数少ない魔法が扱える種族でもあります。彼らはコッソ族とは仲が悪いですが、昔のことに囚われることを嫌うため、だんだんと気にしない者が増えていきます。攻撃魔法が得意なことも特徴です。

ニンス族はウサギ、齧歯類などの知的な獣人たちです。そのほとんどが学者であり、研究以外に興味を持ちません。そのため、別の種族と積極的に関わりあうことは

少ないですが、その研究を利用したい他種族との交流はあります。わんりゅう..ハムちゃんかわいい！

愛鋼熊..とつとこー！

化野..なお、極端に身長が低い種族ですw

クーン族は柔らかい体毛とツノ、翼を持つ格式高い獣人たちです。宗教上の理由により、動物質を口にしません。歴史的にマナを注入されたために魔法が使えるマオ族と異なり、元々魔法が使える種族です。

世界の守護者という役割があり、諍いを嫌います。また、秩序を護るための「シノビ」と呼ばれる忍者集団が存在します。誰かを癒す魔法に長けているのも特徴ですね。なお、今残っているクーン族は

【ニンス族】

ちなみに、ニンス族に齧歯類が追加されたのは、以前のセッシュンでわんりゅうさんから「ハムスターってどこに入ります？」という質問を受けたからである。

【マナを注入】

マオとコッソの大戦（ラグナロク）時、マオは同盟を結んだニンスの技術援助により、大地から汲み上げたマナを人工的に体内に注入した。それにより、大地が腐れ……。

過去の戦争のため、空を飛べない者がほとんどです。

うまに…「ふぁーどら」ですか？

化野…そうです。では続いて、鳥さん。

ワルム族はこの世界に誕生してから間もない、鳥の獣人です。この世界の唯一神から直接生み出された種族で、二度目の戦争を食い止めるために唯一神の使者として降臨しました。その後、そのままこの世界にいついています。そのため、ちよつとずれた感性の持ち主で、日常生活をするための知識が未だ欠けている者が存在します。他種族からは「天使」と呼称され畏敬されていますが、本人たちはもつと「ふらんくな」関係を望んでいるといいます。

愛鋼熊…いいな、これやりたいw

水竜商店…面白そう！

化野…ワルム族大人気w ワルキユーレ的なイメージがありますね、作者的には。

グレス族はウシ、馬、羊など蹄を持つ獣人たちです。草食で旅好き、瘴気の中を旅する行商人「フオーダー」となる者も少なくありません。

争いが苦手で、まず仲直りさせようとする者が多いです。二度目の戦争において、侵略者だったハウチ族とも和平を結ぼうとして多くの者が殺されましたが、ワルム族の降臨後、再び和平を結ぼうとしたことにもそれは現れているでしょう。

このため、決まらずれかの種族の肩を持たない、臆病で平和を愛する者たちと理解されています。

種族と種族の間を取り持つ者たちといえるでしょう。

また、彼らを生み出した始祖神から、「夢を護る騎士」の役目を与えられていた者もいます。彼らは瘴気の闇から暖かな夢を守り、しいてはこの世界を守っています。

ハウチ族は、筋骨隆々で鱗に覆われたトカゲのラチエルと、つるつるの肌で病弱なイルカのデュルフからなります。全く異なる姿ですが、**混血**ではなく違う姿を内包するひとつの種族です。

ラチエルは不愛想で腕力が全て、血の気の多い種族ですが、情に厚く涙に脆い面もあります。彼らは幼いころは尻尾が青いのですが、翼が生えて大人になると子供の青い尻尾を自ら斬って、成人します。

いわゆるドラゴンは、クーン族ではなくこのラチエルが該当するでしょうね。

愛鋼熊…とつかげー！

化野・デュルフは水に浸かっているのと衰弱するほどの力が弱い種族ですが、その分魔力と知力が高く、ラチエルとは正反対と言えます。ラチエルの方が優性遺伝であるため、デュルフは数が少なくハウチ族の中でも迫害されています。ハウチ族は唯一神が既存の種族を試すために生み出させた種族で、侵略者という面があります。そのため、実際二度目の戦争で既存種族を根絶やしにしようとしてきました。このため、他種族からは嫌われていることも多いです。

また、人格的な性別はあるものの、本質的には両性具有で、他者

【混血】

種族ごとに発情期が異なるため、混血児は生まれにくい。混血児は両親よりも屈強になるが、子孫を遺せない。コッソ族は七ヶ月、ニンス族は十一ヶ月が発情周期であり、非常に混血児が生まれにくい。このため、コッソ族とニンス族の混血は「忌み仔」と呼ばれ、災厄か救済しかもたらさないとされる。

に愛情を抱くと食欲となって現れ、
相手を喰らって卵を産むための養
分とする本能があります。

愛鋼熊…なに!!?

水竜商店…こわい…。

化野…べ、別に食べなくなっただけ
いんだぜ…。その本能に抗う者
も、当然ながら多いのですから。

最後に、フルワイ族はカエルや
イモリなど、両生類の獣人です。
彼らは闇を監視するという役割が
あったのですが、闇を見つめすぎ
て闇に魅入られてしまい、現在で
はそのほとんどは魔物になってし
まっています。そのため、魔物で
ないフルワイ族も迫害を受けると
いう事態になっています。

愛鋼熊…こわいw

化野…なお、この世界で「魔物」

というと、瘴気の中で仮死状態に
なったりして、瘴気に適応した生
物のことを指します。魔物になっ
てしまうと、逆に瘴気がないと生
きていけなくなります。

魔物は魔物同士であれば子孫を
遺すことができるので、瘴気に満
ちた地域では異様で全く異なった
生態系ができています。

また、ハウチ族やフルワイ族は
瘴気への耐性が高いため、瘴気で
死なずに魔物になる可能性が高い
ですね。

こんなところでしょうか。他に
何か聞きたいことはありますかw
愛鋼熊…種族はだいたい把握出来
ました。

水竜商店…種族の世界観は大体O
Kです。

化野…了解しました。

この後、全員に白紙のキャラクターシートと、ぼくのPCのキャラクターシートを渡した。それを見てもらいながら、実際のキャラクターデータの大まかな意味の説明に入った。

化野・悔恨は「エングラム」とも読みます。「記憶痕跡」という意味です。キャラクターが輪廻転生を繰り返しても、断片的な記憶は魂に刻まれたまま残ります。それがエングラムです。エングラムは、PCには「知らない記憶」として認識されることとなります。PCたちはエングラムを知ること、既視感にその魂を震わせ、普通ならできなかったことを成し遂げることができるところでしょう。

蛇鎖は「フェイト」とも読みます。これまで、前世・現世関係なくある魂と出会ったという記憶です。袖振り合うも他生の縁、因縁は鎖となつて、転生しても残っているのです。

…平たく言うと、他人に対してのコネや関係性、ということになります。

信念は「パーソナルクエスト」とも読みます。そのキャラクターの根底にある生き方・方針・目的であり、それを成し遂げるように生きていくこととなります。

牙は「レリック」と読みます。遺痕者は生まれつき、レリックと呼ばれる、その遺痕者しか使えな

【ぼくのPCのキャラクターシート】
今思うと、サンプルキャラクターくらい作つとけよ。

【普通ならできなかったこと】
失敗した判定とか。

い武具を持って生まれます。その形・大きさ・重さは様々で、使用時に形を変えることすらあります。レリックはその遺痕者の心の刃であり、遺痕者が成長するとそれに応じて成長するのです。

愛鋼熊…このシステム大好きなんですよ！

化野…それはよかったですw

水竜商店…武器自作か…。

化野…レリックにはサンプルがあるので、それを使うといいでしょう。

愛鋼熊さんはわりゆうさんから話を聞いており、自分だけの武器・レリックのシステムを気に入ってくれていたらしい。

化野…グロウも説明しておきます

ね。遺痕者は一人3つ、「グロウ輝魂」という特別な力を持っています。それぞれセッション中に1度しか使えない、他の特技などよりはるかに強力な力を持つものです。

他者を生き返らせたり、回避不能の攻撃を繰り返したり、願いをかなえたり、様々な「奇跡」を起こすことができます。それは、あなたの「魂の輝きの力」なのです。怨痕者が他の遺痕者の魂を奪うのは、このグロウを奪うためでもあります。

ここまで説明した後、アクトトレイラーとハンドアウトを公開し、各自やりたいキャラクターを考えってもらうことにした。

アニメなどで次回予告というものがあるが、それを踏まえれば「今

「回予告」とでもいうべきものがアクトトレイラーだ。これは、PLたちにいい意味で先入観を持ってもらうためにある。

そして、PLたちにはハンドアウトを見てPCを作ってもらおうことになる。ハンドアウトにはPC1〜4または5までの数字が振られた数行の設定が書いてあり、そのシナリオでPC何番はどういう役回りであるかが書かれている。PLは自分のやりたい役を決めてもらい、そのハンドアウトに沿ってキャラクターを作ってもらおうことになる。

それでは、読者のみなさんにも、シナリオのアクトトレイラーとハンドアウトをお見せしよう。

● アクトタイトル

【すべて、このままに】

● アクトトレイラー

暮れなずむ王国、リヤタ。リヤタは王の統治の下、ささやかな繁栄を得ていた。

そこを去る一人の女。彼女が振り子の刀を手にした時、リヤタの運命は変わった。凍てつく街、動きを止める風車。瞬く間に、リヤタの全ては停止した。

ある者は王国を救うため。ある者は主を救うため。ある者は……。遺痕が彼らを導く先にあるものは？

リンカネット・ビースト、次会う時には、きっと今より幸せに。

●ハンドアウト

PC1

推奨クラス…デュルフを含む混血

蛇鎖…ブライニクル

君はリヤタ王ブライニクルのたった一人の仔だ。毎日、国は貧しいながら平和な暮らしをしていた。しかし、そんな日々は脆くも崩れ去った。氷の女王と名乗ったデュルフに襲われ、凍てつかされた街。すべてが停止したリヤタを、君はたった一人で逃げ出した。助けを求めするため。

シナリオクエスト…リヤタの平穩を取り戻す

PC2

推奨クラス…フオーダー

蛇鎖…ニーチェ

君は瘴気の中を彷徨う行商、フオーダーのひとつ、グリマのフオーダーの一員だ。リヤタへ向かう途中、無数の魔物の群れがリヤタへ侵攻するのを目撃した。君がリーダーや仲間と相談をしている間に、リヤタは魔物に占領されてしまった。皆がうろたえどよめく中、一人の子供が瘴気の中に倒れていることに君は気づいた。フオーダーの仲間であるニーチェは願う。自分とかかわりがあるかもしれない、リヤタを救うことを。

シナリオクエスト…ニーチェの願いを叶える

【シナリオクエスト】

そのシナリオで果たすべき目的。

PC3

推奨クラス…特になし

蛇鎖…「贖罪の重剣」ダスク

君はハイキリヤの村長、ダスクの下で働く遺痕者だ。ハイキリヤでは、暦の上では春のはずなのに全く冬が明けない事態が起こっている。この現象は大陸の北部ほど強く、君をリーダーとした探索隊を、ハイキリヤの北にあるリヤタに派遣することになった。君はかつてリヤタで家庭を持っていたこともあり、自ら志願したのだ。不安を胸に、君は旅立った。

シナリオクエスト…明けない冬の真相を探る

PC3には以下の追加設定が付く。

「君はかつてリヤタでデュルフの妻を持っていたが、そのためにリヤタを追われた」

PC4

推奨クラス…クラス確定済

シナリオフェイト…氷の女王

君は氷の女王に育てられた魔物だ。生まれた時から魔物であり、周りは皆魔物であった。だから、氷の女王の言うままにリヤタに攻め入った。…：：けれど、こうしてヒトを殺すなんて、本当に正しいのだろうか？ 君は、氷の女王の下を居づらく感じ始めていた。シナリオクエスト…ヒトとしての正義を成す

PC4には以下の追加設定が付く。
「シャドウ／デュルフ・PC3のトライブ」

【プレアクト】

化野（以下、HL）..それでは、セ
ッションを始めます。

一同..よろしくお願ひしましす。
HL..ではまずタイトルから。タ
イトルは【すべて、このままに】
です。続けて今回予告を。

暮れなずむ王国、リヤタ。リヤ
タは王の統治の下、ささやかな繁
栄を得ていた。そこを去る一人の
女。彼女が一振りの刀を手にした
時、リヤタの運命は変わった。
凍てつく街、動きを止める風車。
瞬く間にリヤタの全ては停止した。
ある者は王国を救うため。ある者
は主を救うため。ある者は...。
遺痕が彼らを導く先にあるもの
は？

リンカネート・ビースト、次会
う時には、きっと今より幸せに。

HL..それでは皆さん、自己紹介
どうぞ。

うまに（以下、ビルギット）..リヤ
タの第一王位継承者、ビルギット。
十二才の男です。クラスはマギア
ー/デュルフ・マオ/フォークで
す。左足の付け根に剣と杯を象つ
た紋章があります。

水竜商店（以下、フロレンツイ
ア）..フロレンツイア//ウインチェ
スター、十六歳の女性です。
クラスはヴェシル・フォード
ー/ワルム/ウイング・フォークで
す。フォードの一員として旅を
しています。

【HL】
ヘイズルーンの
略称で、リンカネ
におけるGM。

【リヤタ】
リンカネの舞台
となる世界の大陸
で極北に位置する。
そのため昼でも黄
昏っており、雪が消
えるのは春のみ。

【ビルギット】
マギアーは攻撃
魔法使い、デュルフ
はイルカ人、マオは
猫人、フォークは二
足歩行を表す。種族
を表すクラスを2
つ取得しているの
で、混血である。

【フロレンツイア】
ヴェシルは回復
魔法使い、ワルムは
鳥人、ウイングは飛
行していることを
表す。

【フォード】
瘴気に包まれた
世界で行商を行う
旅人の一団。村を追
われたりしたはぐ
れ者の集まりだ。

愛鋼熊（以下、アモウレ）…アモウレはベヒリツヒ、三十二歳。両足が機械式義足のグレス族のオスです。クラスはナツクル／グレス／ギアです。

何よりも守ることを第一としながら、いざという時の拳は固く握られている、とそんな感じでした。遺痕は右腕手首に十字紋様です。

わんりゆう（以下、シヤス）…シヤスはオルキス、十歳の男。クラスはシヤドウ／デュルフ・グレス／マリンドです。魔物の集団「流水」の一員です。

見た目はシヤチの姿で、足などもないので完全にシヤチです。陸を歩くときは下にガラスの水晶の靴が浮いているのだとか、間に義足が入っているかしていると思いま

す。遺痕者なのでそれなりに信念はありますけど、言動、行動ともに悪ガキですね。

HL…ありがとうございます。では早速、セッションを始めましょう。最初のシーンは、マスターシーンとなります。聞くだけになってしまいますので、さっさと終わらせてしまいますね。

● シーン1 【墮天】

瘴気渦巻く闇の中。一人の鱈のある女性が立っている。その髪は氷のように蒼く、そのまなこは白目が黒く、黒目は赤かった。「どうして…：こくなってしまっただんでしよう。あの仔を、あんな姿にして」

彼女の前には、一振りのあまり

【アモウレ】

ナツクルは格闘家でパーテイの盾、グレスは馬人、ギアは体の一部あるいは全部が機械であることを表す。彼の場合は両脚が機械仕掛けの義足。

【シヤス】

シヤドウは魔物、マリンドは水棲であることを示す。魔物は瘴気に適応し、逆に瘴気なしには生存できなくなった生物である。

【シーン】

映画のシーンと似たようなものがある。ある出来事をカットした一片で、そのシーンごとに主人公がいる。その主人公をシーンプレイヤーという。シーンプレイヤーがいない場合、そのシーンをマスターシーンと呼ぶ。

にも長い刀が浮いていた。禍々しい深緑の光をまとうその刀には、黒い血管が拍動している。

「あなたが、トリスステイティア？

：：：そう。そういうことなのね」

そのデュルフの女性は、邪な刀の前に、一人の女性を見ていた。

彼女にしか見えないその女性は、

無表情のまま、刀にそつと手をや

った。刀はそれに応えるように一

際大きく拍動した。半透明の女性

は歯を食いしぼる。唇から黒い血

が垂れる。そしてそのまま、深い

深い闇のように言葉を紡いだ。全

てを呪うかのように。

「私を取れ。お前にはその資格が

ある。私と同じ蔑まれた者なのだ

から。己と違うからと蔑み、追

やり、ただ当たり前の幸福すらも

奪われた：：：その日をお前は覚え

ているだろう？ 絶望を思い出せ、

復讐の誓いを思い出せ、瘴気と悔

恨にまみれた半生を思い出せ。お

前は涙を飲んで死ぬのか？ 晴ら

すべき悔恨を、お前は片時も忘れ

たことはないはずだ。さあ、お前

の悔恨を：：：！』

「：：：晴らす」

彼女は刀を手にした。その目に

狂気が浮かぶ。ひとかけらの哀し

みを孕んだ、闇夜のような狂気が。

● シーン2 【リヤタ第一王子】

HL..では、オープニングを始め

ます。最初のオープニングは、ビ

ルギットですね。あなたは父であ

るブライニクル王と呼ばれます。

施政室のドアのノックし、入っ

てきたのは、藍色の髪の下にまだ

【トリスステイティア】

この世界で最初に生まれた遺痕者を聖痕者というが、その一人。

遺痕者が死んだ時、そのレリックは普通消滅するが、遺痕者があまりにも強い遺志を遺した時、遺残することがある。聖痕者のそれを聖牙という。

聖牙は様々な遺志を持ってヒトビトに影響を与えるが、トリスステイティアは邪な存在。

【ブライニクル王】

リヤタの国王。史実では兎人だが、ビルギットのためにマオ族になった。恐らくこのシナリオがやられる度に種族が変わる。後世の歴史学者は頭を抱えるに違いない。

幼さの残る翠緑の瞳を輝かせる少年であった。礼儀正しく現王に頭を下げる彼だが、その身体はマオの特質に異質なモノが混じっていた。黒き鱗、被毛せぬ肌。海の向こうから来たる、侵略者の血。

王（HL）：「来たか、ビルギットよ」

ビルギット：「何かご用でしょうか？」

王（HL）：「うむ……しかと勉学に励んでおるか？」

ビルギット：「リヤタの未来の為、しっかり勉学に励んでおります！」

王（HL）：「嬉しそうに目に笑みを浮かべながら」そうか、それは喜ばしいことだ。実は、今日はお前に話がある」

ビルギット：「なんででしょうか？」

王（HL）：「お前の母親のことだ。……美しいデュルフだった。王室ではアイシクル王妃と呼ばれていたが……迫害を受け、追放せざるを得なかったのだ」

ビルギット：「そんな……いつたいなぜ？」

王（HL）：「ハウチ族もマオも、変わらぬというのにな……民は、かつての侵略者であるハウチ族を許せなかった。それだけのことだ」

ビルギット：「そんな……このリヤタの民が……なぜ、ぼくに教えてくれなかったのですか!？」

王（HL）：「……ビルギットよ、忘れることしかできなかった父を許してくれ……」

しかし、これだけはいつておかねばならぬと思ったのだ。あれは、

【勉学に励んでおります!】

残念ながら、彼の「知性」は27だった。この世界の平均値は30だ。偏差値50を切るという厳しいスタートだが、がんばれば王子!

【追放せざるを】

外野では、
「後先考えずに手を出した感やべえ」
「強い遺伝子いっぱい残さない」と
「若さゆえの過ち」
などと言われた。再婚してねえんだから真実の愛だって察せよ!

【かつての侵略者】

ハウチ族とはデュルフとラチエル（トカゲ人）を併せた言い方。彼らは以前、既存の種族を滅ぼすために戦争を仕掛けてきた。現在では調停済みだが、

王室を追われた後、城下町で家庭を持ったようだ。しかし、その後迫害を受け、どこかほかの街へと去って行ったという。その時、身ごもっていたというのだ！ つまるところ：もしやすると、お前の弟か妹がいるやもしれぬ、ということだ：：」

H L…と、そこで突然警鐘が鳴り響きます！

王 (H L)：「何事だ！？」

H L…兵が入ってきて、魔物の襲撃が起こったことを告げますね。

H L…バルコニーに出ると、城下町の広場に一人の人影が立っています。顔を布で隠した、：：：遠目にもデュルフとわかるでしょう。ビルギット：「たった一人で城に攻め込んでくるなんて！」

魔物の女 (H L)：「我が名は氷の

女王！ このリヤタを支配する者なり！」

ビルギット：「ばかなことを！ リヤタの王は父王、ブライクニル陛下ただ一人だぞ！」

H L…ではここで、氷の女王は「亡国の刻印」というものを宣言します。「刻印」とは、聖痕者の残したレリック、聖牙が契約者に与える、グロウと同等のものです。

「亡国の刻印」の効果は、「自分の定めた法を施行する」というものです。ここでは亡国の刻印の「法」は公開しませんが、ビルギットには氷の女王を中心として、「凍り付いていく」リヤタの街が見られるでしょう。

王 (H L)：「なんとということだ：：！」

ビルギット：「父王様！？」

【「たった一人で城に攻め込んでくる」
→うわ、お城の防衛低すぎるよお：：：、などと言われたが、別に一人とは言っていない。魔物の軍勢が攻め入っている。間違えないように。」

【名は氷の女王】
自分で女王とか言っちゃうのか、とリヤタ兵は逡巡した。それが彼の最期の思考となった。

【亡国の刻印】
解除方法は別途調べる必要がある。条件を満たさねば、グロウでも解除できない。

【グロウ】
遺痕が与える特別な力。PCに3つずつある。回避不能の一撃を放ったり、死者を生き返らせたり、超常の力を發揮する。

王（HL）：「……ビルギット、僕は市民のために最後まで残らねばならない。お前だけでも逃げなさい。お前は生き延びねばならないのだ……どうか、リヤタの未来のために」

ビルギット：「そんな！我が国の一大事、ボクだけが逃げて、国民は、父王様はどうするのです！」
王（HL）：「お前には、僕にない力がある。そう、お前ならできる」
ビルギット：「ならば！今すぐここで！」（武器を取り出す）
王（HL）：「（穏やかな笑みを浮かべて）フオーダーが来ているはずだ、お前だけでは難しいだろう」
HL…と、手にひとつのレリックをひらめかせると、「旋風の印」を使用します。
ビルギット：「父王様……」（諦めた

ように顔をしかめて）

王（HL）：「すまない、息子よ……」
「ということ、ビルギットをリヤタの城壁の外へと飛ばします。ビルギット……父さまー！」

HL…さて、城壁の外に瘴気の中に放り出されたビルギットですが、瘴気の中ですのびに意識がー
という……。

ビルギット：「うう、リヤタの、町が……」（意識を失う）

HL…薄れる意識の中、あなたの脳裏に浮かんだのは、優しい笑みを浮かべるデュルフの女性だった、というところでシーンを終了します。

あ、いい忘れてましたが、オープニングでもエンegramのデジャヴの演出を行ってもよいです。

【旋風の印】

対象ひとり、移動させる。印は聖痕者が与える力の中でも、扱いやすい。怨痕者にならなかつた聖痕者がよく与える。

前の発言と併せて、王は遺痕者ではなかつたが、聖痕者と契約はしていたようだ。

【すぐに意識がー】
瘴気は猛毒である。

【デジャヴユ】

遺痕には、前世の記憶が痕跡として刻まれている。これをエンegramという。前世の記憶がフラッシュバックしたと申告すると、エンegramが覚醒し使用できる。
エンegramは判定を成功しやすくしてくれる。前世の経験が、キミを後押しするのだ。

アモウレ…ほほう。

フロレンツィア…エングラム何も考えてない！

アモウレ…覚醒させても、別に使わなくてもいいんですよね？

HL…その通りですよー。まあ、「この感覚、どこかで……」って演出、難しいですからねえ。機会は多い方がよいでしょう。

●シーン3

【選ばれし者フロレンツィア】

HL…では、続いてフロレンツィアのオーブニングです。

フロレンツィア…どんとこーい！

HL…フォードリーダーがリヤタを指し移動しているシーンになります。フロレンツィア…では飛んで移動してよう。

瘴気を退けつつ進む、数十人の

旅団。その半球状の結界の頂点近くを飛翔する一人のワルムがいた。

小柄な体で小刻みに羽ばたきながら、眼下の少女と談笑する彼女。

彼らは皆、元いた場所を追われ

た者たち。村の壊滅、混血児、異端者。様々な理由はあれど、彼らは語らない。そして彼女の頭上には、

「天使」であることを示す、神々しい光輪が光り輝いていた。

HL…主な仲間は、リーダーのシグマ、ムードメーカーのニーチェ、後はリオンですね。

んーと、ニーチェは年も近い女の子なんです、なんて呼ばれたんですかw

フロレンツィア…お任せします、ちなみに、こちらのフェイトは「好

【どんとこーい！】

フロレンツィアは「シリアス、シリアス、シリアル」と唱えた。HLは今後の展開を想像し頭を抱えた。

リンカネはシリアスを推奨します。

【ニーチェ】

マオ（猫人）とクイン（竜人）の混血。リヤタ弁（関西弁に似る）のカネにうるさい少女。フォードに預けられたため、両親を知らない。

関西人がいざ関西弁を喋ろうとするとき、何とかなりませんか。

このセツシヨン中、リヤタの人がリヤタ弁喋った形跡ないし……。

敵手」です。でも友人な好敵手かな。年齢近いし、同性だし。

HL…じゃあ、フーちゃんまでフロレンツィア…その呼び方だとこちらは「ニーちゃん」になってしまうからこっちからの呼び方考えよう。

ニーチェ (HL)…「フーちゃん、もうすぐリヤタやな！ あたし、楽しみにしとってん！」

フロレンツィア…「そうだねー。でも、私からでも見えてないぞ！」
(空を飛びながら)

ニーチェ (HL)…「えー、飛べるならもつとがんばってよー！ あたし、翼はあっても飛べへんねで！」

フロレンツィア…「北のー♪空はー♪ふあつきんこーるどー♪」(飛びながら上昇)

フロレンツィア…見えますか？
HL…リヤタめつちや燃えてます。

フロレンツィア…「おおっと！ リヤタが燃えてる！ ……って、マジか！」

ニーチェ (HL)…「え、も、もも燃えてる！？」

フロレンツィア…「リーダー、ヤバいッスよ！ マジヤバいッス！」(リーダーのところへ急降下)

フロレンツィア…「リヤタが火の海ですよ！ これはヤバイ以外に言いようが無いくらいヤバイですよ！」

シグマ (HL)…「なんだと！ ……すぐ偵察を！ フロレンツィア、ニーチェを連れていけるか！」

フロレンツィア…「イエッサー。ニーチェ！ 足に掴まって！ 多分落ちない！ 多分！」

【ふあつきん♪】
予感的中。

【めつちやく】

HLの逆襲。
PLたちの腹筋にダメージ。凍ったり燃えたり忙しい。

【シグマ】

ニンス(兎人)に見えるが、実はコッソ(狼人)との混血。謎の多い、冷静沈着な男。なお身長は130ない。新人がうっかりチビと呟いて酷い目に遭うと、フオーダーは春を感じる。

ニーチェ (HL) : 「りよーかい！
(祝詞を唱えて) 対瘴気結界、は
ったで！」

フロレンツィア : 「行くよー！ 全
速前進 D A ☆」

というわけで最高速度でリヤタ
上空を目指します。

HL : はい、ニーチェに付き添わ
れて近くまで偵察に行くと、火柱
が上がり、多くの魔物が住民を蹂
躪しています。

フロレンツィア : 「あれはふあつき
んモンスター！？」

ニーチェ (HL) : 「そんな、ひど
い…！ フー！ すぐシグマに
知らせへんと！」

フロレンツィア : 「おう！」

HL : と、戻ろうとすると、瘴気
の中に光るものが。

フロレンツィア : 「あれは何

だ！？」 (光るもの確認)

HL : ビルギットみたいな顔の少
年が倒れていますね。

フロレンツィア : やっぱり。降下
して生きてそうかチェック！

ニーチェ : 「この人…：ひよつとし
て、リヤタの王子様！？」

フロレンツィア : 「なんだと！」

HL : ニーチェがとりあえず秘儀
魔法で回復します。

ニーチェ (HL) : 「…：気を失っ
てるだけみたいやね。たぶん、事
情を知ってるはず…：みんなのも
とにつれてかえろ！」

フロレンツィア : 「とりあえずリー
ダーの所に運ぼう。王子を私の背
中に括りつけて！」

ニーチェ (HL) : 「りようかい！」
(ぐっ)

フロレンツィア : 「では、飛ぶぞ！」

【対瘴気結界】

ヴェシルは秘儀魔法という回復魔法の使い手。これはヴェシルのみが構築できる、瘴気を浄化する結界。これがないと、瘴気の中を旅できない。

【光るもの確認】

飛行時は前方確認を怠ってはならない。怠ると王子が死んだりする。

【ビルギットみたいな顔】
ひどく具体的な類型表現。

【事情を知ってる】

ビル(目を覚ましますか?)

HL (眠ってて)ビル (すやすや)

（王子背中に、足にニーチェで再び上昇）

フロレンツィア：「重ッ！ニーチェ太った？」

ニーチェ（HL）：「太ってへんよ！ハイキリヤのドラゴンフルーツがおいしすぎて食べ過ぎたりなんかしてへんよ！」

フロレンツィア：「……ふーん」

HL…（閑話休題）

フロレンツィア：「ま、いいや急ぎましょう」

HL…というわけで、フロレンツィアががんばって三人を運んでシグマの前へ。

フロレンツィア：「というわけでカクカクシカジカシカクイムーブでした！」

シグマ（HL）：「……おかしい。このあたりは、『流水』と呼ばれる

魔物たちが守っていたはずだ。そいつらの腕が立つから、リヤタはかなり安全だったんだが……」（深く思考）

シグマ（HL）：「……フロレンツィア。どうも今回はきな臭いニオイがする。君も行ってくれ。

遺痕者としての力が必要になるだろう。俺たちはバックアップの準備をする」

フロレンツィア：「イエッサー、了解であります。『選ばれし者』の役目ッ。果たして見せましようッ！……にしても、魔物が町を守って珍しいですね……」

シグマ（HL）：「詳しい事情は知らんが……よもや、本性をさらしたとでもいうのか？」

フロレンツィア：「魔物のサガ……なんでしようかね」

【ドラゴン】

ハイキリヤ名産。果物が主食のクーン族に絶大な人気を誇る。その濃厚な果汁は恋する乙女の体重を増させたり、唐突にガールズトイクイイベントを生させたりする。

【選ばれし者】

ワルム族は元々、ハウチ族の戦争を調停した天使である。その後、ワルムは他種族と同じ民であると言った。しかし、その中でも永遠に全ての諍いを調停する者が残った。それが選ばれし者である。

【サガ】

GBで発売されて以後、長く続く人気シリーズ。とは、関係ない。持って生まれた特質のことである。

H L…と、そこで割り込む影が。

ニーチェ(H L)：「あたしからも、お願い…！ リヤタは、あたしの生まれ故郷かもしれへんねん…だから…！」

フロレンツィア：「もちろん！ その間に痩せておいてね☆」

ニーチェ(H L)：「はかなく笑つて…：：フーの、ばか」

H L…という感じでシーンを終了しましょうか。

フロレンツィア…いえっさー。

●シーン4

【義足の男、アモウレ】

H L…続きましてー、アモウレのオープニングー。

アモウレ…はい！

H L…ハイキリヤの村長でありながら、「ギルド」長のダスクから

依頼を受けていくことになります。

窓の外を眺めるコッソの男。彼の事務室のドアに無造作に挟まれたストッパーには、埃が積もっていた。そのドアの内側をノックして入ってくる一人の男。たくましい恰幅、人好きのする顔は、葦毛に覆われていた。そのグレスの男は手招きされて歩を進める。一歩ごとに異質な駆動音が床をなでる。彼の両脚には、**血が通って**いなかったのだ。

ダスク(H L)：「来てくれたか、アモウレ」

アモウレ：「はっ、ダスク様のお呼びとあればすぐに駆けつけますとも」

ダスク(H L)：「苦笑いをしながら

【ギルド】

十字路にできた村、ハイキリヤの相互扶助組織。自警団としての性格も併せ持つ。遺痕者向けの依頼を発注することも少なくない。

【ダスク】

隻眼の年老いた傭兵。堅苦しく接されるのが苦手。妹デリアッタと死別している。このためか、ギルドの正式名称は「デリアッタのギルド」である。

【血が通って〜】

この世界の科学技術はもはやSFレベル。機械式以外にも、培養組織を用いた義体もある。当然、こうした義体は値が張るが、人体実験の代償に得る方法もある。ただし、この方法は…。

ら)尊敬してくれるのはありがたいが、"ギルド"の仲間は主従関係じゃない。気楽にしてくれよ"アモウレ"「すいません、どうも変な癖が抜けないもので」

ダスク(HL)「俺はただの責任取りさ...さて、本題だ。"明けない冬"については知っているか？」

アモウレ"聞いたことはあります。春にならない...すなわち草が生えないという大変な出来事だそうです"「

ダスク(HL)「ああ...どうも、その現象の中心はリヤタらしい。このままではハイキリヤまでも春がこないかもしれん」

アモウレ"拡大されると困りますな...春が来なければ、作物が育たなくなってしまうすし"「

ダスク(HL)「そこで、探索隊を編成することになったんだが...その隊長にどうかと思っただが聞いた話じゃ、お前はリヤタで暮らしていたそうじゃないか」

アモウレ"わかりました。断る理由もありませぬ。...ええ、昔のことですが"「

ダスク(HL)「なら、よろしく頼む。報酬は弾むからな。メンツはこっちでも調整しておく。...いやな予感がする。気を付けてくれよ"「

アモウレ"「いつもの勘ですか？」(苦笑い)

ダスク(HL)「(笑ってはいるが、目が笑っていない)ひよつとすると、だ...」(自分の頬の遺痕を指さす)

アモウレ"「...!」(右腕を抑え

【気楽にしてくれ】
ダスクは村人と汗を流して働いた子供たちと遊んだりするのが好きなくらい気楽だ。

【草が生えない】
なんで麦とかじゃなくて草なんだろう。と思ったらアモウレは牛だった。

【作物】
牧草とかデントコーンとか。出荷の数ヶ月前から穀物類を増やすことで肉量増加、肉質向上が望める。

【いやな予感】
こう言っておくとそれっぽい。この時、HLはただそう思っただけで、たまたまだったのだ。

【遺痕を指さす】
自分の描いた顔グラでは、思い切り頬に遺痕があった。

ながら)

ダスク(H L)「気を付けてくれ。ちようどグリマのフォーダーの周期にあたるから、そこを拠点にするといいだろう」

アモウレ「わかりました。頼らせていただくことにしましょう」

H L「というわけで、君は出発したのだー。

アモウレ「わー。

H L「そして、君はリヤタにいたころを回想するという…。

H L「あなたは、リヤタの城下町で、ファイアセモという名のデュルフの女性と家庭を築いていました。つつましい生活でしたが、平穩に暮らしていた、そんなある日。買い物から帰ってきたファイアセモは、顔に打撲傷をつけて帰ってき

ました。

アモウレ「うわあ…。

H L「明らかに石を投げられたような傷ですね。

ファイアセモ(H L)「ただいま…。

あら、あなた、帰ってたの」

アモウレ「帰ってたの、じゃないぞ…。どうしたんだ、その怪我

は!？」

ファイアセモ(H L)「いえ、ちよ

つと…。転んだだけよ(か弱く笑いながら)

アモウレ「転んでそんな怪我がつ

くものか…。」

ファイアセモ(H L)「(屈託なく笑いながら)あなたと暮らせて、うれ

しいの。だから、今は…。耐えられる」

H L「その笑みは、風前のもし火のようでした…。

【ファイアセモ】

デュルフをやりたい方にアドバイス。デュルフの名前は、以下の法則に基づいて付けられる。

- 1、カタカナ五文字
- 2、二文字目は「イ」
- 3、四文字目はサ行
- 4、五文字目は才段

面倒ならさつぱり無視しよう！作者も面倒で無視したくなる時があるぞ！

【今は耐えられる】

あなたさえ、居てくれたのなら。

アモウレ「耐える、とかそういうことは言わないでくれ……私が絶対に守りぬいてみせるのだから」
ファイアセモ（HL）「……ありがとう」（抱き着きながら）

アモウレ（無言で抱きしめる）

HL……しかしその後、迫害は増す一方で、あなたたちはハイキリヤに逃げるように引越すことになりませう。対瘴気結界が使える運び屋を使って、危険な瘴気の中の旅に出ることになったわけです。獲物を見つけ、追いつがる魔物たち。あなたたちを乗せた馬車は走り続けますが……。

揺れる馬車、ファイアセモは瘴気の外に放り出されてしまいます。ファイアセモ（HL）「アモウレ……！」

アモウレ「ファイア……！」

（手を伸ばしながら）

運び屋（HL）「旦那！ 諦めてくださいえ！ もう助からねえ！」
アモウレ「そんな、そんな……私は誓ったんだ、守ると誓ったんだぞ！」

運び屋（HL）「旦那まで死んじまいますぜ！」

アモウレ「構わない！ ファイアだけを置いていけるものか！ なんとかできないのか！」

運び屋（HL）「うまく生きてたとして魔物……もう、旦那の知ってるオンナじゃなくなってるのがオチですぜ……」

アモウレ「どうなっただろうと、ファイアは私の愛した女だ！ どうなっただろうと！」

HL「そんなアモウレの叫びもむなしく、馬車は走り去っていくと、

【迫害】

ハウチ族、フルワイ族（蛙人）などはワルム族、グレス族を除いてほとんどの種族が迫害している。ハウチは元侵略者であるから、フルワイは瘴気に順応し、多くが魔物になっただけで済んだから。それ以外では、マオとコッソが仲が悪い。これはハウチによる侵略戦争以前に戦争をしたからである。

【運び屋】

フォードでもいいが、フォードは年単位で巡回する。フォードが利用できる場合、遺痕者ではない結界使いの運び屋を利用せねばならない。それは危険な旅となる。

そんなオープニングでした……。アモウレ…マモレナカタ……。HL…ごめんねぶった切って、でも、救われるとシナリオ始まらないのw

アモウレ…でしょうねw

アモウレ…ところで一つ質問です。

HL…ほいほい？

アモウレ…アモウレの前世のネガティブのエングラムに「悲涙」があるのですが今デジャヴュさせておいてもいいでしょうか？

HL…どうぞどうぞ。なるほど、今度こそは、と思っていたのにまた同じ結末を迎えてしまった、という感じですね。

アモウレ…愛する妻を救えませんでしたヨヨ、と昔にたようなことがあった気がしました（略した書き方）

● シーン 5

【「キラール」、シヤス】

HL…では、最後にシヤスさんのオープニングですね。

シヤス…よしきた！

HL…時系列的には、氷の女王の侵攻が済んだあとです。

シヤス…了解です。

HL…街の時間は完全に止まり、魔物たち（ヒト、動物、植物など）が闊歩しています。そんなところで、「宰相」ドルナ・ベルクという、氷の女王に君が生まれる前から付き従っていた、右腕のような男があなたを呼び出します。

線の細いモノクルを付けたグレスの男。燕尾服を着こなす彼こそが「宰相」だ。彼の前に闇の中から現れたのは、まだ年端もゆかぬ

【救われるとシナリオ進まない】
ザ・お約束。

ハンドアウトに書いてある事象は変えられないのである。

【よしきた！】

シヤスはこの時、腹で思い切り水飛沫を上げるシヤチの写真をアイコンとして使用した。元気いっぱいである。元気がいっぱい過ぎて、他のPLから「じゃーん」と何度も言われた。

デュルフの少年である。脚を持たぬ彼は宙にマナの力で浮かび上がりながら、剣呑な紅い瞳を向ける。〃宰相〃は育ての親と言ってもよいにも関わらず、だ。寄らば切る、この少年ならやっつてのけるだろう。ここに密会した二人。彼らの白目は瘴気が凝り固まったように黒く、瞳は血のように紅い。そう、彼らは瘴気に包まれていなければ生きていけぬ、闇の眷属だった。

シヤス…「何の用だ？」

ドルナ（HL）…「シヤス様。わざわざお呼び出したしまして、申し訳ありません。…：今宵お呼びしましたのは、他でもありません、今宵の襲撃のことでございます」シヤス…「…：ほう？」

シヤスは黒い波動を出したり引

つこめたりしながらあそんでいるようである。

ドルナ（HL）…「かつてのあの方は、慈悲に満ち溢れた、そう、女神のような方でした。例え、我々と同じ魔物であろうとも。魂は誰よりも輝いておられました。」

瘴気の底で死に絶えようとしていた私を助けてくださったあの日を、今でも覚えています」

HL…そしてそれは、あなたの知る氷の女王と相違ないです。

シヤス…「そうか…：」（宙に浮いている牙でそこらへんの物にかみつくようなそぶりをしながら）

ドルナ（HL）…「あの方はリヤタを他の魔物から守り続けておられたのは、あなたの知る通りです。

それが、今回の凶行。にわかには信じられません。…：シヤス様、

【何の用だ？】

中の人はちゃんと、目上の人に十歳のガキがこんな物言いにしちゃいけないと分かっていた。PCが協力したくなくても、中の人は協力するのが大事。

【申し訳ありません】

実はそうでもなかった。そりゃあ若頭が偉くないわけがない。

【…：ほう？】

早速、若頭の貫録を出してくるシヤスくん（十歳）。

どうか、この老いぼれの願いを聞いてくださりませんか。

あの方の心変わりとその真相、それを確かめて頂きたい」

シヤス…「…街の人は、どうなったの？」

ドルナ（HL）…「死者も相当数おりますが、多くは停止した時の中にいるようです」

シヤス…「…」牙でそこらへんのものを破壊する

ドルナ（HL）…「！ シヤス様…！」（なだめるように）

シヤス…「行かせてもらおう」言うも、どす黒いオーラが隠せていない。

「どういうことだ…」と、小さい声が出てきます。

ドルナ（HL）…「…今、なんと？」

シヤス…「…それが本当なら、あなたは何を言おうと、俺は街へ行

かせてもらおう」

ドルナ（HL）…「…私は、シヤス様がずっと幼いうちから、ずっとお世話をさせていたいただいておりました」（柔らかい表情で）

ドルナ（HL）…「私は知っていますよ…あなた様の、輝く魂を」

シヤス…「…ふん、この姿…」。まあ、そういうのも嫌いじゃ、ない、かな…。

…それじゃ、いかせてくれ」

ドルナ（HL）…「…今、フォーダーの一团が来ているようです。

「流水」の名は知れているので、そちらで情報は得られるかと」

シヤス…「わかった、ありがとう」まだ高い声が、かすかに聞こえる

シヤス…ではシヤスは出発したいです！

HL…まってw あとひとつw

【どうなったの？】
若頭はあどけなさも持っている。かわいらしい。

【この姿】
シヤスは魔物だ。それでも、魂までは瘴気の闇に囚われていない。

【まってw】
こういう情報・イベントがまだ終わってないのに出立しそうになるのは気恥ずかしい。
HLに「もう何もなにか」を聞いてみる

シヤス…あ、はいw

ドルナ(HL)：「申し上げたいことが、あとひとつ。…氷の女王

は、あなたさまの育ての親だけではありません。実の母親なのです」

シヤス…「…それは、本当か？」

ドルナ(HL)：「あなた様を取り上げた私がいるのですから…」

シヤス…「どういう意味だ…！」

牙がガツとなって開く！

ドルナ(HL)：「(全くひるまずに)

氷の女王…：あの方がそう名乗られるようになったのは、あなたの

出生の後です。生まれた時から魔物であった、あなたを見て…：あ

の方が何を思われたのか、私にはわかりかねます」

シヤス…「…」険しい表情をしな

がらも黙っている

ドルナ(HL)：「いずれにせよ、

私は氷の女王に背を向けることは

できません。…臆病な私を、お許しください」

シヤス…「…街へ行って、真相を確かめに行く。お前はそこにいる

のか？」

ドルナ(HL)：「(にこり) 私は、

氷の女王の右腕、“宰相”ドル

ナ・ベルクですから」

シヤス…「…もういい、俺はいくぞ！」

HL…あ、シヤスは街に繰り出す

方向？

シヤス…直接街に行きたいです！

HL…ふむ、じゃあ、ほかのPCが街に突入したところで再度合流

になるけど、いいですか？

シヤス…他に行きそうな場所がな

い…w

HL…オーダーがいるって言っ

【分かりかねます】
生命を救われ、その母性に憧れを抱いて仕え続けてきた男の言葉だ。彼女を護る盾が、何も知らぬものか。

【私は氷の女王の右腕ですから】
意識…氷の女王のそばを離れるつもりなどありませんよ。

たでしょうw
シヤス…知りません！ ……とい
いたるところですが、あんまり勧
められると断るわけにもいかない
んだよなあ。
H L…別に街で合流がいいなら構
いませんがw H L的には、街で
合流するより、フォーダーのキャ
ンプで合流した方がほかのP Cか
ら警戒されずに済むかと思っ
てそ
う誘導しています。

その後、シヤスの行動指針につ
いて話し合った。フェイトに着目
したりしたが、結局フロレンツイ
アの提案で「リヤタの市街地に向
かい、仲間割れしているところを
他のP Cが助けに入る」というシ
チュエーションになった。
この相談が終わった頃には、も

う夜も更け一旦解散せねばならな
い時間になっていた。

H L…そろそろ中断しないといけ
ない時間ですが、忘れていたこと
がひとつ。P Cたちはアクト開始
時にお金を持っています。2 D 1
0 フアングのお金を持っているの
で、決めておいてください。
アモウレ…ほほう！
フロレンツイア…ここで振ってい
いのですか？

H L…どうぞ振ってください。
一同…(…ころころ)

【初期所持金】

アモウレ	↓	1	0	F
フロレンツイア	↓	1	0	F
ビルギット	↓	1	5	F
シヤス	↓	1	3	F

【フェイト】

蛇鎖とも。キャラクタ―が他のキャラクタ―に対して持つ関係性のことである。過去にあった出来事も、未来に起こりうる暗示もある。初期作成時に2つ、シナリオに参加すると隣のP Cに1つ得られる。シヤスはビルギットに「恩義」で取り、アモウレはシヤスに「興味」で取っていた。

【2 D 1 0】

振るダイスの書き方。Dの前が振る回数、後が何面体を振るかを表す。

【フアング】

銀貨でFと略す。1 Fで一万円くらい。金貨はホーン、銅貨はクロウ。

【ころころ】

ダイスを振る音。

そしてこの晩は、初期所持金を決めたところで解散した。

●シーン6 「義勇軍」

HL…さて、揃ったようなので、そろそろ始めましょうか。

一同…いえーい！

HL…では、シヤス以外のPCがフオーダーのキャンプで合流するシーンですね。

フロレンツィア…では王子の頬を羽でペしペししながら起こそう。

ビルギット…「う、うーん」

フロレンツィア…

「おきろー！ (ペしペし)」

しんだかー！？ (ペしペし)」

ニーチェ (HL)…「あ、気付いたんやね？」

ビルギット…(覚醒しきっていない様子)

様子)

フロレンツィア…「リーダー！ 目

覚めました！」(シグマに報告)

フロレンツィア…「これでも飲んで

シヤキっと！」(唐辛子ジュースを

ビルギットに流し込む)

ビルギット…「ぶふっ！」(ゲッホ

ゲッホ)

フロレンツィア…「よし！ 生命反

応に異常は無いようだ！」

シグマ (HL)…「目覚めたか！

…：その、眠りそうだが」

フロレンツィア…「大丈夫、多分」

ビルギット…(勢い良く飛び起き

て)「げほげほ、今のは一体…」

フロレンツィア…「目覚めスツキリ

唐辛子ジュース」

目覚めた王子はあたりを見回し、

しばし我を失った様子であった。

だが次の瞬間、彼は思い出した。

【唐辛子ジュース】

ワルム族は辛いものを好み、唐辛子を栽培している。

「ワルムの爪」と呼ばれる鉤爪に似た形の唐辛子は特に辛く、痛みを伴うことも。

と、いうことになった。今回で。

【生命に異常なし】

ワルム族はこの世界に降臨してまだ間がない。このため、このように傍から見ると変人のように見える者が少なくない。

…：HLはそうPLに言ったことを少し後悔した。

【眠りそう】

永眠。

ビルギット「こ、攻撃：？」

ビルギット「そ、そうだ攻撃が！」

フロレンツィア「ひよつとして、

リヤタのこと？」

ビルギット「リヤタを知っている

んですか！」

シグマ（HL）「君はひよつとし

て、リヤタ国の第一王子じゃない

かい？」

ビルギット「！ い、いかにも、

ボクはリヤタ王国、第一王位継承

者、ビルギットです。リヤタの現

状をご存知の、あなた方は一体？」

フロレンツィア「グリマのフォー

ダーのフロレンツィアと……」

ニーチェ（HL）「ニーチェやで！

さつき、偵察に行ってきたんやけ

ど……」

フロレンツィア「あれはもうダメ

かもわからんね」

シグマ「ひどい有様だったようだ。

君を助けてくるのが精いっぱいだ

ったようだしな」

ビルギット「そ、そんな……」

シグマ（HL）「今、義勇軍を募

っているところだ。最も、特別な

力を持つ者でなければ、誤差の範

囲内だろうが……」

フロレンツィア「こんな辺きよ

……ゲフンゲフン。集まりますか

ね？」

シグマ（HL）「うちの仲間にも

ある程度腕が立つ奴がいるが、や

はり少数精鋭が望ましいだろう」

ビルギット「リヤタの奪還を計画

しているのですか？」

シグマ（HL）「無論。もう二度

と、村の壊滅などさせない」

ビルギット「それなら、ボクが行

【グリマ】

フォーダーは三種類あり、それぞれ個性がある。グリマは混血が多く、種族差別がない。また、運び屋としての性質が強い。

【特別な力】

遺痕（！）。

【もう二度と】

シグマやリオンは故郷を魔物に奪われた過去がある。この世界の主要な街は十六あったが、既に四つ壊滅している。魔物が食糧のため村を襲って壊滅させるのは、決して珍しい話ではない。

かなくちや……」

シグマ(H L)「王子自らか？ ほ

う、遊びじゃないんだぞ」

フロレンツィア「人行くのは危

険が危ないわよ」

ビルギット「そ、それは、分かり

ますが……それでも、父王様が、

ブライクニル陛下が、ボクの力が

必要だって……」

シグマ(H L)「ビルギット王子。

ひとつ問おう。行くのであれば、

あなたが指揮を執ることになる。

それだけの責任、持てるか？」

フォーダーの長は長い耳をぴん

と伸ばし、ビルギット王子の目を

射た。王子はしばし、目と耳をし

ゆんと伏せた。しかし、きつ、と

その目を見返して返した。

ビルギット「リヤタはボクの国で
す、リヤタのことはボクが一番良
く知っています」

シグマ(H L)「なら、あなたに

すべてを託そう。フォーダーは全

面的に支援する」(口の端に笑みを

浮かべながら)

ビルギット「父王様が言っていた

のは、あなた達の事だったのです

ね！」

シグマ(H L)「やれやれ、武装

はしているとはいえ、俺たちは運

び屋だというのにな……(苦笑)」

ビルギット「シグマの手をとって

「ありがとうございます！」

アモウレ「えーっと……お取り込

み中すいませんね、ちよつといい

ですか」(おずおずと)

H L…と、そのあたりで搜索隊が

以下、陰で行われ
た会話。

フロ「リーダー！

大丈夫なんです

か！？(耳打ち)」

シグマ「いいんだ。

俺のように、生まれ

故郷を失うなら、何

もしなかつたより

はいい」(小声で)

フロ「ヘタを打て

ばリヤタの後継者

喪失、復興の足がか

りも、事後処理も難

しくなりますよ！

(小声)」

シグマ「これでダ

メなら、ハナから無

理さ」

フロ「それもそう

ですわね」

近づいてきたというわけですね。

ニーチェ（HL）：「ん？ その村

章は…ハイキリヤ？」

HL：ニーチェは結界担当に指示

して捜索隊を受け入れます。

アモウレ：「おや、あなたがフォー

ダーのリーダーでしょうか？ 私

はハイキリヤの村長、ダスクの命

でやってきたアモウレという者で

す」

ニーチェ（HL）：「んと、シグマ！

ハイキリヤの人やって！」

ニーチェがシグマを呼びに行っ

ている間に、フロレンツィアたち

は知り合いに気づいたようだ。

フロレンツィア：「あ、あなたはた

しかアモウレさん」

アモウレ：「ん、私の名前をご存知

のようで。それにしても、お若い方が多いですね」

フロレンツィア：「たまたまこのテ

ントがそうなだけですよ」

アモウレ：「そうなのですか、てっ

きり私が年を食い過ぎていただけ

かと、ハッハッハ」

シグマ（HL）：「やれやれ…：今

は立て込んでいるのだが、どうい

う要件で？」

アモウレ：「あなたがリーダーです

か。実は冬が終わらず、春が来な

い件でここまで調査に来まして。

何らかの形でご協力願えないでし

ようか？」

シグマ（HL）：「…：そういう報

告はあったが、ハイキリヤからも

捜索隊が来るとは」

アモウレ：「どんだん範囲が広がっ

【お若い方】

遺痕者の能力は、青年期までに全盛を迎える。これは、魂の成長が子供の方が活発だからだと思われる。なお、データ上の差異はない。

ているのです。このままですと世界中が冬のままになってしまいかもしれません」

シグマ（HL）：「…：実は、別働隊に周辺を探索してもらっていたのだが…：どうも、その現象の中心は、リヤタのようなんだ」

ビルギット：「！！」

フロレンツィア：「やっぱり」

アモウレ：「リヤタ、ですか…：」

（一旦少し寂しそうな顔をして）

「ふうむ、リヤタですか…：」

ビルギット：「リヤタを、ご存知なのですか？」

アモウレ：「知っているも何も、私は昔にリヤタに住んでおりましてね。少々つらい思い出があるので、年寄りの話はしなくてもいいでしょう」

ビルギット：「移住、なさったので

すね。（迫害されたという母親の事を思い出している）

フロレンツィア：「（気になる）」

アモウレ：「移住といいますが、なかなか言いますか…：それより、あなたこそリヤタの関係者のようですね。話し合いの終わりの方だけ聞かせていただきましたが」

ビルギット：「（居住まいを正して

「ボクは、リヤタの第一王位継承者、ビルギットです。」

フロレンツィア：「（第一って事は

他にもいるのかしら）」

アモウレ：「ええっ！？ なぜにな

ぜゆえいかほどにして王子様がこちらに！？」（慌ててしゃがんで敬意を示しつつ）

ビルギット：「かしこまらないでください、ボクは無力な王子です…

：。危機にさらされているリヤタ

【気になる】

フロレンツィアの両親も「選ばれし者」であった。そのため、以前ある紛争を止めようとして…。

【第一】

史実では、ブライニクル王の実は一人になつて筋絶えなかつた。

【敬意を示し】

リヤタ王国と名乗っているが、統治者が王を名乗っているに過ぎない。実際には他の村と変わらない、貧しく寒い村である。一応、かつて強大な王国や帝国は存在したと言われる。

を逃げ出してきたのです」

アモウレ：「となると……リヤタに行くとなれば貴方様が一番詳しいということになりますね」

フロレンツィア：「リヤタは現在、危険が危ないから近づくのはオススメしないわよ」

アモウレ：「危険なのは慣れてますよ、これのせいでね」(ローブの袖をまくり、右腕の遺痕文様を見せながら)

フロレンツィア：「おおう、あなたも遺痕者でしたか」

アモウレ：「ですので私もお力になれると思いますよ？」

フロレンツィア：「遺痕者のパワーはパないですからね」

アモウレ：「仮に凄くとも、私には使いこなしきれませんが……ね」

フロレンツィア：「というわけで、義勇軍第一号さん……でいいのかしら。」

アモウレ：「第一モオウ」

フロレンツィア：「というわけで、リーダー。第一号さん」

ビルギット：「ありがとうございます。ぜひ名前をお聞かせ願えませんか」(アモウレの手をとって)

アモウレ：「はっ、王子様。私はアモウレ。ベヒリツヒというものでございます」

フロレンツィア：「若干言いづらいビルギット。必ずや我らが祖国を取り戻しましょう！」

フロレンツィア：「アモウレ。ベヒリツヒと……」(名簿記入)

アモウレ：「はっ、わたくしアモウレ、王子様についていきますぞ！」
アモウレ：「あ、年は32です」

【危険が危ない】
専門用語でいうところの、天井。

【若干言いづらい】
君の名前を言うてみる。

フロレンツィア…(ビルギットの様子を見ながら、人望は申し分なし、と思いつつ)「32と…」(記入)ビルギット…「その、フロレンツィアさん。助けていただいた恩、生涯忘れません」(フロレンツィアの前に膝をつく)

フロレンツィア…「ああ、あれも仕事だから」(ビルギット)

アモウレ…「公私の区別ができてるとはしっかりしてらっしゃる」

ニーチェ(HL)…「そーいうのいいねんって！」

私たち、ナガレモノやし！ それより、リヤタが持ち直したら、

よろしくね？(指でゼニ)アモウレ…「ぶっ」

ビルギット…(慌てる)フロレンツィア…「ごめんねー。カ

ネにしか興味が無いのよこの子」

(ニーチェ指さしながら)

ニーチェ…「買い物してくれればいいねんって！　そこまでアコギやないよ！」

フロレンツィア…「ま、これからしばらく一緒にいるんだからあんまり堅苦しいのはよそう！　ね、ビルちゃん！」

ビルギット…「び、びるちゃん…：！？」(赤くなりながら)

ビルギット…「お、王宮では！　そのように呼ばれたことはなくって！　その…」

アモウレ…「若いっていいですねえ」(微笑みながら)

フロレンツィア…「そう、じゃあ。プリンス！　ビルギットオ！

(叫ぶ)とか呼べばいいかしら」ビルギット…「す、好きに呼んでく

ださい！」(照れ)

【32と…】
個人情報は大切に管理しましょう。

【指でゼニ】
ニーチェは取引取締役である。カネに目がない。

【叫ぶ】
格ゲーが始まりそう。

一同はまるで、これからの戦いを控えて緊張をほぐすように談笑していた。

H L…さて、そろそろ突入する感じですかね？

フロレンツィア…私はいつでもいいですよー。

アモウレ…わたしもいいですよー。ビルギット…装備などは？

H L…ファングで買えるようなものであれば、オーダーで購入することができません。

H L…なにかありますか？

フロレンツィア…レーション買ったとか。

オーダー(H L)…まいどありー。

アモウレ…オーダー内でもしっかり払うものは払うんですね…

へえ……

H L…バックアップするといったな、カネはとるぞ。

フロレンツィア…本来は売り物だしねー

アモウレ…お若いのに皆さんご立派だー

フロレンツィア…人集めるだけで大変なんだから協力してちよー

ビルギット…ダメコンアイテム買って行きましょう…：ありや高い。

それ以外だと、ランタンやロープが役に立ちそう？

H L…フレーパーアイテムなので、ぶっちゃけなくてもどうとでも)

アモウレ…(ぶっちゃけたー)

ビルギット…いくさの経験がないので、物を持って行きすぎるパターン……。

フロレンツィア…ありそう。

【レーション】

数日分の食糧。日持ちするようになっている。HPが尽きた時に自動で回復してくれたりはいしない。

【ランタンやロープ】

古式ゆかしいゲームであれば、なければ洞窟には潜れない、当然だが。10フィートの長さの棒も必須。

【フレーパー】

遊ぶ上での香りがけ。ここでは世界観に沿ったキャラクタを創るために用意されているアイテムとして、アイテムとしての効果はない。

アモウレ…かわいいw

HL…そういう時はね、有り金全部を使っていろいろ買い込んだ、ってしてね、あとから必要になったときに「へ幸運」判定で装備の中にあるかどうか決める」ってしていいんじゃないよ？

アモウレ…おお、それおもしろいですね！

ビルギット…王子、なけなしの小遣いをすべてつかって色々買い込んだ！！

HL…まいどありー！

アモウレ…「金銭感覚と言いつつ物の量と言いつつが王族というところか」

ビルギット…「行きましたよ！」（がしゃがしゃ）

HL…今思い出したけど、ランタ

ンとか買わなくてもふーちゃんの回りは明るかった…。

フロレンツィア…うん、目立つ。

HL…さて、こんな感じですかね？

アモウレ…ですかね？

フロレンツィア…あ、義勇軍も含めてカチコミですか？

HL…言い方悪いけどだいたいあ

ってるなあw

フロレンツィア…3人だけで？

HL…バックアップ人員がフォー

ダーから出されてますが、あくま

でもバックアップです。ぶっちゃ

けるとエキストラなので…。

フロレンツィア…了解です。

HL…では、そろそろ次のシーンへ行きますよ。

【へ幸運】

PCには肉体、技術、感情、知性、希望という五つの能力値と、能力値にはそれぞれ技能が属する。これらの技能はスキルポイントを振り分けて成長できる。
幸運は希望に属する唯一の技能で、希望の二倍の値となる。

【周りは明るい】

選ばれし者は輝く光輪を持ち、その周りに真なる闇が訪れることはない。寝る時不便そう。

【エキストラ】

データを持たない、背景のようなキヤラのこと。PCやHLの宣言されたまま、判定の必要なく処理される。例えば、「薙ぎ払う」と宣言すれば薙ぎ払われる。

●シーン7 「魔物」

HL…続いて、リヤタの町中へ繰り出したシヤスのシーン。

シヤス…はい！

「…寒い」

シヤスは手に息を吐きかけた。

呼気の水分は瞬く間に煌めき、動きを止める。眼前に広がる光景に、彼も凍り付いたように立ち止まる。

街にかつての喧騒はなく、代わりに止まった街のヒトビト、そしてその中を跋扈する魔物たちが溢れていた。

幼い彼にとって、それは動揺を誘うに十分だった。

シヤス「あれは…凍っている人たち…ほんとに、あの人の作業

なのか？」

シヤス「あっ、あれは！」自分のかつての仲間の魔物を見つけた！（ことにしたい）

まもの（HL）「あ、シヤスさんじゃねーっすか。どうしたんすか、こんなところで」

シヤス「…この状況でなぜそんなに落ち着いていられる！？今すぐ俺を女王の元へと連れていけ！！」

まもの（HL）「何言ってるんすか、そんなことしたら殺されちまいますよ…。女王様、今、気が立ってるようで」

シヤス「関係ねえよ！今すぐいきてえんだ！！」

まもの（HL）「それよか、こっち来てくださいよ…イキのいいヒトがいますぜ…（にたあ）」

【ことにしたい】

シーンの演出を提案してくれるのは、HLにとってとても嬉しい。

【まもの】

まものはクシヤミをする時と語尾に「まもの」と付くらしいぞ。へっくしい、まもの。

【ヒト】

この世界には動物の特徴を持った知的生物しかいないので、全てを総称してカタカナで「ヒト」と表す。「人間」や「人」はいない。「ケモノ」というと「ヒト」と同義だが、獣性を表す罵倒語として「ケダモノ」が用いられる。

シヤス…「……？ おまえ、どうしたんだ……？」

まもの(H L)「…どうしたって……もともと、俺らはこうじゃないですか。ヒトを食らう闇の眷属、それが、『魔物(テネブリス)』“じやねえっすか？ それとも……？ (ニイと笑う)”

H L「…そういう彼の手と口は血にまみれている。」

シヤス「お前も俺がブチ殺してきた魔物と、同じ存在に成り下がっちゃったってことか！ ぶっ殺すぞ！」(空中に浮かぶ牙もシヤ！と大きく口を開けている)

まもの(H L)「へえ……じゃあやっぱり、シヤス、あんたが裏切ったって噂、ホントだったのか」
H L「…そういつて彼がひとつ殺意に満ちた咆哮をあげると、物陰か

ら湧くように魔物たちが集まってきました。

シヤス「なんだと！ その口、今すぐにでも潰してやる！！」(牙で口にかみつこうとします)

H L「ふむ、じゃあ彼は死にます。」

シヤス「あつ、かみついただけなのに死んじゃったー！？

H L「ただ、集まってきた魔物たちは次から次へとあなたへ襲い掛かります。」

シヤス「な、なんだと、ここまであつさりと……」(動揺した瞬間、魔物がシヤスを襲う)

シヤス「しまった！ ぐああ！」

まもの(H L)「てめえの首を獲ったら、オレの時代だってな！」
H L「…的な感じで。あ、演出なのでダメージはいいです。」

シヤス「…そして、シヤスは意識を

【テネブリス】

「魔物」と書いてこうフリガナが振られていることが多い。「怨痕者」と書いて「スラウター」とも読むように、二通りの読み方を用意している。

「流水」では、ヒトを襲うことは禁忌とされていたが、そもそも魔物となつた段階で理性を失うものは多い。

【俺が殺してきた】

「流水」はリヤタを他の魔物から護つてきた。つまり、シヤスのような他の魔物を狩る魔物がいた。

【彼は死にます】

遺痕者に襲われた遺痕者でない魔物が強いわけがない。エキストラの命は儂い。

失う……。

意識を失ったシヤスに蛮族の刃が迫った、まさにその時だった。群がる蛮族の一団を氷の刃でなぎ払う！

「があっ！？」

「ぐわあっ！？」

「な、なんだ！？」

現れたのは、まだあどけないものの、固い遺志に表情を引き締めた少年。彼に率いられた、三人の遺痕者だった。

「リヤタでの蛮行の数々、この王子ビルギットが許さないぞ！」

フロレンツィア「オラア！ カチ
コミじやあ！」（義勇軍の先導）
HL…突然の攻撃に魔物たちは怯んでいますね。

アモウレ「皆さん血の気が多いこととで……。おや、魔物が魔物を襲っていたようですね……」

まもの（HL）「ち、ちくしょう！ やっちまえ！」

HL…と、魔物たちがあなたたちにおどりかかりますよー！

アモウレ「王子様には傷ひとつつけさせませんよ！」（ずいっ）

魔物たちの前に立ちはだかる大男。刃物をもつともせず、ただ籠手で斬撃を止め、受け流す。

まもの（HL）「な、なんだこいつ！ まるで攻撃が通らねえ！」
フロレンツィア「（作戦これでいいのかなあ……。王子いらぬ物持つてそうだし）」
ビルギット「（驚いた拍子に、長い

【意識を失う】

シヤスは範囲攻撃手段を持っておらず、単体に超火力を叩き込むデータだった。
本人曰く、「タイマンなら負けないのに」とのこと。

【オラア！】

ご覧ください、これが天使様です。

【ちくしょう！】

フラグを建設していくスタイル。

ロープを踏んで尻餅をついてしま
う)

フロレンツィア「ほら言わんこつ
ちやない！ シャキつとしなき
い！」(王子を空中から拾い上げ)
ビルギット「実戦はやっぱり予期
せぬことが……」

フロレンツィア「実戦は今から慣
ればいいわよ。基本はできてそ
うだし」

アモウレ「さて、逃げるなら今の
うちですよ、私だっただの壁で
あり続けるわけではないです
よ？」

まもの(HL)「く、くそっ！ 覚
えてろ！」

HL「というわけで撤退します。
もつとも、一時的な可能性が高い
ですが……」

フロレンツィア「引いたわね、ま、
一時的でしょうけど」(着陸)

アモウレ「防御は最大の攻撃なり
……と。その魔物さん、大丈夫
ですか」(軽くシャスをペしペし)
シャス「……う、うーん」(まだ
ふらついている様子)

フロレンツィア「この唐辛子ジュ
ースで意識回復！」

シャス「ぐわっ！？ はあはあ……」

アモウレ「良かった、生きていた
ようですね。それにしても魔物に
襲われる魔物とは初めて見ました、
面白い」

シャス「(辺りを見回し、状況を把
握して)」

「おまえたちが、この俺を助けて
くれたのか……？」

アモウレ「どちらかといいますと、

【尻餅】
あざとかわいい。

【空中から】
一瞬、フロレンツ
ィアがビルギット
を掴み上げ、上空か
らビルギットが魔
法を打ち込むとい
う、移動砲台戦法が
議論されたのがさ
れなかったとか。

【防御は最大の攻
撃】
カウンター特技
を取ったらそうな
りそう。

【その魔物さん】
シャスはまだ気
絶したままだった。

【唐辛子ジュース】
このパーティで
気絶したくない。

突撃した隊長を守っていたらあち
らが勝手に下がっただけなんです
けれども」
フロレンツィア..「流水の方かし
ら？」

ビルギット..(ドサリと荷物をおい
て)「か弱きものを守れというのが、
王家の家訓ですから」

アモウレ..(王家って言っちゃった
よ、この王子様...)
シヤス..「そうだ、今「流水」の魔
物と話をしていたんだがな...:不
覚をとってしまった。すまねえ」
アモウレ..「魔物同士で争うとはた
だごとでは無いようで」

ふと、魔物の少年は顔を上げた。
その目と王子の目が合い、シヤス
は目を丸くする。

「...これで二度目か」

対するビルギットは、既視感を
覚えながらも、首を傾げていた。
シヤスは数年前、王子を助けたこ
とがあった。もつとも、向こうは
覚えていなかったようだが。

シヤス..「いや、なんでもねえ。
お前たちは魔物でも助けてくれる
んだな...」

アモウレ..「魔物のお知り合いがい
らっしゃるとは顔が広いようで」
ビルギット..「君は逃げてください。
僕達が来たからには、蛮族に好き
勝手させません」

シヤス..「...そうはいかねえ、俺
だって、やらなきやいけねえこと
がある。俺は「流水」ナンバー2
だからな！」

アモウレ..「ナンバー2、ですか。
いやはや恐ろしい恐ろしい」(あま

【突撃した隊長】

十二歳の切り込
み隊長であった。
フロ「突撃はデンジ
ヤラスな戦法よ。一
応伝えておく」

【荷物を置いて】

フロ「そのいらな
い荷物置いてきなさい」

【ナンバー2】

ドルナ「私は？」

り信じてない顔)

フロレンツィア：「ごめん、さっきの様子見てたけどナンバー2に見えない」

アモウレ：「フロレンツィアさん、事実でも言っていることと悪いことがありませんよ？」

シヤス：「うるせえ、さっきは不覚をとっちゃったただけだ！ 対集団より個人戦の方が得意なだけだ！！」

ビルギット：「…流水？ ではこの魔物たちは皆、流水の者たちなのですか！？」

シヤス：「そうだが…お前たちは何の目的でここに来たんだ？」

ビルギット：「もちろん、リヤタを蛮族から取り戻すために決まっています！」

アモウレ：「冬が終わらないので、

その解決と仲間の壁役としてここまで来ました」

フロレンツィア：「上司の命令」

ビルギット：「がくー！」

フロレンツィア：「と、いうのはまあ30%ぐらいだけど。70%はリヤタの解放よ」

シヤス：「そうか…：こんなことできるの、俺が知る限り一人しかない。にわかには信じられないし…。これほどまでの力を見るのは俺も初めてだから…：「街の状況を見ながら」

アモウレ：「ナンバー2さんは今からどうされるんですか？ あなた

の目的を知りたいですね」

シヤス：「俺は今からそいつの元に行き来すが、あいつらから場所を聞き出せなかったな…：チッ」

アモウレ：「場所を聞き出そうとし

【言ってもいいことと悪いこと】
自分の顔を鏡で見してみたまえ。

【対集団より個人戦の方が得意】
フロ「戦いは数で集団戦だから、メツチヤ強い人一人よりそこそこ強い人百人欲しいのよね」

【リヤタの解放】
ニーチェに頼まれたことをお忘れなく。

【ナンバー2】
ここでふーちゃん吹き出した。やめてあげてよお！

て返り討ち、というところですかね？」

シヤス…「よくわかんねえが、いきなり俺を裏切り者呼ばわりしてきやがった！ 許せねえ！！」

…仕方ない、俺もお前たちに ついていこうと思う。そちらがそれでもいいのならばな」

アモウレ…「私がかまいませんよ、ナンバー2さん」

ビルギット…「味方は多いに越したことはありません！」

フロレンツィア…「私はビルちゃん がいいなら」

アモウレ…「決まりですね」

シヤス…「すまねえな、なら最後に俺の名前を言っておく！」

シヤス…「オルキス！ // 流水」
のナンバー2だ！！」
フロレンツィア…「私はフロレンツ

ィア…ウインチェスター。フォーダーの変人」

アモウレ…「シヤスさんですか。私はアモウレ…ベヒリツヒ。よろしくお願いいたします」

ビルギット…「ボクはリヤタ王国、第一王位継承者、ビルギット！

リヤタ王国は必ずボクらで取り戻してみせる！」

HL…と、いうところでシーンを一旦切りましょうか。

フロレンツィア…「(さらっと流された)」

シヤス…その前に、エングラムの演出していいですか？ ちよつと無理矢理ですが…w

HL…はい、どうぞ。

寒い…：…なんだ、この寒さは？

普段からこの地域は寒いとはいえ、

「さらっと流された」
カットしたが、ナンバー2にツボつてずつと爆笑する姿はまごう事なき変人。

今日の寒さは本当に身に染みる。
俺の身も凍りつきそうだ……。

彼は思い出す。かつての仲間の、
本能に身を委ねた歪んだ笑みを。
己に流れる瘴気に穢れた血を。あ
の笑みを浮かべる自分自身が脳裏
をかすめる。背筋が凍る思い。
彼は既視感を覚えた。今、現世
ではない……生まれる前の記憶。

シヤス…前世のエングラムの、「苦
痛」を覚醒させたいです。この寒
さが苦手で苦痛に感じるのは、前
世からきているのだ……と。
HL…ほい、了解ですー。できれ
ば、シーン中の流れでしてほしい
ですけど、まあ難しいですしねw

リヤタ王国の王子ビルギット。
フォーダーのフロレンツィア。

暗い過去を抱えるアモウレ。
氷の女王の息子シヤス。
いよいよ終結した四人の遺痕者。
彼らは止まった時の中、迷宮と化
したリヤタに挑む。
彼らの行く手を阻むものは？
次回、シーン8、【探索】。

リンカネート・ビースト。

輪廻の理は、
一時の救済か、
久遠の煉獄か。

【これまでのあらすじ】

「氷の女王」と名乗る魔物の女。彼女は突如としてリヤタ王国を襲撃し、氷付けにして手中に収める。

辛くも父である国王の尽力により脱出したリヤタ王国の王子、ビルギット。王国の外の瘴気に吞まれてしまう彼だったが、通りがかった旅団、フォードーに助けられる。彼は己の意志でリヤタを取り戻す義勇軍の指揮を申し出る。

フォードーの一員にして「選ばれし者」のフロレンツィアは、親友のニーチェの頼みもあって、リヤタの奪回作戦に同行する。己の使命を果たすため。

折しも、リヤタの隣村ハイキリヤでは冬が明けないという問題のため、アモウレを隊長とした調査隊をリヤタに派遣する。かつてリ

ヤタで家庭を持っていた彼は、懐かしみと共にリヤタの現状に愕然とする。明けない冬の原因がリヤタと知り、彼も義勇軍に参加する。

その頃、「氷の女王」の命ずるまま攻め入った魔物たちの中に、一人その暴挙を疑問視する少年がいた。彼の名はシヤス、「女王」の実子だと知らされた彼は、「女王」の右腕からその真意を調べてほしいと依頼される。それまでリヤタを他の魔物から護っていた、「女王」の率いる魔物集団、「流氷」。今や本能のまま略奪を繰り返す彼らに反旗を翻したシヤスは、彼らの毒牙にかかる。くしくもそこへ突入した義勇軍は、その魔物の少年を助け、行動を共にすることになる。

【魔物】

瘴気に適応した生物。普通、理性を失い凶暴化する。

【リヤタ王国】

王国と名乗っているが、他の村と大差ない。最北端の寒く貧しい土地だ。

【フォードー】

村の外は瘴気に覆われている。瘴気の中をゆく運び屋・商人のこと。

【ビルギット】

デュルフ（鱈人）とマオ（猫人）の混血。十二歳の少年。

【フロレンツィア】

ワルム（傭人）の少女。十六歳。

【アモウレ】

グレス（蹄人）の男性。三十二歳。十年前に妻フィアセモと死別した。

【シヤス】

デュルフとグレスの混血。十歳。

● シーン 8 「探索」

HL…さて、これ以降、リヤタの真相と事態の解決のため、探索を行うことになりましたが、その探索はランダムイベントになります。シヤス…ビルギットなら街の構造だいたい知ってそうw

HL…それでも、魔物との戦闘を避けて迂回したり、**時間停止**や瘴気の問題がありますので、ね
ビルギット…果たして世間知らずの王子が把握しているかと言われると…。

HL…OH…。とりあえず、探索のアクトルールを説明しますね。

・ シーンプレイヤーは1D10を振る。その値によってイベントが発生する。

・ イベント消化後、進行度を1D

5点増加させる。進行度がたまる

とイベントが起こることがある。
・ イベント中は誰もメインフェイズを行えないが、進行度を1D3点減少させれば全員1回ずつメインフェイズを行うことができる。

HL…こういったイベントを順繰りにやっていたいただきます。**決戦ステージ**(クライマックス戦闘)に到達するには、30の進行度が必要です。

なお、時間停止で瘴気も停止しているので、シーン終了時の瘴気ダメージはありません。

アモウレ…運が良くても六回はかかるか…。

HL…よろしいですか？

一同…はい！

HL…ではやっていきましょう！

【時間停止】

街の大部分は氷の女王の「亡国の刻印」の効果で時間が止まっている。これはその時にその場にいた者のみ効果があり、後から侵入した者には関係ない。

【アクトルール】

そのシナリオでのみ導入するルールのこと。

【1D5】

十面ダイスの出目を2で割った値(端数切り上げ)。

【メインフェイズ】

行動済みになる行動。マイナーアクション、メジャーアクションからなる。ここではHPの回復などを想定している。

【決戦ステージ】

怨痕者との戦闘。

●探索1／進行度0

フロレンツィア…あ、そうだ。これって団体行動です？

HL…全員登場ですね。では、まずビルギットから。イベント決定どうぞー。

ビルギット…(ころころ)3。

●死んだことに気づいていない亡霊に囚われる。

全員、「自我」判定に失敗すると、エンграмが1つ未演出になる。

HL…探索を始めたあなたたちだが、ふと気づくとそれぞれが異なったヒトでも魔物でもない…：：かつては生きていたものに囚われていた！
アモウレ…そういえば判定の仕方をまだ教わっていませんでしたね。

ビルギット…100%方式でしたね。クトウルフのような。

HL…です。[自我]の技能率を目標として、1D100で判定を行います。出目が技能率以下なら判定成功となります。

アモウレ…これは…一体…フロレンツィア…幽霊ね…：：取り憑かれるとヤバイ

ビルギット…命を落とした、国民…

シヤス…「ふん、この程度…」

HL…では、判定どうぞー。

ビルギット…(ころころ)70。「自我」が60だから失敗…：：。

シヤス…(ころころ)97…：：ふあんぶったー！？

アモウレ…(ころころ)19、よし成功。

【ころころ】

ダイスを振る音。ダイスロールした時この表記をする。

【判定】

能力や技能の数値を使い、ある行動が成功したか否かを決めること。十面ダイスを2個振り、それぞれ十の位、一の位とする。

00<09はスペシャルで絶対成功、90<99はファンブルで絶対失敗になる。この中で、00はクリティカルで特別な成功、99はフェイタルで特別な失敗になる。

【クトウルフ】

クトウルフの呼び声というTRPG。パーセンテージだが、細かい差異がある。

フロレンツィア…(ころころ) 40

…「自我」は23だから失敗。

HL…では、こんな感じかな。

HL…ビルギットの耳元にささや

くのは、年老いたヒトの声。「王子

…どうか、民を救ってください、

どうか…」

ビルギット…「守れなかった…」

と、立ち止まりそうになる。

HL…フロレンツィアの首筋には、

生暖かい涙のようなしずくが落ち

る。それは、泣きじやくる女の子

の声。「てんしさま…：こわいよう

…：」

フロレンツィア…「ダイジョウブ、

ダイジョウブ。すぐに楽になるか

ら…：」(幽霊なでなで)

HL…アモウレに覆いかぶさるの

は、小さな男の子。「いたいよう

…：くらいよう…：」

アモウレ…「悪霊退散、悪霊退散…

…呪い呪われ困ったときは…：」

(大げさに十字を切りながら)

HL…シヤスの手元に、気づくと

誰かの手が。血にまみれた、青い

手…：「あなたも、殺したんでし

よう…：たくさん…：」

シヤス…「く…：来るなっ！ うわ

ああっ！！」

アモウレ…「皆さん、気を確かに

…：と言いましても、結構まづい

ようですね」

シヤス…「やめろ、そうするしかな

かったんだ！ 来るな…：来るな

あー！！」

フロレンツィア…「うるさあー

い！」(とシヤスをはたいて)

フロレンツィア…「はっ！ 私は何

【幽霊なでなで】

フロレンツィアは判定に失敗している。そして霊には触れない。一時的発狂である。

【たくさん】

シヤスはリヤタに襲い来る魔物を退けるため、多くの同族を手にかけてきた。

を！？」

シヤス…「……」叫びが止まったか
と思うと、突如無言に……。

アモウレ「王子様、お氣を確かに」

(頬を軽くペシペシ)

ビルギット「いい、行かなきゃ、民
が待ってる……」(ふらふら)

アモウレ「お 氣 を 確 か

に」(ビルギットの耳元で低く)

ビルギット「はっ！？」

H L…さて、というわけでシヤス
のエンграмがひとつ未覚醒に戻
った、という感じですかね。

シヤス…つらいw

H L…別にこのシーン中で、自分
のエンграмを眺めて、それっぽ
いなーというのがあれば、申告し
てくださってもいいんじゃないよ？

アモウレ…私はパスだな。

シヤス…ないですw

H L…では、ビルギットは1d5
の進行度をどうぞー。

ビルギット…(ころころ) 1……。

H L…ちまつ……。

アモウレ…ぐわーw

シヤス…はい。

ビルギット…狂氣にとらわれて？

方向音痴で？

H L…あるいは両方かもしれない

……。

アモウレ「王子様ー、お氣を確か
に……」

ビルギット…豆腐メンタル……。

フロレンツィア…「えい！」(唐辛

子ジュースをビルギットの口に)

H L…シーン外で遊ぶのやめるよ
うにw

二人…はい。

【エンграмム】

記憶痕跡のこと。
悔恨とも書く。転生
しても残る前世の
記憶のこと。
前世の記憶がフ
ラッシュをデジャヴ
ユといい、シーン終
了時にPLはデジ
ヤヴユを宣言して
よい。
デジャヴユした
エンграмムは覚醒
し、覚醒したエン
グラムは様々な恩恵
を与える。具体的
は、判定の出目の十
と一の位を入れ替
えたり、判定を振り
直したり。

●探索2／進行度1

HL…では、次はフロレンツィアがシーンプレイヤーです。イベント決定どうぞー。

フロレンツィア…(こころ) 3。

HL…ふむ。では、あなたたちが先を急いでいると、さきほどビルギットに蹴散らされた魔物たちが、群れを成して現れます。

まもの(HL)…「さつきはよくもやってくれたな…！」

フロレンツィア…「おおっと！」

アモウレ…「おや、これはまずいですね」

まもの(HL)…「へっへっへ、生きて帰さねえぞ！」

シヤス…「お前ら…：まだ俺にたてつくつもりか！」

(キバをガツと開いて威嚇！)

まもの(HL)…「ちようどいい、

負け犬のシヤス様の首も頂いて帰ろうじゃねえか…：なあ、おまえら！」

(魔物が振り返ると、背後の闇から無数の笑い声が)

シヤス…「さつきのようにはいかんからな！」

ビルギット…「あ、争いは…：！」

アモウレ…「おおっと、私の仲間に手出しはさせませんよ？」

(レリックをむき出しにしつつ)

フロレンツィア…「話がわかるならいいんだけどねえ」

アモウレ…「話すには相手がいささか多いですね…：！」

○戦闘シーン／無数の魔物と

HL…というわけで、戦闘に入ります。

ビルギット…お初戦闘！

【負け犬】
負けシヤチ。

【相手が多い】

>TALK
ネエ

<あいてが
おおすぎて

はなしが
まとまらない！

種族…軍団は仲魔
にはできない。メガ
テニストなら一度
は通った道。

アモウレ…初戦闘だー！
フロレンツィア…頑張れ！（回復役）

アモウレ…頑張る！（壁役）

HL…相手はテネブリスレギオン2体です。

みなさん、自分の行動値を申告してください。行動値の早い順にターンがまわってきます。

では戦闘の流れを説明します。

戦闘はラウンドという単位で区切られていて、ラウンドはセットアップ、イニシアチブ、メイン、リアクション、クリンナップの五種類のフェイズに分かれています。イニシアチブフェイズで行動値が高い順にメインフェイズを行い、メインフェイズを行ったキャラは行動済みになります。未行動状態

のキャラがいなくなったらクリンナップフェイズに移行して、このラウンドが終了します。

まあ、実際にやってみますか。

戦闘の配置はPCが同一エンゲージ、敵のレギオンも同一エンゲージ、間は5mです。

まず、行動の前にセットアップフェイズから入ります。セットアップフェイズも行動値の順で宣言してきますが…：…できることがあるのはフロレンツィアだけです。ね。フロレンツィア…《聖戦の灯》、使うよー。

HL…OK、対象はPC全員でいいですよ？

フロレンツィア…です。

「がんばれー」というと、頭のリングにあかりが灯る。

アモウレ…「おお、何と神々しい」

【レギオン】

一人一人では力が小さいものの、群れを成して脅威となつた存在。トループやモブなどの方が通りがいいかも。

【行動値】

素早さ。
フロ…14、
ビル…12、
アモウレ…11、
シヤス…9。

【エンゲージ】

接敵しているキャラクターの集まっている単位だと思えばいい。

【聖戦の灯】

ワルムのトライブアーツ。アーツは特技と読み替えても構わない。複数の対象（範囲）が行う次の攻撃のダメージを1D10点増やす。

H L ..他に何かできる人はいないから、このままイニシアチブフェイズ。で、ここでもフロレンツィアに最初のメインフェイズが回って来るのですが、「待機」というのを宣言できません。

任意のイニシアチブフェイズで「待機解除」を宣言することで、すぐに行動できるんだけど、どうする？

アモウレ ..と言うと特定の人の前で「じゃあ動きます」ができる？

H L ..その通りです。
フロレンツィア ..待機ですねー。出来ることないので。

H L ..では、ビルギットのメインフェイズ。

シヤス ..王子様！

ビルギット ..はい。 ..動かずに魔法攻撃ですね。

H L ..メインフェイズはマイナーアクションとメジャーアクションからなります。それぞれでできることがあります。省略。

アーツの宣言どうぞー。

ビルギット ..レギオン1に向けてまつろわぬ氷柱を放ちます。

H L ..マイナー放棄、メジャーは「独魔」+「まつろわぬ氷柱」ですね。

「海蛇が如く」を組み合わせると、対象を増やせますが、どうします？ つて、もともと範囲（選択）ですね。

シヤス ..全員に攻撃できるはず！

アモウレ ..魔法つてつえー！

H L ..おっけーです、代償を支払って判定をお願いします

ビルギット ..R代償はどこから引きますか？

【できること】

マイナーアクションではアイテムやアーツの使用のほか、戦闘移動を行える。移動距離は行動値+5m。

メジャーでは「白兵」、「射撃」を用いた物理攻撃、「独魔」、「秘魔」、「擬魔」を用いた魔法攻撃ができる。この時、技能が合っていれば特技を組み合わせることができる。

それ以外にも、「手当」による治療、「交渉」による応援や、防御態勢をとることができる。

【範囲（選択）】

あるエンゲージの中から好きなだけ対象を選べる。

【代償】

アーツを使うコスト。HはHP、SはSP。

H L .. 代償の R 3 は、**傀儡状態**でなければ H P、傀儡状態であれば S P から支払います。

ビルギット .. はーい。(こころころ)
9 1 : : : おや?

シヤス .. (あかん)

H L .. おっと、ファンブルですな。
ここで、アモウレさんが**≒運命紡ぎ**を使用すると、成功になりませんね。

アモウレ .. しましうかねー、せっかくの初撃ですし。

H L .. 運命紡ぎは 1 戦闘 1 回なので、使って損はないですね。

アモウレ .. 「ん.....」

アモウレは**≒運命紡ぎ**を発動！
S P が 3 点減って 7 に。

H L .. 運命が書き換えられる！
ということ、ビルギットの判定の出目が 9 1 から 1 9 になり、成

功になりますね。さて...: 攻撃が成功したので、レギオンのリアクションですね。

魔法を防御するリアクションはレジスト、魔法を回避するリアクションはキャンセルといいます。

レジストの場合、判定に成功するだけでいいですが、キャンセル判定は相手の**達成値**より高い値を出さなければなりません。

その代り、レジストはレリックの抵抗値分ダメージを軽減するだけですが、キャンセルは魔法を受けずにすみます。

さて、レギオン 2 体はキャンセル判定します。レギオンの「独魔」は 2 2 ですが、今回はビルギットの出目が 1 9 なので、1 9 以下を出さなければなりません。
というわけで...: (こころころ)

【傀儡状態】

H P が 0 以下になった時、「トランス」を宣言すると傀儡状態になる。

同時に死亡状態になり、死亡状態の行動できないという効果を受けない。以後、ダメージは S P に入る。S P がマイナス 5 0 以下になると魂魄四散状態になり、キャラクターストする。

【運命紡ぎ】

グレスのトライブアーツ。判定の出目の十の位と一の位を入れ替える、強力なアーツ。

【達成値】

判定結果の出目。この場合、ビルギットの魔法攻撃の達成値は 1 9 になる。

レギオン1…33↓失敗

レギオン2…35↓失敗

HL…しかたない、全員当たりま

した。続いて、ビルギットのダメ

ージロールですね。

まつろわぬ氷柱のダメージは刺

+4ですが、そこにビルギットの

レリックの魔力が加わります。

ビルギット…4+7です。

HL…そこに、元からダメージは

1D10のついています、今回は

聖戦の灯で更に+1D10されて

います。つまり、合計は4+7+

2d10になります。

ビルギット…(ころころ)ダイス目

だけで、17…!!?

アモウレ…でけえ!

ビルギット…28(ふるえ

まもの(HL)「ばっ、ばかな!」

ビルギット「きらめけ! フュー

ネラル!

ビルギット…腰から取り出した短

刀を振りかざすと、氷の刃が後ろ

に飛んでいった!

「ちよつとそれたかもー!」

アモウレ「いやいや、むしろ大当

たりのようですが?」

ビルギット「えっ! どうし

て!」

まもの(HL)「ぐはっ…ちっ、

へへへ、死ぬならよお、呪いの一

つもかけてやらねえとな!

HL…レギオンはダメージを受け

てHPがマイナス10になります

が、そのあとのポストダメージア

クションで「暗き血潮」を使用し

ます。

ビルギットの魔法が魔物たちを

一撃のもとに倒しますが、切り裂

いた魔物の体から瘴気を帯びた血

【ダメージ】

ダメージには属性がある。斬、刺、殴、癒、無の五つだ。それぞれ時に別の効果が発生する。また、無属性以外は防具による装甲値が存在し、それによって常時軽減される。なお、癒はHPが回復する属性である。このゲームでは、「手当」以外の回復は攻撃として扱う。

【フューネラル】

ビルギットのレリックの銘。魔法文字の刻まれた短刀。

【ポストダメージ】

ダメージを受けた後のアクション。受ける前にはプレダメージアクションというタイミン

グが別にある。

液があなたにふきかかります！

ビルギット…「わっ！」

HL…効果は、ダメージを与えてきた対象に1d10点のHPとSPダメージを与えます。

(ころころ)…：えーと、合計、

13点のHP・SPダメージです。

ビルギット…「や、焼けるように熱い！」

アモウレ…「王子様っ！」

フロレンツィア…「ビルちゃん！？」

アモウレ…「やはり、私は守ることなどできないのだろうか…？」

シヤス…シヤスは魔物に「お前ら！」と呼びかけますが、応答はありませんか？

HL…「…」へんじがない、ただのしかばねのようだ。

シヤス…「死んじまったか…」(そ

のまま、黙ります)

フロレンツィア…ここで回復ってできるのかな？

HL…戦闘継続の意思のあるキャラクターがいなくなったクリンナップフェイズに戦闘終了なので、

フロレンツィアは回復できますよ。

フロレンツィア…では「施命」いきまーす。(ころころ) 97…。

HL…たいむ！ 《魔法球》で対象を範囲選択にすると、自分のHP

コストも回復できますよ。

フロレンツィア…じゃあ魔法球もプラスしま、す？

HL…今の判定を見なかったことにするので、もういちどお願いします！ HLの認めていないダイ

スローは棄却できる、ゴールドエンルーだ、いいね？

アモウレ…www

【13点】

今思うと、1D10点は強すぎ。実際この時はめっちゃ慌てていた。

【施命】

ワルムのトライブアーツ。癒属性の攻撃、すなわち回復魔法。

【ゴールドエンルー】

GMの権限などを規定するルールのことを、ゴールドエンルーと呼ぶことがある。このルールが、こういふ使い方ではない。

フロレンツィア…www じゃ、
ダイスロール。85%。(ころころ)
97…まそつぷ！

…《癒回路補術》使うよ。

HL…そ、それで成功しますね(震え声)

フロレンツィア…もろもろで回復量は16であってます？

HL…ですね、そこにダメージダイスが1Dあって、《聖戦の灯》でもさらに+1D。

フロレンツィア…(ころころ)ダイス目足して27。

アモウレ…滅茶苦茶回復するじゃないですか、すげー。

フロレンツィア…HPコストでもしっかりバランスとれてるね。

HL…うん、全員満期だね。このぐらい回復しないと、アタッカーのHPがコストでマツハだし。

シヤス…すでにSPつらそうな人がいるけどまあ大丈夫…？

ビルギット…ふう助かった(助かってない)

アモウレ…まだロストまで47余裕あるし(震え声)

フロレンツィア…「ビルちゃん大丈夫？」

ビルギット…「な、なんとか！」

HL…さて、とりあえず戦闘終了、フロレンツィアは進行度1D5ど

うぞー。

フロレンツィア…(ころころ)2、しよっぱい。

HL…(牛歩戦術)

フロレンツィア…「ぐぬぬ…もつと素早く行動した方がいいわね」

アモウレ…「モー？」

HL…では、さくさく行きましよう。

【まそつぷ】
オレの新しい脇を見せてやる！

【癒回路補術】
回復魔法の判定後、出目の十と一の位を入れ替える。

【しっかりバランスとれてるね】
ほんまか？

【モー？】
君は走れたまえ。

●探索3 / 進行度3

H L…アモウレはイベントを決定してくださいー。

アモウレ…(ころころ) 1。

H L…ほうほう…：：：では、戦闘を終え先に進むと、先ほどの魔物たちが食い荒らしたのだろう…：：ほんの数時間前には「一家であった」凄惨な死体が転がっている。

アモウレ…う、これはひどい…：：「

ビルギット…「ま、また…：：」

H L…彼らは口に出すのも憚られるほど凄惨な最期を迎えたようだ…：：吊ってやるくらいは、してやるべきかもしれない。

フロレンツィア…「…：：」

シヤス…「この跡…：：間違いない。もう、俺の居場所はないのか？

いや…：：」(小声でぼそっと)

アモウレ…：：：お墓を作ってあげ

ても、いいですかね？ 時間はか

かってしまえますが…：：？」(ビルギットを見ながら)

ビルギット…：：お吊いをしまし
よう。大事な国民です」

フロレンツィア…「こーゆーのは私の仕事ね」

アモウレ…「優しい王子様で、よかったです」というわけで吊いたいと思います。

ビルギット…「なむなむ」

アモウレ…「安らかにお眠りください…：：」

H L…君たちはかわいそうな国民を吊った。彼らは感謝しているだろうか…：：だが、少なくとも、君たちはやるべきことを見出したはずだ。

全員、S Pが上限を超えて1d 10点回復します。

【かもしれない】

突然ゲームブック風の喋り方になるH L。なお、H Lは世界樹の迷宮をイメージしていた。

【俺の居場所】

魔物でもなく、ヒトでもなく。十歳の彼には、孤独は辛かった。

【なむなむ】

リヤタの国教はいつたい何なのか。

一同…やったー！（ころころ）
フロレンツィア…1。
ビルギット…4。
アモウレ…6。
シヤス…8。
HL…ダイス目格差社会…。
シヤス…なぜか回復した…：むし
ろ滅りそうなのにw
アモウレ…なんだかんだで凶太い
No. 2さんであった。
HL…では、進行度どうぞー。
アモウレ…（ころころ）5！
HL…さて、進行度が5を超えま
したので、イベントが発生します。
…：内容は情報開示なので、どう
してわかったかは、任せます。た
ぶん、亡国の刻印の魔法陣や術式
から、学の高い人がわかったんで
しょう。

○探索イベント1

「亡国の刻印」のことがわかる。
この刻印は、定められた「法」を
施行する。法を解除するには、こ
の刻印を支えている宝珠を破壊す
るしかない。

法は「リヤタの時間を停止する」。
時間が動き出せば、**魔物は対瘴気
結界で死滅する。**

なお、「明けない冬」とは、亡
国の刻印の準備として施された魔
法陣が原因。亡国の刻印が破壊さ
れれば、明けない冬は解決する。

アモウレ…もうわかったって事で
ロールしていいですかね？

HL…どうぞー
フロレンツィア…：玉々をぶち
壊す必要がありそうね
アモウレ…なるほどなるほど…

【むしろ滅りそう】
考えた結果、シヤ
スはこのSP回復
を放棄した。やっぱ
り相応しくないと思
ったようだ。

【魔物は死滅】
シヤス「え？」

【学の高い人】
フロレンツィア
以外は全員【知性】
20台。アモウレと
シヤスに至っては
最低値。バカと天才
は…？

【玉々】
紙一重。

ではそうすれば私の任務は達成されるわけですね」

フロレンツィア「そうね、玉々を壊せばリヤタもおそらく開放できるでしょうし」

シヤス「誰がやったかは……あの
人しかない。しかし、そんな力
あったか……？」

フロレンツィア「世界はわからない方の事がおおいのよ」

アモウレ「ただ、一つだけ問題がありますね。時間が動き出すと結
界で魔物は死滅って……つまりシ
ヤスさんは、その……ですよね」

（ものすごく言いづらそうな顔）
シヤス「俺か？」

そういつてシヤスは着ているロ
ーブをひらひらと示す。

「これがある限り、俺は街でも普
通に生きてはいられる」

アモウレ「はい、あなたです。非
常に危険ですよ……つてあ、そう
なんです？」

フロレンツィア「そ、それは瘴氣
の衣ッ！」

シヤス「最も……まあいい」

アモウレ「少しホツとしました、
でしたらそれに関して心配するの
はやめにさせていただきましょ
う」

ビルギット「……つまりどういっ
たことだってばよ？」

アモウレ「原因の珠を叩き壊せば
万々歳、ということですよ王子様」

フロレンツィア「さーて、その原
因の玉々を探さないとね」

アモウレ「たまたま見つかるかも
しれませんね」

フロレンツィア「気温が下がった
気がしたわ」

【瘴氣の衣】

固体の瘴氣、腐石
でできたローブで、
これがあれば結界
内でも浄化ダメー
ジを受けない。

【たまたま】

たまたま……。

ビルギット…「わかりやすい！ よーし、たまたまを壊しに行くぞ！」
アモウレ…（よかった、元気出たみたいで）

●探索4／進行度8

HL…では、シヤスさん、次の探索イベントを決めてください。

シヤス…（ころころ）8。

HL…む、タイミング悪いかな？
君たちが探索を続けていると、ひとつの魔法陣が教会内に張られているのを見つかる。

唯一神の御業か、時間の止まった中でも瘴気を退けている。君たちは、傷ついた時にはこの結界の中で休息をしてもよいだろう。
アモウレ…「おや、どなたがこんな…」
シヤス…「…ここなら安全か？」

フロレンツィア…「でも今は休む必要あるかしら？」

HL…傍らには、息絶えたマオの司祭が血だまりの中に倒れている。おそらく彼が今際の際に、生存者のために残したもののだろう。

アモウレ…「…！」

フロレンツィア…「…埋葬しましょうか」

HL…えーと、現在、みなさん全快しているの、今後、傷ついたときにここを利用すると宣言すれば、シーンを使用せずにHPを2D10点回復できます。

ビルギット…「休んでいる暇はないかもです…」

アモウレ…「そうですね、休む必要はありませんがすべきことはあります」
「（葬る準備しながら）
ビルギット…「勇敢なるリヤタの国

【たまたま】

王子がどんどん
キラ性を覚えて
いく。

民よ、どうかやすらかに」（なむなむ）

HL…さて、進行度 1 d 5 をシャスはお願ひします

シャス…（ころころ） 1…∴。

「（体が鈍いな…）」

ビルギット…「慎重に進みましょう。一人でも見失わないように…」

●探索 5 / 進行度 9

HL…さて、一周してビルギット。

ビルギット…（ころころ） 1 0。

HL…君たちは道幅の狭い路地に差し掛かった。君たちが注意深く行軍していると、突然足元から瘴気が噴出した！

魔物たちの畏だ！ 突然、煉瓦の隙間から吹き出した瘴気に、君たちはとっさに息を止めることもできなかつた！

ビルギット…「!?」

アモウレ…「なんとおー!?」

フロレンツイア…「!?」（ばっさばっさ）

シャス…「おい、大丈夫か？」

HL…というわけで、無+1 d 1 0 点のダメージをシャス以外は受けます。

ビルギット…（ころころ） 1。

アモウレ…（ころころ） 4。

フロレンツイア…（ころころ） 8。

ビルギット…「げっほげっほ、卑劣な畏を…！」

フロレンツイア…「げほっげほっ」

アモウレ…「ぐっ…結構吸い込んでしまったようです」

シャス…「まだ、他にも魔物がいるかもしれないな、こんな畏があるなら、俺が先頭に立ったほうがいいか？」

HL…遠くから魔物たちの下品な笑い声が聞こえる。遠くから操っているようだ。

そして、ダメージを受けたら、「瘴気」判定を行ってください！

「瘴気」判定に失敗した場合、…：今回はなんともありません。ですが、次回失敗した場合、≪魔物体質≫を取得してもらいます。

三人…失敗。

フロレンツィア…「マスクしましょう」

シヤス…「…：…気を付けるぞ、それとも、先にほかの魔物ぶつとばすか！？」

アモウレ…「シヤスさん、落ち着きましようか」

フロレンツィア…「どうどうどう」
ビルギット…「卑劣な蛮族め、出てこい！ 相手してやる！」（ぐるぐ

る目）

シヤス…「あの程度、俺一人で！」
アモウレ…「（若いっていいなあ）」
フロレンツィア…「おちけつ！」

唐辛子ジュースを王子に投入！

ビルギット…「ぶふっ」

フロレンツィア…「あなたが冷静でない」と軍は乱れますよ」

ビルギット…「…：…ごめんなさい、瘴気に当てられてしまったみたいで。くらくらする…：」

HL…さて、進行度をどうぞ。

ビルギット…（ころころ） 5！

HL…盛り返したぞ！

アモウレ…ばんじゃーい！

○探索イベント2

HL…では、進行度10を超えたイベントが発生します。

君たちが角を曲がると、道の突

【魔物体質】

魔物ではないが、魔物に近づいていることを表す一般アーツ。ヒトと魔物の合いの仔となる。

【唐辛子ジュース】

フロレンツィアはこのパーティのブレインです。

【くらくらする】

唐辛子のせい。

当りに向かって黒く光る魔法陣が伸びている。そしてその交点には、禍々しく光を放つ宝珠が設置され、あくびをしている魔物が立っている。見張りのようだ。

シヤス…そのままものは流水のメンバーですか？

HL…ですね。君たちは「隠密」でこっそりと破壊を試みる事ができる。失敗したなら、増援を呼ばれ、手痛い反撃を食らうことになるだろう。

フロレンツィア…「話を通じるのであれば穏便に済ませたいわね」
アモウレ…「あくびとはたるんできますね」

ビルギット…「ん？ たまたま？」
HL…なお、判定は代表者一人でお願います。しかし、失敗したら無+1d10点のダメージです。

相談の結果、最も「隠密」の高いフロレンツィアに決まった。

フロレンツィア…上からルーデルアタックだ！

(36%ころころ) 28!

アモウレ…成功キター！

フロレンツィア…「急降下爆撃ッ！」(はるか上空から垂直落下)
アモウレ…「勇猛果敢とはこのことですね」

ビルギット…「鷹狩りを見ているようです」

フロレンツィア…「宝珠を速やかに破壊ッ！ そして急上昇ッ！」

アモウレ…「王子様。その発言、多少失礼ですよ」

HL…魔物たちが気づいた時には既に宝珠は破壊され、フロレンツ

【たまたま】
そのたまたまいうのをやめなさい。

【ルーデル】
ハンス＝ウルリッヒ・ルーデルは、第二次世界大戦中のドイツ空軍の軍人。ヨーロップ東部戦線において、ソ連戦車五百両以上と八百台以上の車両を撃破する戦果を挙げた。また、九機を撃墜し、地上砲火で三十回撃墜された。これらの戦功から、騎士鉄十字章の最高位の「黄金柏葉剣付ダイヤモンド騎士鉄十字勲章」を授けられた。
(Wikipediaより)

【鷹狩り】
鷹…鷹ってなんだ？
いるかもしれないけれど、いらないかもしれない。

イアの姿はもうない……と。

フロレンツィア…ついでに魔物何人か殺つていこう。「作戦成功！」

(アモウレの頭に着地)

アモウレ…「おかえりなさい」

ビルギット…「わー(ばちばち)」

HL…魔物たちは動き始めるが一足遅く、同朋を狩られて地団太を踏む…こんな感じですかね。

フロレンツィア…「というわけでさつさと行きましょう。残りの宝珠も探さない」と

アモウレ…「一つではないというのは面倒ですね」

シヤス…「こんなところで時間食つてる場合じゃねえか」

アモウレ…「暴れる相手はいるでしょうし、今は力を温存しておいてくださいかね？」

ビルギット…「後いくつあるんだろ

う……？」

●探索6 / 進行度14

HL…探索シーンを再開します。

フロレンツィアはイベントを決定してください。

フロレンツィア…(ころころ) 9。

HL…ふむ、ではフロレンツィアの隠密を無駄にしないべく急いでその場を後にした君たちだったが…君たちは不用意にも、亡国の刻印の強力な時間停止の圏内に足を踏み入れてしまった！

君たちは流れの遅い時間の中に囚われてしまった！ 脱出にはかなりの時間がかかるだろう！

フロレンツィア…「しまったああああああ」(スロモーション)

アモウレ…「まっすぐいっすくねええ」

【殺つていこう】

「ああ天使様、あの罪深き者に裁きを。こいつ天使です。というか、選ばれし者」です。

H L .. というわけで、フロレンツ
イアはこのシーンでの進行度 1 d
5 から、1 d 5 を引いてください。
マイナスになると、進行度が減り
ます。

フロレンツイア .. (ころころ) マイ
ナス 2 : : : あばばば : : : 。
H L : : : ええと、巻きましよう。

● 探索 7 / 進行度 1 2

H L .. 続いて、アモウレさん、イ
ベント決定お願いします。

アモウレ .. (ころころ) 4。

H L .. では、君たちはなんとか時
間停止の中から脱出することに成
功したが : : : 歪んだ時の流れは、
君たちに過去の記憶を、それも絶
望ばかりを見せつけていた！

全員、【希望】判定を、成功する
まで続けてもらいます。失敗する

たび、S P が 1 減少します。ただ
し、最大で 5 点減ります。

シャス : : : 「(ころころ) 成功。

アモウレ .. (ころころ) 1 0 0 ! ?

H L .. 0 0 は 0 なのでクリティカ
ルで成功ですね。

アモウレ .. あ、そういうことか w

ビルギット .. (ころころ) 成功、い
えい。

フロレンツイア .. (ころころ) 9 1、

9 4、8 7、4 7、8 7 : : : 五回

全部ミスったぞ！

H L .. S P を失ったのはフロレン

ツイアだけ : : : しかも最大値で w

フロレンツイア .. 超げっそりして

よう : : : 「うぷ : : : ..」

H L .. 『先ほどの制裁は、私刑だっ

たのではないか？』(唯一神の声

フロレンツイア .. おえ : : : ちがう、

ちがう、ちがう : : : 「(ぶつぶつ)

【唯一神】

その名はフラフ
イン、あるいはエー
カ・ヴァータ。
この世界に唯一
神が降り立った時、
天と地はまだ分か
れておらず、ただ混
沌の中に「命」――
今ではマナと呼ば
れているモノで満
ちていた。
「命」は「生まれ
たい」と訴え続けて
いた。唯一神はこの
訴えを聞き、「命」
に形を与え六柱の
始祖神を産み落と
した。唯一神は始祖
神に天地を分け、動
植物を生み出させ
た。
ワルム族は最後
に必要とされた種
族である。このた
め、直接唯一神にそ
の姿を模して造ら
れた。選ばれし者
は、唯一神の望む裁
きを与えねばなら
ない。

ビルギット「大丈夫！　僕達が希望を持ち続ける限り、リヤタを取り戻す希望は残っています！」
アモウレ「（希望、ですか…）」
では、進行値。（このころ）2。
フロレンツィア…元に戻ったゾ。

●探索8／進行度14

シヤス「早く進むぞ！！」
HL…では、シヤスはイベント決定どうぞ。

シヤス「（このころ）3。
HL…勇んで先を進むシヤス。しかし、君を目印にして、しんがりを務めていた後ろの者に罨が落とされる！　腐石の仕込まれた檻だ！　腐石は気化し、君は瘴気に包まれてしまった！
アモウレ「ドリフかとw
ビルギット「だれだろう。」

フロレンツィア…誰だろうね。
アモウレ「しんがり、ねえ…w
シヤス…ああ、先を行くと言ったばかりに…w

HL「（このころ）ビルギットだ！
アモウレ「わあ…」。

フロレンツィア…王子ーッ！

ビルギット「うぎゃっ！」

フロレンツィア「ビル！？」

アモウレ「しまっ…」

HL「無+1D10のダメージと、「瘴気」判定をどうぞ！

ビルギット「ちよっ！なにこ、げっほげっほ！」（このころ）

ダメージは、10点！？

瘴気判定、45%…

（このころ）成功、ほっ。

シヤス…ビルギットに瘴気かかぶせられたのを見て、ついにシヤスがキレル！

【元に戻った】
前向きな表現。

シヤス「魔物どもめ！　もう許さん…：皆殺しにしてやる、出てこい！！」これで前々世の憤怒のエングラムが呼応する！（としたい）

H L…いいぞ。

アモウレ「落ち着きましよう！　気持ちばかりありますが落ち着きましよう！」

フロレンツィア「安易に挑発に乗ってはだめよ」

アモウレ「王子様、大丈夫ですか！？」

H L…屋根の上で、魔物たちがげらげらと笑い転げている…：。

ビルギット「うう…っ」

シヤス「こつちまでこい！」

アモウレ「申し訳ございません、私は誰も守れず…：」

アモウレは過去を思い出してしよんぼりし始めています。

フロレンツィア「もつと警戒しましょう。もつと罠があるかもしれない」

ビルギット「だいじようぶ、です。民の苦しみに比べれば…：」

H L…魔物たちは、シヤスに気づくとニヤニヤとした笑いを浮かべ、挑発をし去っていきます。

シヤス「もう迷いはない、ぶつ殺す！」（凄まじい大声で叫ぶ）

フロレンツィア「待ちなさい！　自分勝手な行動は軍の規律を乱します！」

シヤス「くそっ、逃げ足の速い奴らだ！　覚えてろよ！」追いかけるのを諦め、吐き捨てる。

アモウレ「（四人でも軍なんです…：）」

H L…さて、進行度どうぞー。
シヤス…（ころころ） 3。

【魔物どもめ】
ブーメラン。

【四人でも】
エキストラのバックアップ部隊がそこそこついてきている。
実効戦力は四人しかいない模様。

HL…ふむ、15を超えたのでイベントが起きます。

○探索イベント3

HL…かなり重要なイベントです。君たちは、亡国の刻印のせいで歪んだ時空を目の当たりにする。それは、一人の女性の記憶だった。

具体的な描写は、ひとりのデュルフの女性が、禍々しい刀を手にするというセッション開始時の描写です。

ビルギット「誰でしょう？ リヤタの、国民？」

HL…シヤスは、それが間違いなく氷の女王だという確信を得ます。

シヤス…「氷の女王、俺の……」

HL…そして……ビルギットとアモウレは、「知識」判定を行ってください。

ビルギット…(ころころ) 41% :

12、成功！ かしこい！

アモウレ…(ころころ) 20% :

66、失敗。失敗したほうが本人

にはいいんだろ？ なあ……w

フロレンツィア…かしこい！

HL…アモウレは、その女性が、過去においてきた誰かであったよ

うな気がする。他人の空似か……

わからないのか、認めたくないのか、君にはわからない。

アモウレ…「まさか……そんなはずはない。そんなことをするよう

な人ではなかったし」

HL…ビルギットは、その女性の面影に、何故か見覚えがある。そ

れは……変わり果ててはいたが、写真の中に見た生みの親ではない

だろうか？ そう認識すると、す

たとんと腑に落ちてしまった……

【歪んだ時空】

亡国の刻印マジ便利。

【知識判定】

何かを知っていないか？ 閃いたりする場合は「観察」判定になる。

フロレンツィア「時空の歪みが凄
いわね」

ビルギット「いや……このヒトは
……母、さま……？」

シヤス「今、なんと……？」

アモウレ「(王子様の母親ならな
おさら私には無関係だな)」

ビルギット「え？　でも……母さ
まは……」

シヤス「……なあ、一応聞くが、
ここの映像に映っていた人は、今
どうなってると思う……？」

ビルギット「しよ、瘴気に触まれ
て……ま、まものに……」(震える)

アモウレ「お、お気を確かに……」

フロレンツィア「おちけつ！　親
ぐらいでうだうだしてたら一国の

長は務まらないぞ！」

ビルギット「お、親ぐらいって！」

シヤス「俺は、ここに映っている

人を知っている……まだ、断定は
できねえが、この様子……」

アモウレ「無言でシヤスの発言を
止めようとするが、結局その行動
自体止めます……」

シヤス「ビルギット、後で、話を
させてくれ……今はいい……」

ビルギット「そう、ですね。今聞
いてしまったら、決意が揺らいで
しまうような……」

アモウレ「み、皆さん落ち着きま
しょう！　ね、ね！　落ち着きま
しょうよ！！」(悲鳴に似た声で)

シヤス「……いくぞ」(皆に背を
向ける)

アモウレ「(違う、違う、違う……
他人だ、そうに違いなんんだ)」

フロレンツィア「(知らない方が
いいこともある。か)」

ビルギット「エンGRAMツ！」

【母さま？】

フロ「時空の歪みよ
りニンゲン関係の
歪みがヤバイ」
というセリフが
この時飛び出たが、
このシナリオ全体
を如実に表す名言
だと思う。

【親ぐらい】

フロレンツィア
は、この言葉をきつ
と自分にも言っ
きたに違いない。

フロレンツィア…エンegramムツ！
H L…おう、エンegramラムの内容を
を述べよw

フロレンツィア…絶望！

ビルギット…裏切り！

H L…OK、では探索に戻りまし
よう。

●探索9／進行度17

H L…ビル、ころころどうぞ。

ビルギット…(ころころ) 8。

H L…おおう、タイミングw

覚悟が揺らぐビルギット王子に
追い打ちをかけるように、かつて
一緒に遊んだ友が、助けを求める
ように固まっている。時間が止ま
ったその友は、君に訴えかけるよ
うに沈黙を語った…。

ビルギットがその意思を固める
シーンを想定しています。なので、

ビルギットはレリックの威力か魔
力に+3してください。

ビルギット…魔力にします。

シヤス…「こいつら…」

ビルギット…エイラ…ルーカー

…「(唇を噛む)

シヤス…「ビルギット、大丈夫か？」

ビルギット…「ん、大丈夫さ。今の

ボクはもう一人じゃないんだ。信

頼できる仲間がこんなにいる。助

けられるさ、絶対に」

シヤス…「そう、か…城は、もう

すぐか？」と、城を探しています。

フロレンツィア…「この短時間で

凄く成長してますわね」

ビルギット…「シヤス、君とはなん

だか他人の気がしないんだ。ボク

は君のことを信じているから」

シヤス…「…城で話がある、でき
れば二人きりで話したい」

【内容を述べよ】

ホントは軽く演
出くらいしてほし
い。後、外野でトラ
ンザムッ！とか
叫ぶのやめてほし
い。

【威力か魔力】

威力は物理攻撃、
魔力は魔法攻撃時
にそのダメージに
加算される固定値。

【城を探して】

H L(…あ…
進行度、10ほどで
…たどり着く…
…でしよう…)
フロ(具体的な何か
が聞こえた…進
行度?)

【信じているから】

フロ(それフラグに
聞こえるんですけ
ど)

アモウレ…(若さっていいですね)
フロレンツィア…「若さ、若さって
なんだ〜♪」

アモウレ…「振り向かないことです
ね」(ぐるりと振り返りながら)

フロレンツィア…「ですね、私も振
り向いてはイケナイツ！」

ビルギット…「…全部終わったら、
さっきのことも含めて、たくさん
話そう。ボクたちには必要なこと
だと思う」

シヤス…「…ありがとう」

そういうとすぐに振り返り、先
へ進み始める感じで。

ビルギット…「あ、あと外野うるさ
いですよ！」(赤面)

アモウレ…「年をとると若さが眩し
く見えるのですよ、すいませんね」
フロレンツィア…「ごめんねごめん
ね〜」

HL…という感じで、このシー
ンを終了しましょうかw 進行度を
お願ひします。
ビルギット…(こころこころ) 2。

●探索10 / 進行度19

HL…フロレンツィアのこころこ
ろタイム！

フロレンツィア…(こころこころ) 8。

HL…あ、ネタイベント…。

フロレンツィア…フロレンツィア

にびったり！

HL…では、フロレンツィアが探

索をしているとですね…

HL…前からふらふらとひとりの

ラチェルの女性が歩いてきます。

女性(HL)…「おなか、すいた…。」

フロレンツィア…「(誰…?)」

シヤス…「お前も魔物だな!？」

アモウレ…「落ち着きましようか」

【イケナイツ!】

翼を頭上に円を
描くように掲げ、お
どけるフロレンツ
ィアが見えるよう
だ。

【ありがとう】

突然画面が劇画
調になり、空は夕焼
けになり、背景は海
の見える崖になり、
夕焼け空に去りゆ
くシヤスの横顔と
少し寂しそうなビ
ルギットの顔が描
かれた。
画面右下には「o.
be continued…」と
表示された。
とところで、シヤス
は十歳である。

フロレンツィア…「どうどうどう」
女性（HL）…「んあ…？ お、
やっほー、キミたち何してるの？
楽しそうだね？」

シヤス…「やめろ、さすがにこいつ
はそこらの魔物の味方じゃないこ
とは分かっている」

アモウレ…「あ、ごめんなさい」

HL…彼女は見るからに魔物で、
目の焦点があっていない。

ビルギット…「だ、だれですか？」
（露骨に警戒しながら）

シヤス…「ミント、何の用だ？」

HL…少し注視すれば気づくだろ
う…：彼女の全身にびっしりとつ
いた、無数の遺痕を！

フロレンツィア…「す、すごいわね」
アモウレ…「これ全て…！！？」

ミント（HL）…「お、シヤスくん
じゃなーい！ きゃはは…：今日

はね、あたし、暇なんだ…：」

シヤス…「あいにく今はお前に構う
気分じゃねーんだよっ、すげえ機
嫌悪いんだ、特に魔物に対しては」

ミント（HL）…「今日はシナリオ
ボスじゃないんだー。つまり、オ
フってわけ！ というわけで、き
よーはシユミのコロシをさせても
らいまーす！」

HL…フロレンツィアに…

断罪の宝剣…を使用します。
フロレンツィア…「まつ待って！
話をしよう！」

HL…フロレンツィアは、体に赤
黒いものがついていすることに気づ
くだろう。それが自分の血だと気
づくのは、もう一瞬必要だったか
もしれないが。刺+2d10のダ
メージどうぞー。

アモウレ…カバールリングしてえw

【ミント】

安治田ミント。
各地を放浪する怨
痕者。「おねえちゃ
ん」なるものを探し
ているというが、既
に正気ではない。
「仮初の死の刻印」
を持っていてため、
特定の手順を踏ま
ねば完全に滅ぼす
ことはできない。
シヤスは彼女に
対してフェイトを
持っている。つま
り、知り合いであ
る。過去に死闘を繰
り広げたことがあ
るようだ。

【断罪の宝剣】

セイバーのグロ
ウで、即座に白兵攻
撃を発生させ、判定
をスペシャルで発
生させる。
つまり、回避不能
の一撃を放つ。

HL…これ、グロウだから移し替
え不可なのよね…。

フロレンツィア…(ころころ) 10
点。「あいつ強いな…：ゲフツ」

シヤス…「殺しの対象は、そいつ、
ということでもいいか？」(激怒)

アモウレ…「(私、来ない方が良か
ったかもしれない…：まるで反応
ができない!)」

安治田ミント「じゃ、またねー!
と、：疾走…で退場します。」

ビルギット…(デンジャラスでスプ
ラッタな雰囲気についてけない)

シヤス…「…：許さねえ」

シヤス…ここでフェイト変更を宣
言したいのですがいいですか？

HL…あ、どうぞどうぞー。

シヤス…ミントへのフェイトを「脅
威」へと変更します!

アモウレ…「大丈夫ですか…：？

申し訳ないです、かばうことも出
来ず」

フロレンツィア…「いえいえお気に
なさらず」(どくどくどく)

アモウレ…「気になりますってさす
がに…：」

フロレンツィア…「生きてりや問題
ないわよ」

アモウレ…「その考えはもう少し年
をとってからでいいのでは…：」

フロレンツィア…「はい…：」

ビルギット…「リヤ、リヤタにあん
なのが…：」(がくがくぶるぶる)

アモウレ…「珍しく素直なフロレン
ツィアを見てさらに心配に…：」

フロレンツィア…「ビルちゃん大丈
夫かい？」

ビルギット…「ふ、ふーちゃんさん
のほうがつっ!」

フロレンツィア…「私は大丈夫、自

【疾走】

ダッシュと読む。
フオークのグロウ。
シーンから退場す
る。

【珍しく素直】

さらりと悪口。

分で治せるし」

シヤス「怒りのあまり、言葉すらなく真っ黒な状態のシヤス…」。

フロレンツィア「こらこら、あんたまで随ちてしまったらだめよ」

アモウレ「(さっきの人のせいで全員ひどい状態ですね、私含め)」

シヤス「しかし、応答はない。

フロレンツィア「無言で唐辛子ジュースを口へ注ぐ！

シヤス「ぐわっ！ げほげほ…」

フロレンツィア「怒りで我を忘れてしまったらその時点で負けよ」

アモウレ「(精神年齢私より高いですよね絶対…)」

ビルギット「シヤスは、さっきのヒト、知っているの？」

シヤス「…すまねえ、ミントは、俺が今まで出会ってきた中では最強の魔物だったが…」

フロレンツィア「本格的に殺り会わないことを祈りましょう」

アモウレ「もう二度と出会いませんように…」

シヤス「あいつ…放っておけば、あとどれだけの人が死ぬか…」

フロレンツィア「えっと、進行振る前に回復したい、教会使う？」

HL「教会はシーンを使わずに、宣言だけでかまいませんよ。

アモウレ「じゃ使っちゃいませよ。一同…(こころころ)」

HL「みなさん満タンですね。それでは、進行度をお願いします。

フロレンツィア「(こころころ) 3。

HL「OK、では進行度20のイベントが発生します。

ビルギット「さくさく！」

【最強の魔物】

データがないくらい強い。

【唐辛子ジュース】

フロ「次のセツションで唐辛子あつたらどうしよう…」
HL「拾いました」
一同「えっ」

《ワルムの爪》

価格…3H
使用…メジャー
対象…範囲(強制)
効果…対象の「狼
狼」、「放心」、「硬
直」、「衰弱」、「悲
哀」、「憎悪」を解除
する。その後、対象
は戦闘・シーン終了
時まで、自動的に「憤
怒」を受けない。

○探索イベント4

HL…君たちはかつての居住区の奥に、ニンス族の**錬金術**によって嚴重に保管された宝珠を発見する。

知識や手先が器用なものならあるいは…だが、**攻性防壁**に注意せねばなるまい！

シヤス…「めんどくさい…」

ビルギット…「壊しましょう！」

アモウレ…「血の気が多いことで」

フロレンツィア…「こういうものは畏があるものよ」

HL…判定を一人ずつ行ってもらいます。成功すればロックは解除

され、宝珠を破壊できます。ただし、失敗したらダメージを受けます。四人失敗すると壊れます。

ビルギット…「むむむ…」

フロレンツィア…「頑張れ王子！」

アモウレ…押し付けてるうーw

ビルギット…「任せてください！」

(ころころ) 41%…21!

成功! かしこい!

一同…かしこい!

HL…では、ビルギットは鮮やかに装置を解除できました!

シヤス…「やるじゃねえか…!」

アモウレ…「なかなかのお手前」

ビルギット…「お城の宝物庫に比べれば!」

アモウレ…(何で王子様が解錠を)フロレンツィア…「王子、入って何してたの? エロ本?」

ビルギット…「父上が入れてくれな

かったんです!」

シヤス…「お前、宝物庫の扉をいじったことあるのか? おもしろそ

うだな」

フロレンツィア…「後で入れて☆」

アモウレ…「さあさあ、悪事の相談

【錬金術】

ハイテクと読み替えていい。ニンス族は研究に全てを捧げている種族。彼らの技術力はもはや22世紀だ。

【攻性防壁】

解除しようとする時、物理的に反撃する仕組み。

【お城の宝物庫】

国家予算とかミシリルソードとかポーションがいっぱいある。大抵、助けてくれた勇者に渡すためにある。

【エロ本】

リヤタ王国では侵略者たる鱗人が猫人のお姫様を凌辱する薄い本が流行っている。ワタシは純愛モノが好きかなあ。

はそこまでにしましよいかね？」

ビルギット…「ダメだよ☆」

フロレンツィア…「ちっ(舌打ち)」

シヤス…「ちっ(こちらも舌打ち)」

アモウレ…「(若いっていいなあ)」

HL…ええ、では無事、2つ目の宝珠も破壊できました！

ビルギット…「えい！(チョップ)」

●探索 1 1 / 進行度 2 2

HL…では、アモウレさん、イベント決定をお願いします

アモウレ…(ころころ) 1。

HL…ふむ。君たちが最後の宝珠を探していると、遺痕者らしき魔物が道をふさいでいる。残るはこの区画だけだが…。刃を構えようとした君たちだったが、彼は君たちを見て、にやりと笑った。

「ただじゃあ通さねえ。……そう、ただじゃあな」

彼は指で丸を作り、君たちに意味ありげな視線を送ってきた。

一人頭 10フアング差し出すか、「交渉」判定に成功すれば通してくれます。

アモウレ…「おやおや、お話がわかる方ですね」(財布を見て)「あつ…10Fしか無い…」

ビルギット…「リヤタ王子ビルギット、貴様らのような蛮族にくれてやるものなどない！」

まもの(HL)…「…：：：そうかい。小銭で余所見してやろうってのに…：：まあ、オレは構わねえぜ」

シヤス…「さあ、言う通りだ、どけ」まもの(HL)…「これはこれは…：：シヤス様はさぞかし懐が潤っていると思いますかねえ」

【ちっ】
ニーチェが喜ぶ。

【ちっ】
流水の運営資金。

【チョップ】
フューネラルは寂しそうに、風に柄の飾りを揺らしていた。

【くれてやるもの】
王子は文無しだった。

ビルギット「国民に血と汗の結晶をみだりに使わんとする輩、成敗してくれる！」（決めポーズ）

フロレンツィア「どうどうどう。まあ、私に任せなさい」

（ベレーンと王子を弾き飛ばす）
シヤス「死にてえか？」

フロレンツィア「ベレーンとシヤスも弾き飛ばす！」

アモウレ「お強いですね」

（横によけながら）

フロレンツィア「すいませんね血の気が多い人達ばかりで」（ころころ）97%…20、成功！

ビルギット「つよい…」。

HL「フロレンツィアの達成値がそれか、ふむ…」。

フロレンツィア「残りは復興したら払いますので（もうひと押し）」

ビルギット「出しませんけど？」

シヤス「だーれが魔物なんかにうぐぐ（抑えつけられる）」

まもの（HL）「（シヤスの殺気に気圧されて）…わ、わかったよ！

全員で10Fで通してやるよ！」

アモウレ「おやおや、優しいお方ですね。それでよろしいのですから私がお支払いしますよ。おふた

方、よろしいですね？」

フロレンツィア「ま、払っちゃおうか」

アモウレ「はい、どうぞ」

まもの（HL）「ちっ、さっさと通んな！」

ビルギット「だ、ダメですよ！

王族の威厳があ！」

HL「さて、進行度どうぞーw
アモウレ（ころころ）5！

一同「つよい…」！

【決めポーズ】

ビルギットの背後でチープな背景がペカペカ光った。

【ベレーン】

フロレンツィアのケツでビルギットは画面外に飛んでいった。

【ベレーン】

殺意に満ちた眼差し、シヤスは前傾姿勢のまま画面外に消えていった。

【よろしいですね】

この時のアモウレの目は闘牛のそれだった。

○探索イベント5

HL…さて、進行度が25を超えたので、イベントが発生します。

先を急ぐ君たちの前に、ふと天から一振りの刀が降ってきて、地面に突き刺さる。その刀は、禍々しく深緑の光を発しながら、脈打っていた。

フロレンツィア…「あぶなあい」
シヤス…「これは…：…」

ビルギット…「攻撃?!」

アモウレ…「何と恐ろしい…：…」

刀? (HL)…「そこをゆく者よ。

立ち去るがいい」

フロレンツィア…「なに?」

HL…刀の背後には、凜々しい一人のコツソ族の女性が立っている。彼女は…：普通のコツソ族とは、少し異なる容姿だった。

君たちはこの刀を知っている!

そう、先ほど君たちが見た、氷の女王が手にした刀だ!

アモウレ…「な、なんだってー!

ビルギット…「あの刀!」

HL…刀の背後に立つ女性は、向こうが透けている…：おそらく、彼女はもう存在しない…：刀がその遺志を代弁しているにすぎないのだろう。

アモウレ…「あの刀…：しかし、

そばにいる人が違いますね。やはり他人…：いや…：?」

フロレンツィア…「何故立ち去る必要があるのでしょうか? カタナ

さん」(カタナだけに単刀直入)

刀? (HL)…「何故か? 単純な

こと、私は多数に虐げられる者の刃。その王子、そして魔物の仔よ。私はお前たちに都合のよい世

【異なる容姿】

小さい耳、水掻きのある手、すらりと細いしっぽ。

水辺に住まいとし、海が瘴気で汚染されると同時に途絶えた血、アグ族。コツソ族の宗教、フェンリル教において、コツソ族は陸地に生きる者とさされていく。その教えに背くがゆえ、彼らは迫害されていた。

【遺志を代弁】

持ち主が死した後に遺されたレリック、遺牙。遺牙に遺された持ち主の遺志は、持ち主の遺志を遂行し続ける。怨恨者に墮ちることなく絶えた聖痕者の聖牙は怨痕者を倒す力を与え、墮ちた聖痕者の聖牙は遺痕者を誘惑し墮落させるだろう。

界を作るために力を貸すのだ」

アモウレ…「王子様も…?」

フロレンツィア…「虐げられる者、
ね…」

ビルギット…「母さまを冥府魔道に
引き込んでおいて！ いけしやあ
しやあと！」

刀? (HL)…「お前たちは知って
いるだろう? 数の多少で虐げら
れた者たちを。やっとの思いで手
にした希望を、握り潰された絶望
を。知らぬ者にはわかるまい…」

フロレンツィア…「(なんとなく事
情がわかってきたかな…)」

シヤス…「今は大小関係なく虐げら
れているようだがな…: : : てめえは、
俺からすべてを奪いやがった！」

フロレンツィア…「どうどう…: : :
次はさせない、って誓ったら通し
てくれる?」

刀? (HL)…「否。ワルム族は神
の寵愛を受け、決して少数の苦し
みを知らない…: : : お前にできはし
まい」

フロレンツィア…「あら、私の事知
らないのによく言えるわね。そう
やって決め付けるのは、**「アナタが
された事」**と同じことよ。私達も
好きで受けているわけじゃない」
アモウレ…「カタナさん。もしよろ
しければ、私の質問も聞いていた
だけませんか?」

一つだけ、ここではっきりさせ
ておきたいのです。氷の女王、す
なわちあなたを今使っている者の
…: : : 「(一旦大きく深呼吸をして)
「本名。その者の本名、おしえて
いただけま、せん、か…: : : ね」
(徐々に震え声になりながら)
ビルギット…「!?!?」

【冥府魔道】

カッコいい四字熟語だと思つて意味を検索したら、子連れ狼しか出てこなかった。

【アナタがされた事】

異なる容姿から起こつた迫害、亡き者にすべく凶られた計略。
トリストイテイアは、護ると心に決めた親友を護れなかつた。彼女にとつては、生村の村人に殺されたも同義だった。

HL…アモウレの言葉に、スルトの背後に立つ者は少し笑みを浮かべたように見えた。それは、苦しみにも、嘲笑にも見える、不思議な笑みだった。

刀？（HL）…「覚悟なき者に、真実は届かない。何も、そう、何も」アモウレ…「…ええ、ええ…」刀？（HL）…「ヒトは、何者かを蔑んでいなければ生きてゆけない…石を投げられる者の感情を知らぬ者に、それは永劫、理解できはしない！」

我は、トリステイアの代行者…「長瞬刀」スルト！

これより先にゆく者、生きては返さぬ…氷の女王に魂を食われるがいい！」

HL…そういつて、スルトは闇の中に消えていきます。

アモウレ…「石を、なげられ、あ、ああ、あああああああああ！」アモウレはその言葉で確信してしまったようです。顔を青くして、義足のバランスを崩し、そのまま派手に転倒してしまふ。

フロレンツィア…「…さて、ひとつ皆に聞きたいんだけど。『あの女の人』、知ってるんでしょう？」

アモウレ…「申し訳ない、申し訳ない…申し訳ない…！！」

フロレンツィアの間に答えず、全員に向かって土下座します。

ビルギット…「確かめない限り、断言は…」

シヤス…「…」

アモウレ…「私の…私のせいなんだ！ 全部、全部！ リヤタがこうなったのも、たくさんが死んだのも！ 全部、私があああ！！」

【不思議な笑み】

覚悟の足らぬ者に嘲笑を。真実を知った時の苦痛を。絶望を背負えずに逃げた墮落を。トリステイアは弱かった。彼女は支えてくれる青年がいたことを、最後の最期まで気づけなかったのだ。

【真実】

魂を引き裂く冷たいナイフでありながら、心を癒す温かい果実でもある。

フロレンツィア「まあ……みんな知ってることでよさそうね。」

アモウレ「あああああああ！十年こらえていたものが爆発し、地面に顔をうずめるようにして大泣きしています。」

フロレンツィア「過去を悔やんでも恨んでも何も変わらない。大事なのは過ちを繰り返さないこと」アモウレ「ギリリ、とかなりきつい目でフロレンツィアを見上げています。」

フロレンツィア「悔やんでもどうにもならないわ。だから、その力を次に繋げなさいな」

ビルギット「そう、ボクたちはこれから取り戻しに行くんだ」

アモウレ「取り戻す？ 一体何を

……私に何が取り戻せると？」

フロレンツィア「アナタ、何もせ

ずにこのまま這いつくばってるつもりじゃないでしょう？」

アモウレ「だが、私はあの時彼女を見捨てた。絶対に守ると口ではヘラヘラ言いながら、何も出来なかった。瘴気に消えるフィアを、

助けることなど出来なかった……。そんな私が、今更……」

フロレンツィア「他の人が、同じ過ちを繰り返さないようにすればいい。嫌なら、カタナさんの言うとおりに帰りましょう。誰も救われないうけでしょうけどね」

アモウレ「……！」

フロレンツィア「……もうこれ以上、言うことはないわ」

アモウレ「……たく、本当に食えない人ですね……言いたいことは山ほどありますが、それは全部終わってからにとっておきましょう」

【大泣き】

「ヒトがいいアモウレにとつて、あの日の悪夢は、自分への裏切りだったに違いない。誰よりも許せなかったのは、自分だったのだ。」

【悔やんでも恨んでも】

「遺痕は遺恨。前世に強い悔恨を残した者が遺痕者となる。この場にいる者は全て、その後悔のために「遺痕」という咎を受けたのだ。」

【食えない人】

「ある意味で、彼女らしさでもある。この空気では「トリだけに？」「だなんて言えない。」

と、そこで起き上がった、
「ならば、ならば誓いましょう。
私は自分の大切な物を守れなかつた。しかし、あなた達の大切な物を守ってみせましょう。」

「……いや、守ってみせる！」
ビルギット「ボクは失ったものを取り戻すためにここにいる。アモウレさんも、同じでしょう？」
アモウレ「王子様を置いて帰れるわけがないでしょう？ でも一つだけ。あなたの母君をお守りできず、大変申し訳無かった」
ビルギット「母さまを追い詰めたのはリヤタそのものです。リヤタ再興の暁には、虐げられるものがない国を作る、と誓います」
アモウレ「……（無言でビルギットに笑みを見せる）」
シヤス「ビル、お前のその国への

思い、すごいな」

ビルギット「いづれ治める、ボクの国ですから」

シヤス「じゃあ、お前は生きないとな」

フロレンツィア「あら、みんな生き残るのよ」

アモウレ「そうですよ、死にたくても私が全部守ってしまうのですからね！」

ビルギット「さあ、残る宝球をさっさと壊して、ボクらの過去に決着を！」

HL「四人の遺痕者が意志を固め、前に進みだした時、薄暗い雲が、薄らいだような気がした……」

シヤス「……救う。死によつて。俺にできることは、それしかねえ」
シヤスは一人、後ろを向いて誰に言うでもなく呟いた。

【死によつて】

怨痕者は、もう誰によつてもその針路を修正することはない……自分ではできない。あらゆる者を巻き込みながら、災厄を撒き散らし続ける。怨痕者を救う方法はたったひとつしかある。ひとつも殺すことだ。

● 探索12 / 進行度27

HL…たぶん最後の探索シーン、
シヤスのイベント決定ー。

シヤス…(ころころ) 3。

HL…ふむ、では、君たちが最後の居住区を調べていると、ひとつの家にアモウレは目が留まった。

アモウレ…「おや」

HL…それは…今でも空き家のままの、アモウレがかつて、愛する者と暮らしていた家だった…。

家の周りには、愛した者への罵詈雑言が書き殴られ、窓は割れている…：全て、あの日のままだ。

アモウレ…：十年前にここを飛び出して、その時にフィアは、フィアは、ううう…：「

(家の壁に角を当て、涙をこぼす)
フロレンツィア…「酷いわね」
ビルギット…「じゃあ、ここに母さ

まが？ ぼくはずっと、王宮から見えるリヤタが、この国の全てだ
と思っていた…：「

シヤス…「母さんがいた家…：まさか見つかるとは…：」

HL…君たちはその惨状に胸を痛ませる。何としてもやり遂げねば。

全員、いつでも使用可能な覚醒状態のエングラムを1つ得ます。

アモウレ…「こうなっても、私にとつては幸せな場所でした。フィアと一緒にいられる、幸せな空間でした」

シヤス…：「わかった、ここで話

したいことが、いや、その前に見てもらいたいものがある」

アモウレ…：「なんででしょう」(家の中を覗いて懐かしみながら)

シヤス…「闇の深遠の者たちよ…：この場所の記憶を映し出せ」

【暮らしていた家】
勢い余って「懐かしいなあ」と呑気に言ってしまったグレスがいたらしい。

ここで《海漿の記憶》を使います！
（ころころ）91、エングラムで
成功にします！

アモウレ：「えっちよっと待って何
それ聞いてない私のプライベート
が（以後ききとれない）」

HL：では内容を演出しましょう。
そこはまだ真新しい、古びてい
ない家屋だった。過去のアモウレ
の家、そこに、そのデュルフの女
性はいた。

ビルギットは確信する。それは
：：かつてのアイシクル王妃だ。
ビルギット：「やはり、母さま……」
HL：アモウレが帰ってきて、彼
女を労わる。アモウレは彼女のこ
とを、「フィアセモ」と呼んだ。
アモウレ：「（わっかいな私）」
フロレンツィア：「（ふむふむアモ

ウレさん昔こんなのだったのか）」
シヤス：「幸せそうだね……」と、
表情を緩ませながらつぶやく。
アモウレ：「幸せそう、じゃなくて
幸せでしたよ。とてもとても」

HL：フィアセモと呼ばれた女性
は、アモウレに語り掛ける。その
表情は、とても幸福そうだった。

シヤス：「母さん……」

HL：そのおなかは、もう臨月な
のだろう——少し注視すればわか
るほどに、膨らんでいた。

フィアセモ（HL）：「ねえあなた。
この仔にどんな名前をあげましよ
うか？」

アモウレ：「おいおい……：：：そうい
うことは苦手だとは知っているだろ
う？ 意地悪なんだから」

フィアセモ（HL）：「ふふふ、私
ね、つけたい名前があるの。でも、

【海漿の記憶】

デュルフのアー
ツ。その場所で過去
にあったことを映
し出す。

【エングラム成功】

エングラムを使
用すると、判定結果
の十の位と一の位
を入れ替えられる。
こういふ演出で
失敗すると悲しい
ので、エングラムは
大事。

【この時のフロ レンツィア】

他のPC三人の
関係性が濃厚すぎ
て超蚊帳の外であ
った。

女の子だったら、あなたがつけてあげて」

アモウレ：「おや、教えてほしいな。女の子だった時の参考にさせてもらうよ」

シヤス：「……」（既に泣き始めて）
フィアセモ（HL）：「……あのね、シヤス、シヤスっていう名前なの。きつと、芯の強い子になってくれるわよ」

シヤス：それを聞いて、シヤスは涙をぼろぼろ流し始めます。

アモウレ：「シヤス……いい名前じゃないか。きつと、どんな困難にでも立ち向かえるだろうな。そして、その困難に打ち勝ってくれるだろう」

フィアセモ：「シヤス・ベヒリツヒ……ふふふ」そう呟いて、彼女はにっこりと笑った。

アモウレ：「強い子になるんだぞ、シヤス！」（お腹を撫でながら）

HL：映像はそこで途絶えた。君たちは知っている。シヤスという少年が、その姓をもらうことは、永劫なかったということ。

フィアセモ・オルキス。それが、彼女の旧姓だった。

シヤス：「お、おれの名は、シヤス……オルキス……」

言葉が尻すぼみになってゆく。アモウレ：何も言わず、そつと、

その頬をなでて抱き寄せる。
シヤス：「うう……何で、何で！俺をずつとほったらかしにしていたんだよおおおっ！ この、くそおやじっ！！」

アモウレ：「すまない、すまない……！！　こんな情けない父親で！　お腹の中にお前がいたのに、助け

【フィアセモ・オルキス】

フィアセモ・オルキスはブライニクル王に見初められ、リヤタ王室に入った。そこで一男を成したが歴史から消えている。

その後、リヤタの城下町で再婚しフィアセモ・ベヒリツヒと名を変えたが、隣村へ移動時に逝くへ不明に。

魔物となった彼女は、我が仔が生まれるながらに魔物であったことに何を思ったのか。彼女は、名前を捨てた。氷の女王、彼女は、自らにそう名前を付けた。

ることも、一緒にいてやることも
出来ずに……！」

シヤス…「うわああああああ……」

アモウレ…「ああ、泣いていいんだ、
男だって泣いていいんだ……。私

だって、今は精一杯泣かせてもら

うよ……。立派に育ってくれてあ

りがとう、我が息子——シヤス」

フロレンツィア…「息子、か。そし

たら、ビルギットも兄よねえ」

ビルギット…「あ、いや、ボクは、

こういう時、こういう顔したらい

いか……」

シヤス…「ぐずん……」

アモウレ…「弟がいるんですよ？

笑えば、いいと思いますよ？

家族なんですから」

ビルギット…「お、お兄ちゃん……

だよ？」

フロレンツィア…「ぶっ（吹き出す）」

シヤス…「一度しか言わねえからな。

兄ちゃん、そして父さん。ここに

いてくれて、うれしいよ……」

アモウレ…「父さん！　そう呼んで

くれるのか、こんなダメな男を……

……！」（また大泣きしながら）

シヤス…「ふんっ、だ……」

フロレンツィア…「まったく、素直

じゃないわね……」

アモウレ…「そうだ、全部終わった

ら、この家を綺麗にしよう。そし

て、またここで暮らそう。シヤス

さえ良ければ、二人で暮らそう。

今度こそ、幸せに、この家で……」

シヤス…「うっせえ、もう行くぞ！」

アモウレ…「素直じゃないところも、

私にそっくりだ」

（うしし、と笑いながら）

フロレンツィア…「そうね、暮らす

ためにも行きましよう」

【泣いていい】

シヤスは唯一の
肉親を失う不安に、
きつと揺れ動いて
いたのだらう。そし
て同時に、……父だ
っていることぐら
い、聡明な彼は知っ
ていたはずだ。

【笑えば】

この時、アモウレ
は鼻水をジユルジ
ユル垂らしていた。

【お兄ちゃん】

アモ「こういうの何
ていうんでしょ？
腹違いじゃないし」
フロ「異父兄弟」
アモ「……棒違いじ
やないのか」
HL「退場」

【全部終わったら】

立てすぎた死亡
フラグは、生存フラ
グ。いいね？

○探索イベント6

ビルギット…「少し、羨ましいな」
アモウレ…ここでエンگرامの「温
情」を宣言してもいいですかね？
シヤス…こちらもエングラム、「家
庭」を宣言したいです！

ビルギット…エングラムツ！「子
孫」でー。

HL…どーぞどーぞ、文句のつけ
ようがないです！ じゃ、シヤス
さんは進行度をどうぞ。

シヤス…(ころころ) 3！

HL…ピッタシじゃねえか！

アモウレ…やったーw

ビルギット…やったぜ。

フロレンツィア…次回！ 城へ！

HL…そうですね、進行度30の
イベントのあと、クライマックス
戦闘になります。

アモウレ…そうそう、シヤスさん
へのフェイトを「家族」に変えて
おきます。

シヤス…こちらはフェイトの名前
を父親に変えたいです！ あとビ
ルギットへのフェイトは兄弟で！
HL…OKです。では、続けまし
よう。シールプレイヤーはシヤス
です。

君たちは幾多の試練を乗り越え、
リヤタ王城の前にたどり着いた。
城門は開け放たれ、そこには一人
のグレスの男と…最後の宝珠が
鎮座していた。
ドルナ・ベルク(HL)…「とうと
う、ここまで来られましたか」
フロレンツィア…「来ました」
アモウレ…「どなたのお知り合いで

【文句のつけよう
がない】
なさすぎて、HL
の殺意が大幅に低
下した。ていうか泣
いてた。

【フェイト】
この時は自由に
フェイトを取った
り中身を変更でき
たりした。
フェイトがデー
タ的な意味を成す
ことがあれば、フェ
イト取得にアーツ
が必要になると思
われる。

しようか」

ビルギット「魔物……！ リヤタ

は明け渡してもらおう！」

シヤス「……ここにいたのか」

HL「男は社交辞令のようにこ
りと笑うと一礼した。

ドルナ(HL)「申し遅れました、
わたくし、名をドルナ・ベルクと

申します。氷の女王様の……右腕
とでもいうべきなのでしょう

ね？ 以後お見知りおきを」

ビルギット「残る宝珠はそれひと
つだけ、お前たちに勝ち目はな

いと約束しよう」

シヤス「死にたくないなら、どき
な……」

HL「男は君たちの殺意をもの
もせず、涼しげな表情で言った。

ドルナ(HL)「ふふふ……この

宝珠を破壊するのであれば、止め
は致しませぬよ」

フロレンツィア「(よしよし……

引きつけておいてくれよ)」

こそこそ宝珠に回りこんでみる。

ビルギット「なら今のうちにリヤ

タの外へ逃げることだな」

フロレンツィア「(宝珠のそば

で来たけど話を聞いたほうがよ

さそうね)」

ドルナ(HL)「……私は、氷の

女王様の僕にございます。ですが、

あのお方が間違っていることは

……私の遺痕が囁くのです。

あのお方に背くことなぞ、私に

はできません。だから……シヤス

様に、そしてあなたがたに、お願

いがあるのです」

シヤス「なぜできない？ 呪いで

もかけられているのか？」

【ドルナ・ベルク】

アモ「この人がフイ
アの浮気相手……

……！」

HL「女主人と執事
……はよそでお願
いしますね」

【宝珠】

すべての宝珠を
破壊されれば、対策

をしていない魔物
は……。

【遺痕が囁く】

ゴーストが囁く。

ドルナ（HL）：「なぜ？ ……それは、あのお方に助けられた命だからですよ。もはや、私の命は私のものではない」

男は自分に言い聞かせるように言い放つと、突然、真摯なまなざしで君たちを見た。

ドルナ（HL）：「どうか、あのお方を討ち取っていただきたい。それが、私の願いでございます」

アモウレ…「……」（笑みを崩さずにやや睨むような目）

シヤス：「拾った命で、更なる破滅へと導こうというのか」

フロレンツィア：「あなたはどこまで知っているのかしら？」

（宝珠すりすりしながら）

シヤス：「あなたが助けられたように、なぜ母上を助けようと思わないんだ？」

ドルナ（HL）：「……慈愛に満ち溢れていたあのお方は既になく、もはや力を求める怨痕者に墮した。しかしそれでも、私はあの方の

僕。あのお方が果てる処こそが、私の墓標が立つ処」

アモウレ…「（結局、みんな辛いのですね…）分かりました。しかし、私達はただ殺すつもりはありませんよ」

ドルナ・ベルク：「わかっています。……それしか、あの方を救う術がないことも」

シヤス：「死、そのみが救い……か。それをあんたも望むのなら、俺がやってやる」

アモウレ：「私達は、彼女の尊厳を守るんです。これ以上、過ちを犯さないように。」

魂の輝きを守るのです」

「私の命は私のもではない」
恩義、忠誠、献身。
あるいは、盲信。

「そのみが救い」
怨痕者に墮ちた者を救うには、殺すしかない。それしか、方法はない。逆に言えば、方法はあるのだ。現世での不幸な巡り合わせは、来世での救済の先触れ。
遺痕者には、そう信じることしかできない。

【魂の輝き】
多くの不幸に見舞われる遺痕者を、辛うじて繋ぎ止めていくもの。
希望さえ失わなければ、その存在は多くのヒトビトを救えるのだ。

フロレンツィア…「これ持って行っても支障なさそうね」

（宝珠すりすりしながら）

HL…君たちの言葉に男は、幽かに歪んだ笑顔で答えた。

ドルナ（HL）…「願わくばシヤス様とあなた方に、大いなるヘイズルーン様の加護があらんことを」

彼は立ち去ろうとしたが、その途中で彼は立ち止った。

「ひとつ、大切なことを訊ねたく思います。…：シヤス様、あなた様は、ここにおられる方との縁に、お気づきですか？」

シヤス…「…：黙れ」

フロレンツィア…「私はたまたまなんだけど」

HL…執事はしかし、シヤスの仕事に真意を見た。

ドルナ（HL）…「あるいは、運命

であったのやもしれませぬ。残酷な残酷な…：。リヤタ国の王子たちに、加護あらんことを」

アモウレ…「残酷？ 訂正していただきませうか。残酷でもなんでもありません。全て、過去の因果です。ただ、それだけです」

ドルナ・ベルク…「…：失敬、口が過ぎましたな」

ビルギット…「…：君は、これからどうするんだ？ 女王を裏切って、

それで…：」

ドルナ・ベルク…「裏切る？ まさか…：私に、そんな胆力はありません。ただ、共に…：。

（そこでフロレンツィアに気づいて）おや…：あなたは。なるほど…：家族を持たぬオーダーの仔、

あなたにも、きつと感ずるところがあるのではありませんか？」

【ヘイズルーン】

本来、グレス族は諍いを嫌う温厚な種族。彼らを精神的に支えているのは、その始祖神だ。彼にできるのは、一杯の祝福の言葉だったのだろう。

【縁】

えにし。数奇な運命は、十歳の少年には重すぎた。

【たまたま】

「あ、このたまたまは変な意味じゃないわよ？」

【王子たち】

世継ぎは、二人いたのだ。

フロレンツィア「あら、家族はフ
ォーダーのみんなよ」

ドルナ・ベルク「……同感ですよ、
ふふ。……もし、ツオルカのフ
ォーダーとすれ違うことがあれば、
私のことを知らせてやっってはくれ
ませんか？」

フロレンツィア「覚えてたらね」
シヤス「ちっ、さっさと消えろ！
さもなくば俺が手を下す！！」
アモウレ「落ち着きましょう、シ
ヤスさん（父親ヅラしていいかわ
からない）」

ビルギット「シヤス、収めて。ド
ルナ・ベルクと言ったな。君には
全て見届けてもらおう。最後まで」
ドルナ・ベルク「無論。私は……
最期まで、流氷」と共にあり」
アモウレ「（フロレンツィアさん
以上に食えない方ですね）」

シヤス「（押さえられて）うぐ、
こんな死にたがり……」

アモウレ「本当に死にたがりなら
こんな回りくどくおしやべりはし
ないと思いますよ？」

ドルナ・ベルク「では、屋上、バ
ルコニーでお待ちしております」
言い残し、彼は立ち去ろうとする。

ビルギット「（父の王城も、今は女
王の城も同じ、か……）」

アモウレ「では、伝言願えません
かね、ドルナ殿」

（去る背中に言葉を投げかける）

ドルナ・ベルク「なんなりと」

アモウレ「バカな牛が一頭、女王
様に献上されにきた……とても伝
えて頂きましょうか。わかってく
れると嬉しいのですが」（苦笑）

ドルナ・ベルク「（微笑を浮かべ）
ええ、しかと伝えておきましょう」

【ツオルカ】

三つあるフ
ォーダーのうち
のひとつ。ハ
ウチ族とフル
ワイ族がほと
んどで、瘴気
の中で力尽
きた者の拾
遺品を売り
物にしている。
ハウチとフル
ワイは被
迫害種族な
ので、必然
的に他の
メンパーは
グレス族
が多い。
ドルナは元々、
ツオルカの所
属だったの
かもしれない。

HL…ではシーンから退場します。
アモウレ…「気取りすぎて自分でも意味がわからなくなってしまうました」(小声で素に戻ってる)
シヤス…「あいつなんか大嫌いだ！死にたがり、臆病者！もう顔も見たくない！」
フロレンツィア…「よく吠える犬ほど弱いわね」
アモウレ…「私の奥さんの右腕に、悪口はやめて欲しいですね」
シヤス…「んだとお！？」
(アモウレに掴みかかって)
フロレンツィア…「ほらほらそれがいけないって言ってるのよ！」
アモウレ…「怨痕者になるうとも、私はフィアを愛している。その彼女が信頼している相手への悪口は、フィアに対する暴言に聞こえましてね」

シヤス…「こんな俺の状態を見てよく言うな！ けっ！」
ビルギット…「こんなところで親子喧嘩をしている場合じゃないよ。この先の親子喧嘩はすごいことになるだろうからね…」
フロレンツィア…「ま、歳相応と言ったところかしら」
ビルギット…「さて、そのたま破壊しちゃってください！」
フロレンツィア…「障気解けても…ま、いつか。たまたまブレエイク！」
HL…フロレンツィアが宝珠を砕くと、亡国の刻印も破壊され、リヤタの時間が流れ出した。
それと同時に、無数の魔物の悲鳴が響き渡る。おそらくかなりの数の魔物は結界の外へ逃げ出したが、それでも多くの魔物は死滅し

【たまたま】
お前何回たまたま
まゆうねん。

たことだろう。

フロレンツィア：「さて、後は女王だけね」

HL…と、次の瞬間、凄まじい雷がリヤタの街並みを打つ！

ビルギット：「!?」

アモウレ：「つと、おおっ!?」

フロレンツィア：「*おおつと*」

HL…君たちが顔を上げると、リ

ヤタ王城のバルコニーに立つ…

氷の女王の姿が見える。彼女が魔

法で落とした雷だろう。

氷の女王も君たちに気づいたよ

うだ、冷ややかな表情で君たちを

見下ろしている。

少しでもリヤタの民の被害を抑

えようと思うなら、速やかにバル

コニーに向かいたまえ!

アモウレ：「(やばい心の準備が)」

フロレンツィア：「あれが氷の女王

ね、お先に」(飛んでバルコニーへ)

アモウレ：「危ないですよ!?」

ビルギット：「いくら母親といえど、

許せない!」

アモウレ：「…とにかく行くしか

ないようですね。王子様、道案内

をお願いします」

ビルギット：「バルコニーはこつち

です!」(城の中へ)

アモウレ：「シヤス…:さんも、行

きますよ!」

シヤス…(無言でついていく

HL…では、一旦シーンを切って、

決戦ステージへと移ります。

◆決戦ステージ「定め」

HL…ではシーンを始めるよー。

君たちがバルコニーにたどり着くと、二人のヒトがそこに立っていた。ひとりは、先ほどの執事。

もう一人は…：冷やかな表情のデュルフの女性、氷の女王だ。氷の女王の手には、不釣り合いに長い刀が握られている。

ドルナ・ベルクは、盾型のレリックを構えたまま動かない。喋る気はないようだ。

氷の女王（HL）…「来たか…：ソラリスどもめ。シヤス、お前まで裏切るとは思わなかったぞ」

シヤス…「あ？　これが普段の俺だろ？　わがままで、なまいきで、聞き分けのねえ奴だよ！

クソババアめ！」

ビルギット…「か…：氷の、女王！」

アモウレ…「どうも、バカな牛でございます…：と」

フロレンツィア…「…」（傍観）

氷の女王（HL）…「シヤス、お前には失望した。…：思えば、お前は出来の悪い仔だったことよ」

アモウレ…「（違う…：怨恨に落ちるとはこういうことなのか！）」

ビルギット…「父王様は、ブライクニル陛下はどこだ！」

氷の女王（HL）…「ブライニクル？　時間が止まっていれば、ずっとあのままだったのに…：。お前も、おとなしく永遠にそのままであれ

ばよかったものを」

ビルギット…「ボクのこと、覚えておいでなのですか？」

HL…氷の女王は、その言葉にふと戸惑う。

氷の女王（HL）…「まさか。お前

【ソラリス】

魔物から魔物でないヒトを蔑んだという言葉。

今（リブレイ執筆時）作った。

薬品を精製したり操ったり…：はしない。

【クソババア】

アモ「騾、ちゃんとしておいてほしかったな…：」

フロ「まったくね」

HL「今まさに反抗期なのでは？」

【出来の悪い仔】

この台詞、よく覚えておこう。

【永遠にそのまま】

氷の女王は、遺痕者であり続けるには、あまりにも多くのモノを失いすぎたのだ。

なぞ……？ いや……？

……知っているのか？ 私が？

お前を？ そんなはずが……」

ビルギット「ボクは幼かったので、

顔も思い出せませんでした。やっ

とお会い出来ましたね、母さま……」

氷の女王（HL）「母さん……？

そんな、いや、まさか、ビル……」

アモウレ「（和解できそう？）」

HL…氷の女王が、慌てふためき

かけたまさにその時、手に持つ刀

が鋭く光った。

氷の女王（HL）「……何のこと

だ？ お前など知らぬ」

ビルギット「……」

フロレンツィア「（あの遺牙によ

って操られている……？）」

アモウレ「（なるほど）その様子

ですと、目の前にいるバカナ牛の

こともお忘れかな？」

氷の女王（HL）「知らぬ！ お

前のようなGRESも！」

アモウレ「よろしい、そう言って

いただけるのならこちらもやりや

すいです」

フロレンツィア「（弾き落として

みるか……）」

ビルギット「母さま！ もういい

んです！ あなたを追いやったこ

の国は、ボクが変えてみせます！

だからもう……！」

フロレンツィア「ものは試しね」

（飛びながら刀を弾き飛ばす）

ビルギット「やった！」

氷の女王（HL）「……！！ ……ビル

ギット、ごめんなさい……ずっと

一人にして」

HL…スルトを奪われ、氷の女王

はあたたかも平静さを取り戻したよ

うに見えた。

そしてそのまま、氷の女王はビルギットに近づいていく。

ビルギット：「いいえ、一人じゃありませんでした。父王様も、家臣のみなさんも……」

氷の女王（HL）：「これからはずっと、私のそばにいてほしいの」
ビルギット：「はい、もちろん！」

HL：「そこで、氷の女王の表情が冷たく一変する。

氷の女王（HL）：「だが、お前の魂だけでよい！」

ビルギット：「えっ……？」

HL：「突如として氷の女王はビルギットに襲い掛かる！」

アモウレ：「レリックで攻撃を防ぎます！「や、やめろ！我が子に手出しする母親がいるか！」

HL：「氷の女王の魔法は、アモウレによって防がれた。それと同時に、フロレンツィアが調べようとしていたスルトも、鈍い深緑の光を放ちながら氷の女王の手に戻る。フロレンツィア：「あぶねっ！」
氷の女王（HL）：「ふふふ……魂の姿であれば、永遠に共に在ることができるものを……」

ビルギット：「……どうして」

氷の女王（HL）：「ビルギット、

お前は母の愛を拒むのか？」

アモウレ：「そんなものが愛であつてたまりますか」

ビルギット：「母様、そこまで……」

フロレンツィア：「ほら、武器を抜きなさい」

ビルギット：「くっ！」

（レリックを取り出す）

シヤス：「シヤスⅡキラーⅡオルキ

【魂だけでよい】

怨痕者は説得されることはない。言葉は通じてても、話を通じないからだ。彼らの中で、結論は既に「ある」。理由は後から付け加えられたものだ。なお、ここに至るまでに、PLも相当悩んだようだ。

ス。死神の名を持ちし我の力により、この者たちに死の救いを齎す」（ぶわつと黒い影が溢れ、ロープが翻る。その言葉は、シヤスの言葉のようであるが、シヤスの口は堅く閉ざされている）

フロレンツィア…「これも『選ばれし者』の務め」（構える）

アモウレ…「(さてさて、みなさんの若さに、そろそろおじさんはついていけませんよ…。未来は年寄りが作るものではないですから…：)」

氷の女王（HL）…「よろしい。ならば。我が仔たちよ、そして愛した夫よ。私にその魂を捧げなさい」アモウレ…「ぐっ（揺らぐ決意）」HL…スルトの背後に立つ女も、続けて語る。

スルト（HL）…「汚らわしき偏見

を払拭するにはどうすればいい？ 私が幸福な日常を送るにはどうしたらよかった？ 答えはひとつ、全てのヒトを殲滅すればいい。思い出すがいい、汝の悔恨を！ 新たな悲劇の幕開けなり！」

この場にいる者の悔恨が、共鳴した！ というわけで、「**悔恨の共鳴**」が起こります。全員、「幸運」判定を行ってください。

シヤス…（ころころ）成功
アモウレ…（ころころ）失敗

フロレンツィア…（ころころ）失敗
ビルギット…（ころころ）成功

HL…では、フロレンツィアとアモウレは不利な感情状態異常を受けます。ですが…アモウレはこれまでロールプレイから、どうも憤怒しなさそうなんですよね

なので、アモウレは「**悲哀**」を、

【選ばれし者】

PLのモチベーションがかなり低かった。話が蚊帳の外で非常に申し訳なく思っている。

【悔恨の共鳴】

遺痕に刻まれた前世の記憶が、怨痕者の深い悔恨によって共鳴し、遺痕者に感情の濁流となつて流れ込む。判定に失敗すると、「悲哀」または「憤怒」の状態異常を受ける。

【悲哀】

攻撃的な行動判定の判定値にマイナス20%、防衛的な行動判定の判定値に+20%される。

フロレンツィアは「憤怒」を受けてください。

二人…りようかい。

アモウレ…「(覚悟はしていたが：

…やはり辛い、辛すぎる。あの時、

十年前に私がすっかりしていれば

こんな事にはならなかったのに」

フロレンツィア…「(いる理由なん

てどうでもいい。勝てばいい。負

けなければいい)」

HL…では、戦闘に入ります。お

好みで切ない戦闘 BGMでも流す

といいですよ！

◇クライマックス戦闘

HL…敵が1エンゲージ、PCも

1エンゲージ、その間は10m！

まずはセットアップフェイズです、

ではフロレンツィアから。

フロレンツィア…「聖戦の灯」使う

よ。(頭の輪っかに火がついて)

「勝て！ 負けるな！

何があってもだ！」

HL…OK、では。

氷の女王(HL)…「どれ、まずは

籠手試しといこうか」

氷の女王は…「**止めの一撃**」を宣

言します。

メインフェイズの宣言、マイナ

ー放棄、メジャーで「射撃」**遺牙**

銭。この時点で、殴+10+1D

10のダメージが見込まれる範囲

攻撃です。

なお、命中するとスペシヤルな

【憤怒】

防衛的な行動判定値にマイナス20%、攻撃的な行動判定の判定値に+20%される。

【止めの一撃】

グロウのひとつ。即座にメインフェイズを行い、射撃攻撃を行う。判定は行わずにスペシヤルになる。グロウを使わない限り、リアクションはできない。

【遺牙銭】

硬貨を投擲するアーツ。レリックにやらない攻撃で、射撃攻撃となる。

ので「放心」が入ります。

アモウレ…では：虹の架橋（ビフレスト）…いいですかね？

HL…本当に使ってしまうのかね。

アモウレ…リアクション出来ないってなるとどういう計算でダメージが決まるかさっぱりわからないんですよ。

HL…リアクションができないだけなので、装甲値はそのまま有効です。なので、殴属性の装甲値分ダメージが減ります。

アモウレ…いや、使うかな。スペシャルの追加効果が嫌だし…。

ううん、今回はスルーで！

HL…ふむ、ならやつちまうぞー。

プレダメージアクションで、《必殺

矢》を使用します。

フロレンツィア…殺しに来てる！

コワイ！

HL…（ころころ）22点をくらえ

ー！ 「放心」も受けてもらう！

一同…ぎゃーす！！

アモウレ…うっ…：貧乏生活だったことへのあてつけですか…：

HL…ではセットアップフェイズ

続行します。氷の女王のセットア

ップ、《侵略の大海》を使用します。

対象はPCのエンゲージ、PCの

エンゲージに「雨天」を与えます。

アモウレ…「涙雨…：…」

APも変化します？

HL…しますよー。でも、ビルギ

ットは「雨天」の効果を受けませ

ん。…：シヤスはGRESでもある

から、より悪い効果を受けますね。

アモウレ…すまぬ息子よ。

HL…では、イニチアチブフェイ

ズ、フロレンツィアの行動かな。

フロレンツィア…くそ…：先手を

【放心】

物理攻撃とドッジ判定、魔法攻撃とキヤンセル判定の判定値にマイナスティを受ける。

【必殺矢】

ダメージを+1D10点する。

【侵略の大海】

エンゲージに天候状態「雨天」を与える。「雨天」は装備重量による補正が二倍になる。加えて、ラチェルとGRESはすべての判定の達成率に+10%される。デュルフとフルワイは「雨天」の効果を受けない。

取られた……」

マイナーで「放心」解除、メジャーで「秘魔」《魔法球》《施命》！

氷の女王…OK、判定どうぞー。

フロレンツィア…（ころころ）成功。

回復量は、（ころころ）22。

一同…全回復！

アモウレ…「かたじけない……」

（びしょびしょ）

フロレンツィア…「いい戦いつてね、

負けない戦いらしいわよ」

HL…では、続いて氷の女王の行

動です。マイナーで「生命珠」使

用、次のH代償を4点減らします。

メジャーで「独魔」《刹那の天雷》

《魔力圧縮》《膨大なる魔力》《海

蛇が如く》！

代償は軽減してHP8点消費。

効果は対象3体に刺+25+1d

10の魔法攻撃。

アモウレ…こういうのをビフレストかな……w

HL…アモウレよ、キミはリアク

ションのダイスを振ってから、ビ

フレストといって判定をスペシャ

ルにしてよいのだよ……？

アモウレ…なにそれグロウ便利！

シヤス…対象はどなた？

HL…（ころころ）シヤス以外です

ね。では判定！

（ころころ）失敗……だと？

アモウレ…わあいw

ビルギット…おや？

HL…ここでドルナが《運命紡ぎ》

を使用、判定のダイスを入れ変え

ます！

ドルナ（HL）…「このドルナ・ベ

ルクめが助力致しましょう」

アモウレ…更に入れ替えようか？

シヤス…いいねw

【魔法球+施命】

《施命》が単体回復なので、《魔法球》で範囲化している。

【回復量】

癒属性攻撃なので、癒属性の装甲値が正の数なら回復量は減るし、負の数なら増加する。

【刹那の天雷】

雷魔法。金属を装備しているとダメージが増える。

【魔力圧縮】

判定結果がゼロ目でもスペシャルになる。

【膨大なる魔力】

レリックの魔力を二倍にしてダメージを算出する。

【海蛇が如く】

対象をLV+2体に変更する。

ビルギット…やっちゃえ！

アモウレ…HL、可能ですか？

HL…いい、いいいいいですけど、

1戦闘1回ですよ？（ふるふる）

アモウレ…これは喰らいたくない

ので…w

HL…ちくそつ、S3支払えよう！

アモウレ…それではその助力に助

力させていただきましょう」

《運命紡ぎ》返し！

HL…氷の女王の魔法は呪言が違

え、その効果をなさなかった！

氷の女王（HL）…「ほう、なるほ

ど…おもしろい」

行動終了、続いてビルギット！

ビルギット…よっしゃー！

マイナーで「放心」解除、メジャ

ーは《独魔》《まつろわぬ氷柱》！

対象は氷の女王とドルナ！

（ころころ）成功！

HL…OK、ではふたりのリアク

ション。氷の女王は《独魔》でキャ

ンセル（打消し）判定するよ。

（ころころ）00、クリティカル！

アモウレ…クリったー！？

ビルギット…くっ！

氷の女王（HL）…「その程度か、

ビルギット…？」

魔法を弾き返して、1D10の

ダメージです。（ころころ）2点。

ビルギット…ぐう、はじかれたっ」

HL…続いてドルナは《白兵》《魔

弾予測》でガード！

（ころころ）ガードには成功。ダ

メージどうぞ。

ビルギット…《聖戦の灯》が乗って

（ころころ）31点です。

フロレンツィア…つよい！

ドルナ・ベルク…くっ…血は争

えませんな」

【ふるふる】

ぼく、わるいえん
こんしやじゃない
よう。

【まつろわぬ氷柱】

氷魔法。元から範
囲攻撃である。

【クリティカル】

判定結果が00
である時。攻撃であ
ればダメージが1
D10点増え、リア
クションであつて
も相手に1D10
点のダメージを与
える。

【魔弾予測】

魔法攻撃であつ
ても《白兵》でガー
ド（物理攻撃へのリ
アクション）を行え
る。

ビルギット…「直撃はしなかった…
…強い！」

HL…14点軽減、17点通った。

アモウレ…すっげえ硬さ…。

HL…斬装甲値って固くなるから。

さて、ではドルナの行動ですが、

待機。続いて、アモウレどうぞ。

アモウレ…ではマイナーで「放心」

解除！

「たとえ今のファイアがファイアその

ものでないとしても！ 私は彼女

の憎しみを、怒りを、苦しみを、

すべて受け止める！」

メジャーで「擬魔」≪フォトン・シ

ールド≫「ダイ・アキュート」！

対象はビルギットです。

「王子様。心は苦しいかもしれま

せんが、せめて体の傷だけでも！

そして、あなたに力を！」

(ころころ) 成功！

HL…OK、ビルギットにバフが
かかった。続いてシヤスの行動。

シヤス…「…はっ、俺は？」

と、マイナーで「放心」解除して、

「邪魔だ、そこからどけ！」

メジャーで「独魔」≪刹那の天雷≫

≪膨大なる魔力≫を使用、対象は

ドルナ！ (ころころ) 成功！

ドルナ(HL)…「全く、相も変わ

らず、破天荒なお坊ちやまですな

…！」と言いなながら、へ白兵≪魔

弾予測≫でガードするよー！

(ころころ) ガードには成功、ダ

メージどうぞ！

シヤス…(ころころ) 30点です！

シヤスの浮遊する牙がドルナに

かみつき強力な電流を流す！

アモウレ…「あの荒々しさ、若い

ころを思い出します」

ドルナ(HL)…「ぐっ…：よい、

【フォトン・シールド】

戦闘中、対象の受けるあらゆるダメージをマイナス5点する。スペシャルしたら10点。

【ダイ・アキュート】

対象が次に行う攻撃のダメージロ点する。+2D10点する。どうでもいいですが、魔導物語ではまものが好きです。

【刹那の天雷】

奇しくも、母に習った魔法を母に向けることになろうとは。

それでよいのです……」

そしてそのまま、ドルナ・ベルクは音もなく崩れ落ちる。HPマインス13、昏倒です。

アモウレ…「もろい……!?!」

氷の女王（HL）…「おや、もう倒れてしまったのか……ベルク？」
ドルナ（HL）…「お力になれず……遺憾の極み」

氷の女王（HL）…「いいや、力にはさせてもらうぞ……お前の遺痕だけでよいがな！」

氷の女王は「大魔法の刻印」を使用します、効果は…アイン・ツフ・アウル無限光…と同じです。つまり、氷の女王はドルナ・ベルクにトドメを刺し、そのグロウを奪い取るうとしています。

さて、どうする？

アモウレ…「ファイア、本気か!?!」

ビルギット「貴方を信じていた人を、裏切るといいますか!」

シヤス…で、どうしましょう？

(一同相談中)

フロレンツィア…では…ユフエメラ夜鷹の夢…でスルトを弾き飛ばす!

フロレンツィアがひと睨みすると、スルトは弾かれて足元に落ちるよ。

氷の女王（HL）…「く……なぜ邪魔をする? ……調停者”め”」

フロレンツィア…「嫌だったかしら」と不敵に笑おう。

氷の女王（HL）…「諍いにわざわざ干渉し、身勝手な正義を押し付ける……忌々しい」

フロレンツィア…「それが役目だからね、仕方ないじゃない。この輪

【もろい】

ごく一般的なキヤクターのHPは30点前後。お前が息子二人の魔法受け止めてみてから言えよ。

【無限光】

即座に魔法攻撃を発生させる。判定せずにスペシャルになる。

【一同相談中】

ドルナを助けるかどうか、助けるならどのグロウを使うか。この2点を相談した。

【夜鷹の夢】

対象のアイテム・装備品・レリックのいずれか1つを破壊する。レリックは破壊不可なので、足元に落ちる。レリックがないと攻撃が行えない。よって、行動は無駄に終わる。

を生まれ持ったからには、そう生きなければならぬ。生まれ持つ運命はワルムもデュルフも変わらない。どちらがいいかは価値観だけだ」

氷の女王（HL）：「……ふふ、食えんな、お前も」

そこで、アモウレがドルナ・ベルクに目を向けた。嫉妬と羨望が入り混じったような、複雑な表情だった。

アモウレ：「ドルナ殿。これ以上、私の妻に罪を犯させないで欲しいのです」

ドルナ（HL）：「……それは、どういう意味ですか」

アモウレ：「あなたは今のフィアが嫌のようだ。なら、なぜその嫌な

彼女が喜んで行う殺戮をみすみす行わさせるのです？

抵抗できなくとも、あなたはあなたとして生きる義務がある。私だって、私だってフィアを失って十年間必死で生きてきた。

……甘えてんじゃないねえよ！
仕えた相手の最期ぐらい、看取つてから死ね！
女王が果てる処がお前の墓場なんだろ！？」

ドルナ（HL）：「……生きる、か。
私は……氷の女王様の幸福のため、生きてきた。こうすることが、あなたの幸福だと信じていた。

……遺痕の力に魂を喰われ、力を求める亡者となったあなたは、慈母であったあなたは、さぞかし苦痛に喘いでいるのでしょうか」
シヤス：「うーん、そんなことを聞くとシヤスがちよつと驚いたよう

【生まれ持つ運命】

この時にセリフはカツコよかった。選ばれる者とのボーナスを与えてもよいと思つたので、SPを1D10点回復してもらった。

な顔をしますね。

氷の女王（HL）：「な……！」

ドルナ（HL）：「……アモウレ殿。」

氷の女王様を、どうか、安らかに」

アモウレ：「……心得た！」

HL…ドルナ・ベルクは：神出鬼

没（バニツシユメント）…を使用

し、その効果でシーンから退場し

ます。

シヤス：「そんな……彼の信念は、

何だったんだ？ 何を言っても、

信念を貫き、安らかな眠りを得た

いのだとばかり……。

……かっこよかった、んだけどな、

妬ましくなるくらい……」

アモウレ：「さて、おじやま虫は消

えたなファイア」

氷の女王（HL）：「……愚か者は、

もういない。さて、ここからだな、

アモウレ」

アモウレ：「その魂に、安らぎを」

氷の女王（HL）：「ああ、だが、

死の安らぎは私が与えるものだ」

ここで、氷の女王は再度「大魔

法の刻印」を使用します。先ほど

と同じ行動で、PC1エンゲージ

に魔法攻撃を行います。マイナー

でレリックをひろうので、HP1

1点まるごと消費しますけどね。

ビルギット…攻め時の予感？

アモウレ…さすがにこれはビフレ

ストするかな、スペシャルだし。

HL…OK、氷の女王は魔法で君

たちを焼き払おうとしたが……。

アモウレ：「申し訳ない。君を寝か

しつけるまで、死ぬわけには行か

ないんだ！」

ビフレストでリアクション、へ

白兵〈〈魔弾予測〉〉〈八面六臂〉で

全員を護る！

【神出鬼没】

シーンから退場するか、何らかの対象から自身を外す。

【彼の信念】

今の女王とかつての女王。ドルナ・ベルクは、そのどちらを信ずればよいか迷っていたのだ。結論は出た。

【八面六臂】

リアクションの対象を自身から範囲に変更する。要は、同じエンゲージの仲間を同時に護れる。

H L…うむ、女王の魔法をアモウレはうまく受け流した！

氷の女王（H L）…「くくく、やるじゃないか。さすがは私の夫だ」
アモウレ…「さすが私の妻だ、何が起きても動じないな」

フロレンツィア…「記憶はしっかり残ってるのね…」

H L…では、全員行動終了。続いてクリンナップフェイズ。「悲哀」や「放心」、「雨天」が解除される。
ビルギット…無効の嵐だった…。
H L…みんなもつとグロウ使っているのよ？

フロレンツィア…無効系は強い。
シヤス…氷の女王はあといくらほどのグロウを隠し持っていることやら…w

アモウレ…ああ怖い怖いw

◇第二ラウンド

H L…では、再びセットアップ。
フロレンツィア…灯つかうよー。

H L…ほかの人はなかつたはずなので、氷の女王が≒侵略の大海≒。
アモウレ…また雨…。

氷の女王（H L）…「来たれ、≒侵略の大海≒！」

続いてフロレンツィアの行動だが、さほど全員のHPが減っていないため、大気を宣言した。

H L…では女王の行動。行動内容はさつきと同じ！対象はフロレンツィア以外の三人！

（ころころ）成功。では、続いてPCのリアクション。順番を相談して、リアクションしてください。
アモウレ…へ白兵≒≒魔弾予測≒≒八

面六臂でガードしまっす！

(ころころ) 成功、よしよし。

HL: うーん7点軽減されるのか。

アモウレ: レリックと装備のおかげで防御値自体は10あります。

HL: あー、ならアリだな。

氷の女王 (HL): 「おっと、お前のクセは知っている、あれだけの時間を連れ添った仲だからな！」

氷の女王は: エフェメラ: を使用、アモウレのレリックを弾き飛ばします！

アモウレ: しまっ: : ウェポンブレイクが! ?

HL: アモウレのリアクションは失敗して、レリックは足元に落ちます。

シヤス: シヤスはへ自我へ抗う魂

《因果応報》でキャンセル判定をします!

(ころころ) 失敗、うーん。

ビルギット: ダブル抗う魂! ビルギットも同じ組み合わせです!

(ころころ) ファンブル! ?

HL: よし、フロレンツィア以外には全員当たったな。ダメージは

(ころころ) 刺+27点!

カバーリングをするのであれば

このタイミングですね。

アモウレ: カバーリングしなくて

もいいね、こりゃ。

シヤス: 食らっても耐えてるから

私はいいや: : w

ここで全員「避傷のハネ」を用

いて、カバーリングをせずとも立

っていたので、待機していたフロ

レンツィアが回復を行おうとする

が: : : ?

【抗う魂】

へ自我で魔法攻撃に対してキャンセル判定が行える。

【因果応報】

《抗う魂》にのみ組み合う。キャンセル判定に勝利した場合、受けた魔法を使用者に跳ね返す。

【カバーリング】

攻撃をかばう。プレダメージアクションで行う。カバーリングをする行動済みになるが、アモウレは《万人の盾》を持っているので行動済みにはならない。

【避傷のハネ】

一般アイテム。受けるダメージを1D10点軽減する。一人一個は持つておかないと命に関わると言われる。

氷の女王（HL）：「ふふ…：もう
見戯は飽きた。終わりにしよう」

氷の女王は：タフ・ボフ・ケセツ無形虚闇：を使用、
即座にメインフェイズを行います！

ビルギット：「こ、この魔力！」

アモウレ：「嘘でしょ…：」（先ほ
どの攻撃で片膝をつきながら）

HL：マイナーで生命珠、メジャ
ーでいつもの。

シヤス：「そうはさせるか！ あん
たのクセは、俺が一番よく知っ
てんだぜ！」

：プロフェエティ冒澆：から：夜鷹の夢：を
コピー！

レリックを掴み、弾き飛ばす！
氷の女王（HL）：「にやりと笑い」
：：「そうでなくてはな、シヤス」
行動は失敗に終わります。イニ

シアチブフェイズに戻ります。

ビルギット：魔法撃ちまくると思
うので、回復ください！

フロレンツィア：「ヒーリングい
え！」というわけではない。

（ころころ）97で失敗…：《癒

回路補術》で入れ替えて成功！

HL：補術がなければ死んでいた。
フロレンツィア：「ヤバそうだった
がそんなことはなかったぜ」

回復量は（ころころ）25。

ビルギット：よし、アモウレさん
のダメージ上昇を活かしたので
まず：無限光：から：終わるのは、
あなたの悪夢です！」

氷の女王（HL）：「…：やってみ
るがいい」

ビルギット：「かわいそうな母さま、
もう終わらせてあげなくては」
《まつろわぬ氷柱》のみです。

【無形虚闇】

シヤドウのグロ
ウ。判定に自動成功
する再行動を行っ
たり、使用されてい
ないグロウ一つを
封じたりできる。

【冒澆】

ハウチ族のグロ
ウ。シナリオ中に見
たことのあるグロ
ウをコピーできる。

【死んでいた】

だからやっぱ
《補術》は必須なん
だよ！

30%即死は当
たるし、85%攻撃
は外れるんだよ！

ダメージダイスいきます！
氷の女王（HL）：「ところで…
終わるならば、共に終わるとい
うのはどうかね？」

氷の女王は「拡大の刻印」を使
用します。効果は：フラット・ウインド閃知：と同じです。

≒まっろわぬ氷柱≒の対象をシ
ン（強制）に変更します、これに
より、PC全員にも攻撃が命中し
ます。

ビルギット：「やにい！
「しまった！？ 魔力が…：みん
な！ 逃げてください！！」

アモウレ：「逃げると言っても、ど
こへですか！」

フロレンツィア：「3・逃げられな
い。現実には非情である」

アモウレ：「逃げられないなら！
どうにかして守るのみです！」

ビルギット：「アモウレさん！ み
んなを、守って！！」

：冒流：から：虹の架橋：をコ
ピーして、アモウレさんにリアク
ションをしてもらいます！

アモウレ：「ありがたい！ この力、
たしかに！」というわけでいつも
の組み合わせでスペシャル成功、
攻撃を受け流します。

「レリックなんて無くても、私に
は愛がある！ ファイアへの、息子
への、仲間への！」

これが、私の“amore”！！」

HL：OK、ではビルギットはダ
メージロールどうぞ。

フロレンツィア：「ここが使いどこ
ろかな。：花鳥：を使います。
対象はPC全員。」

ビルギット：「魔力が高まる！」

アモウレ：「うひょー強いw」

【閃知】
ニンス族のグロ
ウ。何らかの効果の
対象を一段階大き
くする。

【逃げられない】
フロレンツィア
って、実はエターナ
ル・チャンピオンと
か、プレインズ・ウ
オーカーなんじゃ
ねえの？

【してもらいます】
グロウの多くは
対象が自身ではな
く単体である。よっ
て、誰かにしてもら
うこともできる。

【花鳥】
遺痕を持たない
キャラを支配した
り、一時的にダメー
ジを増強したりす
る。
天使たるワルム
族の威光で士気を
上げるグロウだ。

氷の女王（HL）：「何、ここまで……！？」

フロレンツィア：「今よ、王子！

アナタの手で決別なさい！」

ビルギット：「ダメージロール……

（ころころ）53点！」

「ボクの信じた仲間の力だ！」

王子の召喚した氷柱に身を貫かれ、氷の女王は大きく喀血した。

苦痛に顔をゆがめ、そして、地に伏せた。

「……やったか？」

誰とでもなく呟いたその時、まるで操り人形のように、氷の女王の体軀は浮き上がった。

「……赦さん、赦さんぞ。私を、よくも殺してくれたな……？」

ビルギット：「あ、あれだけの魔力

を受けて、まだ！」

アモウレ：「殺されて、なお死なな

いというのか！？」

氷の女王（HL）：「いいだろう、

さつき言った通りにしよう。

死なばもろともだ！」

氷の女王は【トランス】を宣言！

「傀儡」状態になった！

怨痕者のSPにあたる、DPが

0になるまで動き続ける！

アモウレ：「やはり、やはり私が間

違っていたのか……？ いや、今

は後悔の時じゃない」

氷の女王…氷の女王は…冒涇…で

ビルギットの使用した…無限光…

をコピーして使用する！ マイナ

ーで「硬直」を解除して、メジャ

ーは同じ！ 対象はシヤス以外！

ビルギット：「そんな！？」

シヤス：「大人しく寝てろ！」

【やったか？】
やってない。

【トランス】

肉体が死んでも、魂の力で肉体を無理やり動かしている状態へ移行する。HPが0以下になった時、トランスを宣言することで「傀儡」状態になる。この時、同時に「昏倒」から「死亡」状態になる。以後、「死亡」の効果を受けずに行動できるが、ダメージはSPで受ける。

∴無形虚闇∴を使います！

氷の女王（HL）∴「どら息子め、お前は黙っているろ！」

∴バニッシュメント神罰∴でその∴無形虚闇∴を打消す！

アモウレ∴「すいませんね、私の息子がどら息子で！ 私に似たようで、諦めが悪いんですよ！」

シヤスに∴ボラ・スター祈星∴を使用します！

シヤス∴「∴∴∴ああ、そうだな！オヤジ、やっちまえ！」

増えた∴冒流∴から∴虹の架橋∴をコピーしてアモウレに！ 女王の魔法を対抗呪文で和らげる！

アモウレ∴「今まで守れなかった分、働かせてもらいますよ！」

いつもの組み合わせで弾く！

氷の女王（HL）∴「これでも、これでも届かないというのか！？」

アモウレ∴「届かせませんよ、私が生きている限り！」

氷の女王（HL）∴「アモウレ∴∴∴」

HL∴行動終了、イニシアチブに戻ってビルギットの行動です。

ビルギット∴「穢れた魂の輝きを、断ち切る！」

《まつろわぬ氷柱》で攻撃！

（ころころ）63、一応、成功。

HL∴氷の女王のキャンセル判定∴∴（ころころ）足りない、だと？

一同∴おっ！？

氷の女王（HL）∴「この程度も、見きれぬまでに∴∴」

ビルギット∴（ころころ）19点。

HL∴まだ立ってるぞ！ では、

アモウレの行動、どうする？

アモウレ∴ここはゆきます！

「十年前のあの日、そこから全てが狂ったのなら！ その決着は私

【神罰】

クーン族のグロウ。グロウ一つを打ち消す。

【祈星】

グレス族のグロウ。他人のグロウ一つをもう一度使用可能にする。

がつける！」

マイナーでエンゲージ、メジャーで「**白兵**」のみで攻撃！

「これは、君の魂、その尊厳の守護なんだ！ 君にもらったこの鉢巻で、愛を証明してみせる！」

機械の義足が唸りを上げ、天使の力を受けた鉄拳は深々と打った。

最愛の者の身体を。息子が渡した引導を完全なものとするには、十分すぎる一撃だった。

あるいは、届いたのだ。その一撃は肉体へではなく、魂へ。

操り糸が続けざまに弾け飛んだように、女王の身体は力なく夫へもたれかかる。

「……あなた、いっしょにきて」
その魂が去り際に、違う声音を愛する者へ告げた。去りゆく寂寥

と共に。

HL…**反逆**^{リベンジ}…を使用して、アモウレに軽減不可の37点ダメージを与えます。

ビルギット…「アモウレさん！」

アモウレ…声すら出せず、アモウレの体は力尽きますが、「トランス」します。

「……ちよつとだけ、待っていてくれないか」

HL…アモウレの言葉に、氷の女王は満足げに、「動かなく」なった。
アモウレ…アモウレは動かなくな

った妻を見て、悲しげに微笑む。
「すいません、私も共に、行かせて頂いてもよろしいですかね？」

「シャス」ばっかやろう！ お前も死にてえのか！！」
ビルギット…「それって、ここで死

【「白兵」のみ】

アモウレはこの前にレリックを取り落していた。そして、素手の攻撃力を「ガントレット」や「鉢巻」で増加させていた。
狙いすましたような一撃だった。

【反逆】

自分が受けたダメージと同じダメージを相手に与える。グローウ以外ではあらゆる軽減がでない。

ぬってことですか！　そんなの、
ダメですよ！」

シヤス…「両親揃いも揃って、お前
らは…：！」

アモウレ…「あの日、私と別れてか
ら、フィアはずっと寂しかったの
だと思っています。十年間、私も死ぬ
ほど後悔してきました。自暴自棄
になって、足を二本失いました。
それでも、その痛みさえも、彼女
の心の傷に比べれば小さいのだと
思います。」

十年。十年ぶりに、やっと再会
出来たのに、また離れ離れになる
だなんて、あんまりです。今度は
妻が、フィアが、独りで、そんな
…：私にはそんなことは耐えられ
ない！」

シヤス…「結局俺は…：また一人、
失っちゃまう。やっぱり俺って、死

神“なんだな…：。でも！　今、
俺の前からいなくなっちゃったら、
一生恨むからな！」

アモウレ…「シヤス、お前には本当
に申し訳ないと思っている。あの
時、一緒に住もうと約束したのに
な…：！　何とでも罵ってくれれ
ばいい。でも、私はフィアを心か
ら愛している…：もう、離れたく
ないんだ！」

ビルギット…「…：」

シヤス…「そんなに死にてえか…
：」と、アモウレに近寄る。

アモウレ…「…：」

寂しそうな目でシヤスを見ている。
ビルギット…「シヤス！」

（シヤスに駆け寄る）

シヤス…「…：俺は、死にてえとし
か思ってたねえような奴には、死を
与えてきた。本当に死にてえなら、

後悔はしないな？ この「死神」

が……楽にしてやる」

アモウレ「息子に殺される、とい

うのも悪くはないかもしれないな。

だが、その必要もない……」

ビルギット「シヤス、この人の決

意はもう変わらない……」

アモウレ「私は、遺痕者にしては

長く生き過ぎたのかもしれない。

こうやって、最愛の妻を救い出せ

たんだ。もう、いいんじゃないか

な……？ わがまま、かな……？」

ビルギット「アモウレさん、母さ

まのこと、頼みます」

アモウレ「すいませんね……。王

子様も、まだまだ母親に甘えたい

年頃でしょうに」

シヤス「俺だってこんなことはし

たくない……だけど、苦しむ姿は、

見たくないんだ……」

ビルギット「シヤス！ ボクがず

っとシヤスと一緒にいる！ 絶対

一人にしないから！」

(シヤスを抱きしめる)

シヤス「……なあ、最期に、言い

たいことはあるか？」

アモウレ「最後、か。じゃあ一つ

お願いがあるんだが、いいかな？」

シヤス「なんだ……？」

アモウレ「最後のこの時だけ、父

親としてお小言、説教を言わせて

くれないか？」まるでいつもと同

じような、変わらない笑顔で。フ

イアモセの亡骸をお姫様抱っこし、

シヤスに向き合う。

「シヤス。父さんは、今から母さ

んと一緒に新婚旅行に行ってくる。

誰にも邪魔されず、二人っきりで。

本当はお前も連れて行きたいん

だが……お前には仕事があるよな。

「このころのフロ
レントイア」
空気を読んで、黙
って孤独を噛みし
めていた。
土下座したい。

父さんに初めて会った時、お前は
『流水』のナンバー2』だと言
ったな。なら、母さんが死んでし
まった今、お前が『流水』のトッ
プになるはずだ。これからは、お
前が流水を引っ張っていくんだ。

お前のお兄さんは、そのうち国
王になって国を守る。そしてお前
は、『流水』として国を守る。こ
れからは兄弟で協力してリヤタを
支えていくんだ。

…：いずれ、お前にも**終わり**は
来る。その時は、優しく、迎え入
れるつもりさ。なんとたって、お前
は私の息子なのだから！」

シヤス…：…：わかった。俺もこん
な生き方をしてきて、いつ後を追
ってもおかしくねえからな…：で
も、当分死ぬつもりはねえよ！
…：まあ、そのうち、な」

アモウレ…：そしてフロレンツィア
さん。本当に、感謝しています。
私が苦悩していた時に、あなたは
一喝してくださった。そのおかげ
で私は、道を踏み外さずにすんだ。
もし出会えなければ、私も怨恨に
狂っていたかもしれない。食えな
いあなたが素敵でしたよ…：」

フロレンツィア…：まあ…：それが
私の仕事だし。仕事だからタダじ
やないわよ。こつちに戻ってきた
ら…：そうね、いくらもおうか
しら？」

アモウレ…：最後まで…：食えない
方ですね。ああ…：みなさんに会
えて、本当に、嬉しかった…：」

そう言い残し、心の底からニコ
リ、と笑いアモウレは息絶えます。
妻を抱えたまま、雄々しく立った
まま、そして幸せそうな顔のまま。

【**終わりは来る**】

原文は「どうして
も辛くなったら、会
いに来ていい」とい
う内容。自殺教唆ま
が이었다。

シヤス…シヤスは無言になりながら、ぽつぽつと涙を流し始める。シヤス…「なあ、ビル、フロ、これでよかったのか…？」

ビルギット…「もう一人、お父さんが出来たみたいだったんだけど、なあ…」

フロレンツイア…「私には、分からないわね。彼は、満足そうだけれど」

ビルギット…「アモウレさんなら、もう母さまを一人にしたりしないよ。大丈夫さ」

シヤス…「俺、誰とケンカすればいいんだよこの先…」

ビルギット…（シヤスをよしよし）シヤス…ビルの名前を呼んで、振り返って手を握る。

「ビル兄ちゃんは、俺の前から消えたりしないよね、この先…」

ビルギット…「当然さ！ シヤスみたいなの、向こう見ずの鉄砲玉よりは長生きする自信があるよ！」
（大げさに自分の胸を叩く）

「…胸、ちょっと貸してくれ」
弟はそういうと、兄の胸に飛び込んで泣き始めた。兄はこらえるように顔をきつく閉じ、弟の小さな背中をなでていた。

「大丈夫そうよ」
父の遺体を清めた天使は、そう昇ってきた朝日に眩くのだった。

【バックトラック】

決戦ステージ終了後、「怨痕の解放」が起こり、PCのSPが回復する。この回復の後、SPが0以下なら怨痕者に堕ちる。

なお、今回は最低値でも全員大丈夫なのでカットした。

【魔剣の行方？】

スルトがどうなったのか、描写し忘れていたことをリプレイ執筆時に気づいた。
スルトは契約した怨痕者が倒れた段階で、「旋風の印」を用いて闇に消える。

悪しき聖牙を完全に葬るには、特定の手段を用いて「仮初の死の刻印」を破壊せねばならない。
ま、キャンペーンでもやって。

●エンディング1「旅立ち」

リヤタの復興が終わり、フォードーたちは次の村へ旅立とうと荷造りをしていた。フロレンツィアも荷物をまとめ終わった頃、一人の混血の少女が歩み寄ってきた。

フロレンツィア「リヤタとも、さよならバイバイね」

ニーチェ（HL）「ふーちゃん！今回は……ありがとな」

フロレンツィア「まーねー。あ、みんなにはお礼言った？」

ニーチェ（HL）「うん！ また、リヤタに来れるんやね……」

フロレンツィア「次はいつになるやら、分からないけどね」

ニーチェ（HL）「ねえ、ふーちゃん。……わたし、前のフォードーのリーダーやったおじいさんに

な、聞いたことがあるんやけど。

……わたしのお母さん、リヤタのキャラバンの、導師やったんて。

だから、ひよつとしたら。会えるかもしれないねん。いつ、どこでかは、……分からないけど」

フロレンツィア「すごいじゃん」
ニーチェ（HL）「そういわれ、はにかむように微笑む。

「……そういえば、ふーちゃんのお父さんお母さんのこと、聞いたことないね……教えてよ！」

フロレンツィア「！！ ま、また今度ね」

ニーチェ（HL）「えー！ いいやん！ いまいま！！」

フロレンツィア「……わ、わかつたわよ。……じゃあニーチェだけに教えたげる。まあ、私がフォードーに入る前に死んだんだけど」

ニーチェ（HL）：「……みんなそんなもんやね。村の壊滅に巻き込まれた、とか？」

フロレンツィア：「せんそーね……これ、何か知ってる？」

（頭の輪っか指さしながら）

ニーチェ（HL）：「確か……争いをなくす者の証やったつけ」

フロレンツィア：「そうそう、親にもあつただけどね。まあそれで、調停とか話し合いとか、うんたらかんたら言つて回つてるうちに、戦いに巻き込まれて死んでつた。」

……バカよね」

ニーチェ（HL）：「馬鹿という言葉に反応して、目を伏せる。」

「じゃあ……ふーちゃんはどういうことはしーひんつてこと？」
フロレンツィア：「……期待されているうちはするよ」

ニーチェ（HL）：「……ふーちゃん。争いをなくすために命を張つたご両親を、ホントに馬鹿だつたと思つとるん？」

フロレンツィア：「……自分の生きたいように生きた、つてところで尊敬できる人ね」

HL：それを聞くと、ニーチェはにっこりと笑つた。

フロレンツィア：「対照的に、今までにないほど寂しそうな顔をする。」「でも、馬鹿よ。……私の事は気にかけてなかつたし」

ニーチェ（HL）：「……そんなこと、あらへんよ。きつとね」

フロレンツィア：「そうかな？」

ニーチェ（HL）：「……わたしは。わたしはね、村を守るために、必ず死ぬ旅に出たお母さんが大好き。やけど、なんでタマゴやつた私を」

置いていったんか……。

時々、分からなくなんねん……」
フロレンツィア……「さあね。他人の心は、本当にわからないから」
ニーチェ（HL）……「でも、きつと愛してくれとつたって思うねん。せやないと、あんなにええ名前は、くれへんかった」

フロレンツィア……「いーなー、ニーチェは楽しそうで」
ニーチェ（HL）……「何言つとんねん！ ふーちゃんにも、きつと分かる日が来るって。その日まで、いろんなものを見て回ろうな！」
フロレンツィア……「わかる日、か……」と呟いて、遠くを見つめる。
「『調停者』を重荷だと感じなくなる日は、来るのだろうか……」
天使は友に呼ばれ、去って行く。
来たるその日を、臆げに思つて。

●エンディング2 「墓標」

リヤタの墓所、曇った空に枯葉が飛ぶ。墓所を歩く壮齢の男、彼はハイキリヤの村長だった。二つ並んだ墓の前で片膝をつき、長い溜息を吐く。

「悪い予感とは……このことだったか。気を付けろといったのに」
送り向けたヒトが死ぬ。別段珍しいことでもない。だが、未だに慣れなかった。

立ち上がると、夕闇に染まった崖から海が見える。一服、紫煙を風に乗せてから目を瞑る。

「今回の報酬だ、受け取れ」
そう言い放ち、ダスクは金貨の詰まった袋を、崖から海へ投げた。
「……ハイキリヤにも、きつと春が来るだろう。願わくば、来世の幸福を、つてやつたな」

【ええ名前】

フオーダーでは、仲間となる時に元の名前を捨てる。ニーチェの本名は句風林チェンだ。

【珍しいことでもない】

彼の仕事は、一般人の手には負えない……「怨痕者の絡んだ事件に遺痕者を派遣すること。その危険もさることながら、遺痕者には死にたがりが多いのだ。」

●エンディング3 「流水」

死闘を終え、シヤスはリヤタの外へ出た。逃げ延びた「流水」の残党どもは、どうしただろうか。そう思っていたのだ。

そこで待っていたのは、力でもめ上げられた残党と、「宰相」の姿だった。

ドルナ（HL）「お待ちしております、シヤス様」

シヤス…「…正直、お前とはあまり会いたくなかった」

ドルナ（HL）..その言葉に、ドルナは苦笑を浮かべる。

「…私は、氷の女王様の幸福のために働きたく存じます。そのためにはきつと、このまま「流水」を維持すべきなのでしょう。」

この美しい雪国、リヤタ。この王国の存続をきつと、あのお方は

望むでしょうから」

シヤス..「今は亡き主君でも、まだ忠誠を誓うというのか…その信念は立派だと思う」

ドルナ（HL）..「私は…あなた
の父君に思い出させられたのです。
私が仕えているのは、あのお方ではなく、その「信念」であつたと。
私は、私の「信念」を見失っていたのです」

シヤス..「そうか…。俺も、そんなことになってしまわないように気を付けなくてはな。」

…ま、かっこよかつたぜ。あんまり認めたくはないが」

ドルナ（HL）..「では…「流水」の新たな、いえ、真実の方針を、彼らに伝えましょう」

シヤス..「そのことなんだが…。すまねえ、俺は離れさせてもらう。」

もつとも、呼んでくれれば協力できることはあるとおもうがな」

ドルナ・(HL)：「…私めにその目的をお教えして頂くことは？」

シヤス：「ほかに、やりたいことができたんだ。…俺の最後の家族、

兄の手伝いがしたいんだ」

ドルナ・(HL)：「彼は、シヤスのしぐさにとっりとわらう。

「あのお方がおられたなら、きっと喜ばれたことでしょう。ええ、

わかりました。闇の守護者など、私のような老いぼれのみで十分。

壁の外の守護はお任せあれ」

シヤス：「もしなにかあったら、遠慮なく呼んでくれ。外の魔物は相

変わらずのようだし、暴れるのは俺が得意だからな！」

HL：「ドルナ・ベルクは『流水』の魔物をまとめるべく、勇んで後

ろで耳を垂れている魔物たちのもとへ歩き去る。

ドルナ・(HL)：「ほほっ、あなた様の名だけで十分でしょう。十分、痛みを知ったでしょうからね」

その姿を見送って、魔物の少年は踵を返した。

闇に身を染めながら、光に身を置く少年。彼は雪の積もる街並みに足早に溶け込み、傷ついた城下町の復興に手を貸すのだろう。

表舞台に姿を現さない『流水』の指導者。その名の一つが『キラ』と呼ばれるようになるのは、それからそう遠くないことだった。

【壁】

村は高い壁で魔物から護られている。時期が時期だったせいで、「進○の巨人」とか言われた。こっちの方が先だから！

【その名の一つ】

シナリオ想定は、PC4が流水の指導者になるというものである。しかし今回は、シヤスが流水を抜け、リヤタ王室の支援者になるという結果に終わった。ひよつとすると、ドルナの中で今でも指導者は氷の女王である、というかもしれない。

●エンディング4 「親子」

あの惨劇から、半年が過ぎた。

着飾らない王子が、リヤタの街並みを視察していた。街は元の様相を取り戻しつつあり、活発に多くのヒトが行き交っていた。

「たった半年だというのに、やはりリヤタの国民はたくましいな。安心したよ」

だが、未だ資材を運ぶヒトビトの数は減らない。街だけではない、多くのヒトが死に、傷ついた。耳を傾ければ、まだ癒えぬ傷の痛みに呻く声が聞こえる。

「…それでも傷は癒えない、か。でも、そもそもはこの国に根付く差別、偏見が原因。あの事件を受けて、種族排斥の運動も高まっていると聞くし…はあ、課題は山積みだなあ。…やっぱり、王

宮から変えていかなくちやなあ…
：よし！」

王子は急に表情を引き締めると、途端に走り出し、お付きの者を撒いてしまった。向かうは王宮。抜け道を通って駆け込んだのは、王の施政室だった。

ビルギット…「父王様！」

王（HL）…「！ノックぐらいしないか！　つと…お前か、どうしたんだ、一体？　そんなに急いで…何かあったのか？」

ビルギット…「お忘れですか！　今日は鎮魂祭の日ですよ！」

王（HL）…「何！？」

…：そ、そうだったか？
ビルギット…「さ、早く墓所へ行きましょう。」

そのまま構いませんから」

【多くのヒト】

HL「人口の減少は（ころころ）28%程度ですかね」
ビル「…：だいたいぶんでますね」

【鎮魂祭】

大嘘。

王（HL）：「あ、ああ……心得た」

（コートを羽織ってついていく）

地下道を通って校外の墓所についてみて、ブライニクル王は怪訝そうな顔をした。墓所は半年前の祭りの後のまま、寂れきっていたからだ。しかし、次の瞬間にはその表情がほどける。

墓所の奥、真新しい寄り添うような二つの墓石の前に、一人の少年がいた。そのデュルフの少年は墓標に祈りを捧げ終えると、静かに振り返る。その荒んだ瞳の中には、見覚えのある面影があった。

王（HL）：「……ビルギット、あのデュルフの少年は……？」
ビルギット：「……紹介したい人がいるんです」

（近寄って肩に手をやる）

「ボクの弟の、シヤスです」

（シヤスに向かって）

「ボクのお父様、ブライクニル陛下だよ」

シヤス：「ビルのお父様って……王様！？」（静かな顔をしていたが、さすがにちよつと驚いたような顔を浮かべる）

王（HL）：「（しばし言葉を失って）

……リヤタの現王、ルニベルト・レニ・ブライニクルだ」

シヤス：「は、はじめまして、シヤスⅡオルキスと申します」（お辞儀するものとてもぎこちない）

王（HL）：「（深く息を吐いて）……

なんと、なんと言葉を紡げばよいのだろうか、アイシクルよ……。まさか、儂が在位中に会えるとは思ってはいなかった」

【はじめまして】

このシーンの前に、シヤスは封印（シール）の効果、「自身の願いを叶える」でこのセッションの経験点を前借りして、瘴気の仮面を取っておいた。瘴気の仮面の効果で、ブライニクル王にはシヤスが魔物だとは分からない。なお、この裁定は、「演出的な意味しかない」ために、特別に許可した。封印を経験点の前借りのために使用することは、強く非推奨とする。

ビルギット「……ご存じだったんですね、ボクの兄弟のこと」

王（HL）「身ごもっていたことは知っていた……。だが、まさか、しつかりと生まれ育ってくれていたとは……。」

……シヤス。ひとつだけ訊ねたい。君は……王家の者か？ それとも一人の少年か？ いや……」

王は言葉に詰まり、言葉を探すように目を伏せた。そして、申し訳なさそうに懺悔の言葉とした。

「……私の、息子であってくれるのか？」

シヤス……直接の血縁関係は、王様のほうからはございませんが、それでもいいなら、興味なくはない、です」

ビルギット「父王様、いいんです。シヤスには、自由に生きてもらわ

なくちゃ」

王（HL）「……そうだな、ビルギット。そして、ありがとう、シヤスくん。できれば……これと、助け合ってほしい。……私なぞが、言えた義理ではないがな」

シヤス「もちろん！」

王（HL）「その返事に、王は目を閉じて満足げに笑みを浮かべた。

「ビルギット、お前は幸福者だ。母に感謝しなさい」

優しく、王子の頭を撫でながら。

ビルギット「母さま……。」

父王様。もう、こんな悲しい出来事を起こさないよう、国政を改めねばなりません」

王（HL）「！ ビルギット、お前は……。」

ビルギット「もちろん父王様にも、まだまだ頑張って貰わないと！」

王（HL）：「……ああ。その通りだ。お前に宿題を残すことのないよう、尽力せねばな。」

：「あの日以来、お前と満足に晚餐もできなかつた。今日は……兄弟と、私で共にとうろう」

ビルギット：「ありがとう、お父様」
シヤス：「お、やった！」

ビルギット：去り際に、母さまとアモウレさんの墓の前に向き直つて手を合わせよう。

「……母さま、悲しい再会になつてしまつたけど、ボクは今幸せです。どうか、アモウレさんと、来世でもお幸せに……」

シヤス：「かあちゃん、とおちゃん、散々わがままいってごめんよ。安らかにな。今の俺にも。居場所はちゃんとある・安心してくれ」

王（HL）：「ふう……向こうであ

れに詫びる前に、まだまだやらねばならないことがあるな。いや、いいことだ」

王は墓に深く祈りをささげると、踵を返した。

「晚餐に間に合うよう、執務を片付けねばならん。ビルギット、時間があればシヤス君に王城を案内してあげなさい」

ビルギット：「はい、シヤス、行こう！」

そう言つて、シヤスの手を取る。
シヤス：「やった、いいこいこ！」

父親と、二人の息子。彼らは両親の碑石の下を後にした。その日の空は、リヤタには珍しい晴天。後の「黒鱈王」の臣下、「死神」が初めて歴史に現れた日となつた。

◆原罪の丘「夢果て、魂は眠る」

空は漆黒、しかしその草原は晴天のように明るい。緩やかな丘の上一本だけ生えた榆の樹の根本、多くの鬚と威厳ある角を蓄えた老人が一人、腰かけている。その周りには、無数のヒトビトがいた。あの老人こそ、ヘイズルーン。輪廻転生の番人にして、遺痕を眺む者。

「遺痕者よ、よくぞ戦い抜いた。そして、怨痕者よ。来世こそは、幸福に」

ただそう一言、ヘイズルーンは呟いた。アモウレがふと気づくと、その目の前には一人の女性がいた。アモウレ…「……！」

フィアセモ（HL）…「……どう、謝ったら、いいのでしょうかね」

アモウレ…「何言ってるんだ……？」

謝るのは、私の方なのに」

フィア（HL）…「いいえ、あの魔剣に、私が共感してしまったのは事実なの。……あなたが、支えてくれていたのに」

アモウレ…「私はちつとも君を守れていなかったじゃないか。本当に守りたかったのなら、あの日、私も闇に飛び込むべきだったのに」

フィア（HL）…「彼女は頭を振って。……絶望にのまれてしまった私を、許してください」

そう、彼女は恥じた。アモウレ…「確かに、絶望に飲まれていたかもしれない。でも今はどう、そうじゃない……それでいいじゃないか」

フィア（HL）…「……ありがとう。あなたで、よかった」

アモウレ…「私も、君でよかった。」

【原罪の丘】

肉体の死を迎えた魂が、転生を待つ場所。ここで魂は記憶を洗われ、記憶を失った時転生する。リンカネではエンディング後、PCが望むのなら、原罪の丘を演出する。正気を取り戻した怨痕者の真意を、PCと語らうことなどが目的である。

心から君を愛することが出来て、
本当に良かった」

フィア（HL）：「次は、きっと。

どんなに辛くても、私は信じる。

あなたのことを忘れてしまっている

かもしれないけれど、必ず」

アモウレ：「私もだ。絶対、君を探

し当ててみせる。今度はもう、絶

対に離さないぞ！ もう、我が子

に『くそじじい』とか『くそばば

あ』とか、呼ばれないようにな！」

フィア（HL）：「（涙を浮かべ）そ

うね……。そうだよ。もしあの仔

たちに会うことができたなら。私

が巡り会えるとは限らないから、

伝えてください。

ビルには……。愛情を注げなかつ

たことを、謝ってあげて。

シヤスには……。いつだって愛し

ていたことを、伝えてあげて。あ

なたは私の誇りよ、と」

アモウレ：「覚えておくよ。そうだ、

私も同じように伝えてほしいこと

がある。フィアにも覚えておいて

ほしいんだ。

ビルギットさんは……。あなたの

母君のような人がいない世の中を

作る努力が出来ましたか、と。

結局、短い付き合いだったので

このぐらいしか無いですが。

シヤスは……。君と同じかな。僅

かな時間だったけれども、私も彼

を愛したし、誇りだった。もつと、

抱きしめてやればよかった」

フィア（HL）：「そうね、まった

く、誰に似たんだか……。』

そう、柔らかに微笑む。

アモウレ：「本当に、子供というの

は面白いな。どちらに似たんだろ

うな」

【私の誇り】

「思えば、お前は出
来の悪い仔だった
ことよ」
彼女の言葉は、本
心ではなかった。
無鉄砲で荒々し
いと、ところも、その中
に光る純真さも、全
てが誇りだったの
だ。

そう言って、微笑み返します。
ファイア（HL）：「……本当にね。
……（自分に言い聞かせるように）
次に会えたのなら、きつと、わか
るはず。そう……次会うときには、
きつと今より幸せに」
アモウレ：「そうだね……今も幸せ
だけれど、次も、きつと」

◆アフターアクト

その後、簡単に経験点計算を済
ませ、感想戦を行った。
HL…では、感想など聞かせてい
ただければとw
シヤス…いやあ、本当にいいシナ
リオになったなと思います、いま
まで私がTRPGやってきた中で
最高のシナリオだと思う！
フロレンツィア…傍観者プレイ面
白かったですー。オーダー出す
シナリオあるなら、またふーちゃ
ん使いたい！
アモウレ…皆さんホント個性的な
PCのロールをされてて、物語に
入り込むことが出来ました。
シナリオも、ボスがこじれた関
係という倒すに倒せない感じの…
。それでもビルギットやシヤス
は果敢に挑んでいったのはなんか、

すげー……となりましたね。

結局最終的に一番印象に残ったのはフロレンツィアさんですね。序盤からなんというか……アモウレ曰く「食えない」、だからこそ印象に残ったといえますかw
ビルギット…戦闘バランスが困りましたね。

フロレンツィア…超火力と超回復の打ち合いでしたし、事故が怖い。

HL…ただ、エングラムがあるので、そうそう事故りませんよ
ビルギット…無効の嵐もいいのか
なって感じ。

アモウレ…実際三回もビブレストでかき消してますしねw

HL……では、そろそろお開きにしましょう。お疲れ様でした！
一同…お疲れさまでした！
